
深谷市中心市街地活性化に関する現況調査 報告書

平成 24 年 3 月

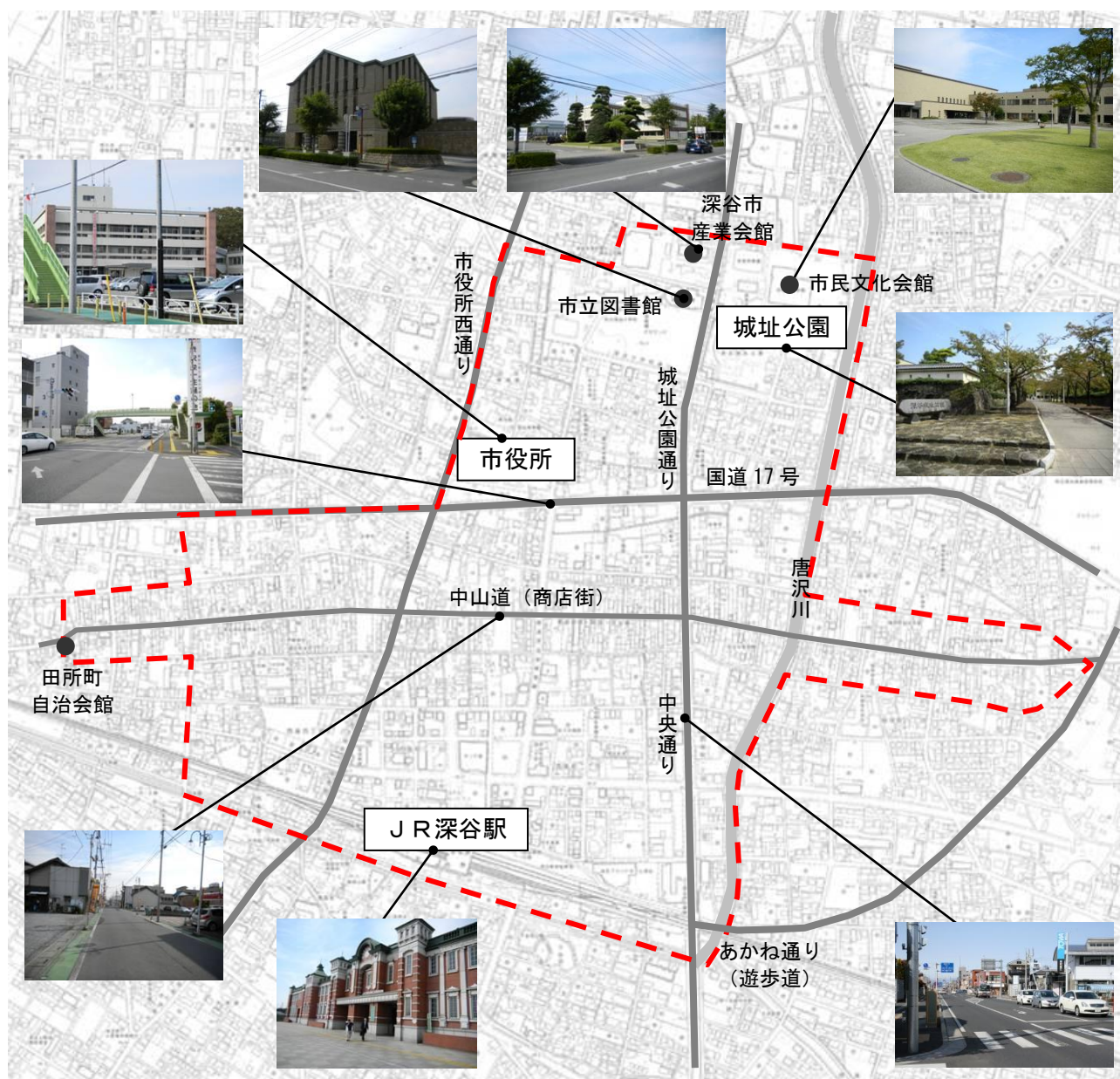
— 目 次 —

1. 深谷市中心市街地の現状	1
(1) 中心市街地の概況	1
(2) 統計データ等に基づく現況分析	2
(3) 地域住民のニーズ等の把握・分析	24
(4) これまでの取組みの評価	31
(5) 中心市街地の課題	40
2. 中心市街地の課題と基本的な方針（市民ワークショップのまとめ）	41
(1) ワークショップの実施概要	41
(2) 中心市街地活性化の課題	43
(3) 中心市街地活性化の将来目標	46
(4) テーマ別の将来目標	46
(5) 中心市街地活性化の提案事業	47
(6) 提案事業のモデル的検討	52
3. 参考資料	57
(1) 市民アンケート調査	57
(2) 職員アンケート調査	89
(3) 大型店利用者ヒアリング調査	96

1. 深谷市中心市街地の現状

(1) 中心市街地の概況

本市の中心市街地は、JR 深谷駅を中心に深谷市役所や産業会館を含む地域である。区域内には東西に国道 17 号が通っており、広域からのアクセス性が高い。また、国道 17 号の南側には中山道が通っており、中心市街地の商店街が形成されている。南北には城址公園通りや市役所西通りが通っており、区域内の幹線道路となっている。区域東側には唐沢川が流れており、城址公園とともに、中心市街地の良好な環境を形成している。



(2) 統計データ等に基づく現況分析

①人口動向

1) 人口・世帯の状況

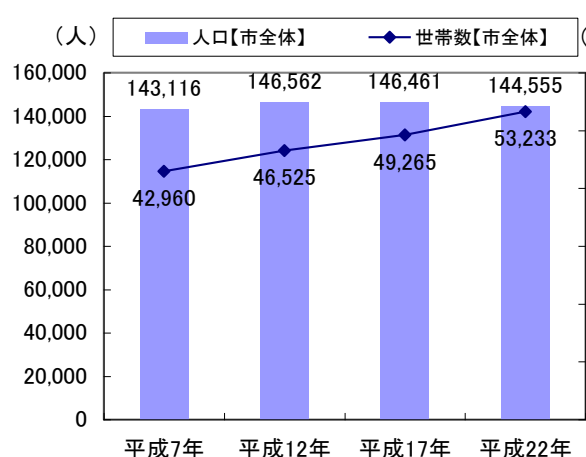
【中心市街地内人口】 6,265 人（平成 12 年）⇒5,937 人（平成 22 年） 【中心市街地内世帯数】 2,327 世帯（平成 12 年）⇒2,510 世帯（平成 22 年）	・ 中心市街地内人口は減少が続いており、中心市街地内人口占有率も減少している。 ・ 中心市街地内世帯数は増加しているが、中心市街地内世帯数占有率は減少している。
---	---

本市全体の人口は平成 17 年まで増加していたが、平成 17 年から平成 22 年にかけて減少に転じており、平成 22 年で 144,555 人となっている。

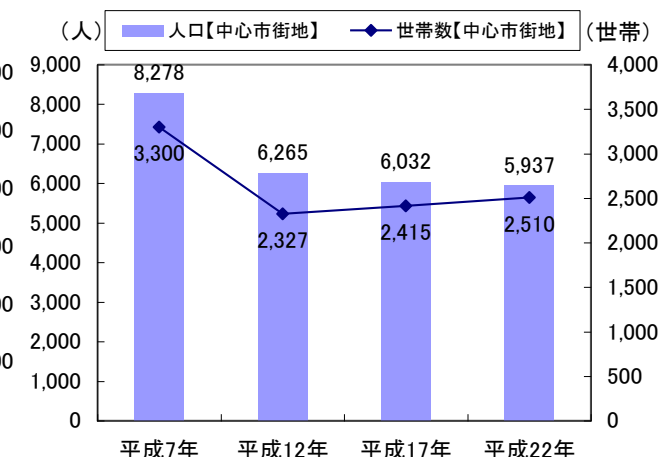
中心市街地内の人口は微減が続いており平成 22 年で 5,937 人となっている。また、市全体人口のうち中心市街地内人口の割合（中心市街地内人口占有率）は減少しており、中心市街地内の人口減少が著しいことを表している。

本市全体の世帯数は増加しており、平成 22 年では 53,233 世帯となっている。中心市街地内の世帯数は、平成 17 年から平成 22 年にかけては微増しているが、市全体世帯数のうち中心市街地内世帯数の割合（中心市街地内世帯数占有率）は減少している。

■市全体の人口・世帯数



■中心市街地の人口・世帯数



■市全体及び中心市街地の人口・世帯数

(人、世帯)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口【市全体】	143,116	146,562	146,461	144,555
世帯数【市全体】	42,960	46,525	49,265	53,233
人口【中心市街地】	8,278	6,265	6,032	5,937
世帯数【中心市街地】	3,300	2,327	2,415	2,510
中心市街地の人口占有率	5.8%	4.3%	4.1%	4.1%
中心市街地の世帯数占有率	7.7%	5.0%	4.9%	4.7%

<国勢調査>

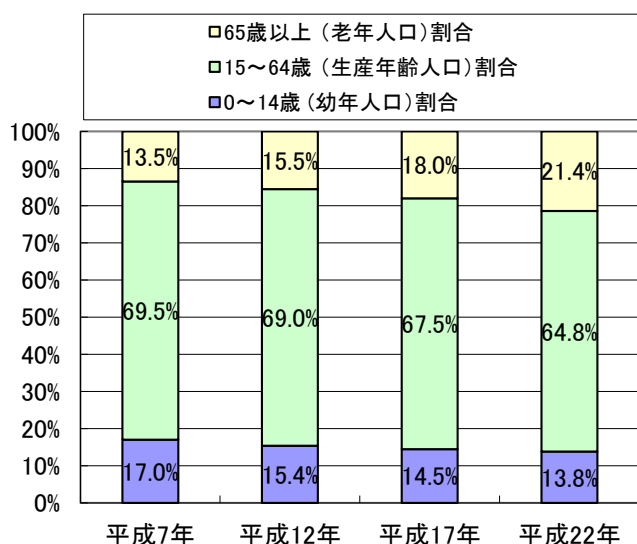
2) 年齢構成の状況

【中心市街地高齢化率】 21.3%（平成7年）⇒26.4%（平成17年） 【中心市街地年少人口率】 13.1%（平成7年）⇒10.6%（平成17年）	・ 少子高齢化が進んでおり、市全体と比較して、中心市街地の高齢化率は高く、幼年人口率は低い。
---	--

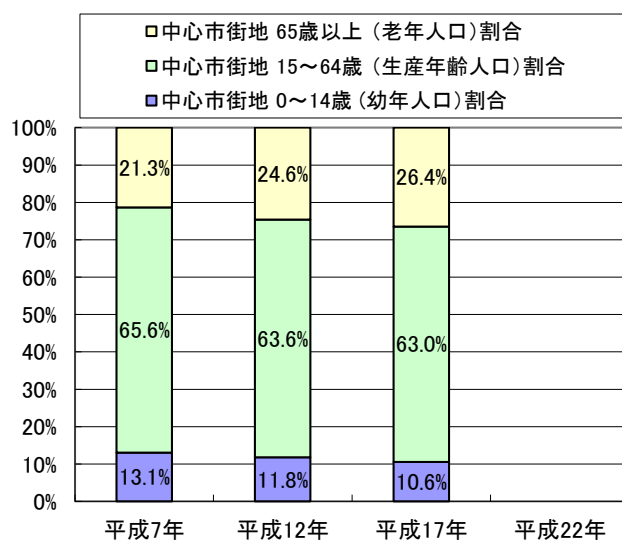
年齢別人口構成比では、市全体では、65歳以上人口構成比は18.0%（平成17年）であるが、中心市街地では、65歳以上人口構成比が26.4%と、市全体と比較して高齢化が進展していることが窺える。10年前と比較しても、中心市街地の高齢化率が市全体と比較して加速化していることが分かる。

幼年人口割合（0～14歳）も、中心市街地内は市全体と比較して、少子高齢化が進捗しており、生産年齢人口割合（15～64歳）も減少している。

■市全体の年齢構成



■中心市街地の年齢構成



■市全体及び中心市街地の年齢構成

（人）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
深谷市全体人口（不明除く）	143,108	146,548	146,435	144,470
0～14歳（幼年人口）	24,380	22,599	21,232	19,930
0～14歳（幼年人口）割合	17.0%	15.4%	14.5%	13.8%
15～64歳（生産年齢人口）	99,458	101,190	98,795	93,614
15～64歳（生産年齢人口）割合	69.5%	69.0%	67.5%	64.8%
65歳以上（老年人口）	19,270	22,759	26,408	30,926
65歳以上（老年人口）割合	13.5%	15.5%	18.0%	21.4%
中心市街地の人口（不明除く）	6,858	6,265	5,878	5,937
中心市街地 0～14歳（幼年人口）	896	739	622	
中心市街地 0～14歳（幼年人口）割合	13.1%	11.8%	10.6%	
中心市街地 15～64歳（生産年齢人口）	4,501	3,983	3,702	
中心市街地 15～64歳（生産年齢人口）割合	65.6%	63.6%	63.0%	
中心市街地 65歳以上（老年人口）	1,461	1,543	1,554	
中心市街地 65歳以上（老年人口）割合	21.3%	24.6%	26.4%	

は、小地域別の調査結果が公表されていないため、データなし

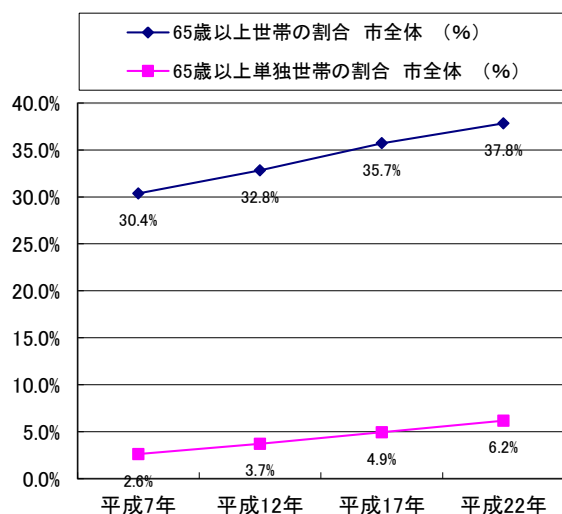
<国勢調査>

3) 高齢者世帯の状況

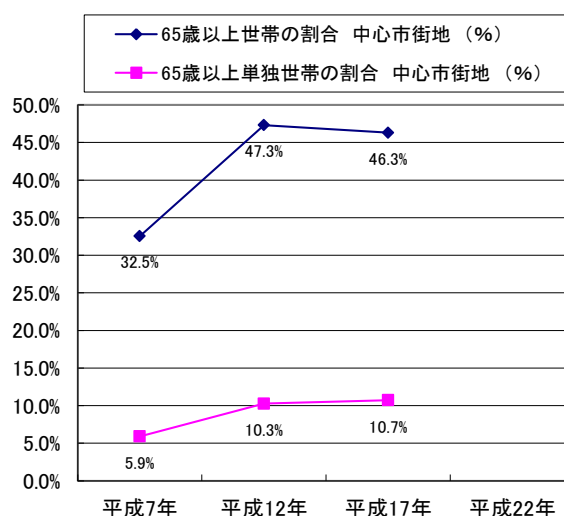
【中心市街地高齢者世帯率】 32.5%（平成7年）⇒46.3%（平成17年） 【中心市街地単身高齢者世帯率】 5.9%（平成7年）⇒10.7%（平成17年）	・中心市街地の高齢者世帯率、単身高齢者世帯率ともに、市全体と比較して高い。
---	---------------------------------------

高齢者世帯（65歳以上世帯）の割合は、市全体では30%から40%の間で推移しており、年々増加している。中心市街地においては、平成17年で46.3%と市全体と比較して高い割合となっている。高齢者単身世帯も、平成17年で10.7%と市全体と比較して高い割合を示す。

■市全体の高齢者世帯数



■中心市街地の高齢者世帯数



■市全体及び中心市街地の高齢者世帯数

(世帯)

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
世帯数 市全体(世帯)	42,960	46,525	49,265	53,233
世帯数 65歳以上 市全体(世帯)	13,044	15,271	17,593	20,138
65歳以上世帯の割合 市全体 (%)	30.4%	32.8%	35.7%	37.8%
世帯数 65歳以上単独 市全体(世帯)	1,121	1,721	2,429	3,281
65歳以上単独世帯の割合 市全体 (%)	2.6%	3.7%	4.9%	6.2%
世帯数 中心市街地(世帯)	3,300	2,327	2,415	2,510
世帯数 65歳以上 中心市街地(世帯)	1,074	1,101	1,118	
65歳以上世帯の割合 中心市街地 (%)	32.5%	47.3%	46.3%	
世帯数 65歳以上単独 中心市街地(世帯)	195	239	259	
65歳以上単独世帯の割合 中心市街地 (%)	5.9%	10.3%	10.7%	

は、小地域別の調査結果が公表されていないため、データなし

<国勢調査>

②就業動向

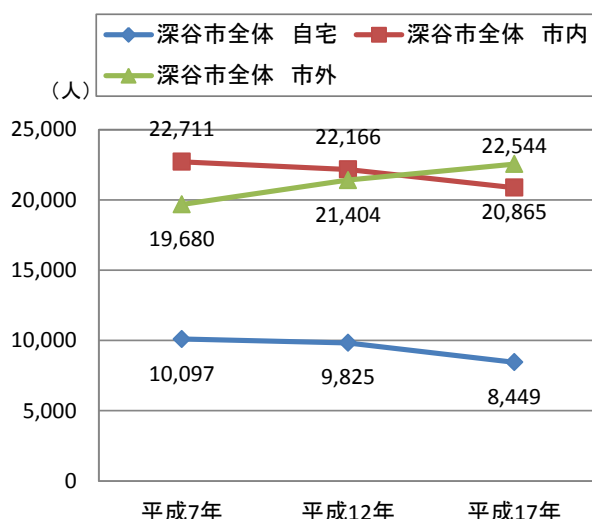
1) 就業者の従業地

【中心市街地の自宅就業者数】 823 人（平成 7 年）⇒749 人（平成 17 年） 【中心市街地の市内就業者数】 1,515 人（平成 7 年）⇒1,071 人（平成 17 年） 【中心市街地の市外就業者数】 1,228 人（平成 7 年）⇒1,098 人（平成 17 年）	・ 中心市街地の就業者数は、自宅、市内、市外ともに減少している。 ・ 市全体と比較して、中心市街地の自宅就業者数の割合が高い。
---	--

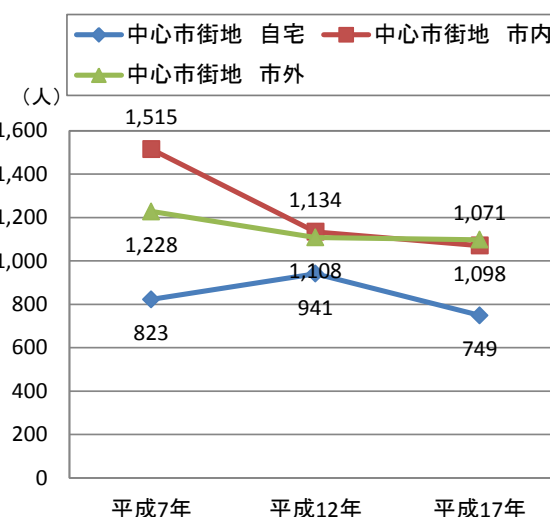
就業者の従業地は、市全体では自宅、市内での就業者数が減少しているが、市外への就業者数は増加している。中心市街地においては、自宅、市内、市外ともに減少しており、全体的に就業者数の減少がみられる。

中心市街地においては、市全体と比較して、中心市街地の自宅就業者数の割合が高く、商店街を中心とした自営業が多いことが窺える。

■市全体（旧深谷市内）の就業者の従業地



■中心市街地の就業者の従業地



■市全体（旧深谷市内）及び中心市街地の就業者の従業地

(人)

	平成7年	平成12年	平成17年
深谷市全体 自宅	10,097	9,825	8,449
深谷市全体 市内	22,711	22,166	20,865
深谷市全体 市外	19,680	21,404	22,544
中心市街地 自宅	823	941	749
中心市街地 市内	1,515	1,134	1,071
中心市街地 市外	1,228	1,108	1,098

< 国勢調査 >

2) 商業の売上及び売場面積

【中心市街地の小売業売上額】

14,110 百万円 (平成 14 年) ⇒ 12,085 百万円 (平成 19 年)

【中心市街地の売場面積】

27,077 m² (平成 14 年) ⇒ 19,731 m² (平成 19 年)

【中心市街地の売場効率】

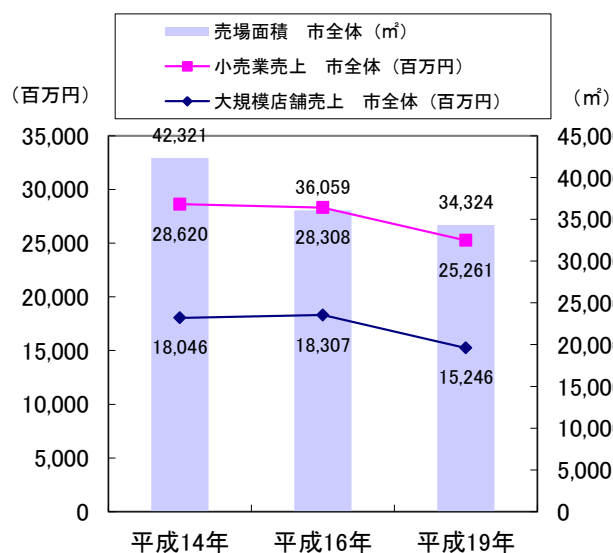
52.11 万円/m² (平成 14 年) ⇒ 61.25 万円/m² (平成 19 年)

- ・ 中心市街地の小売業売上額、売り場面積はともに減少している。
- ・ 売場効率（面積あたりの売上額）は、市全体と比較して中心市街地の方が効率が低い。

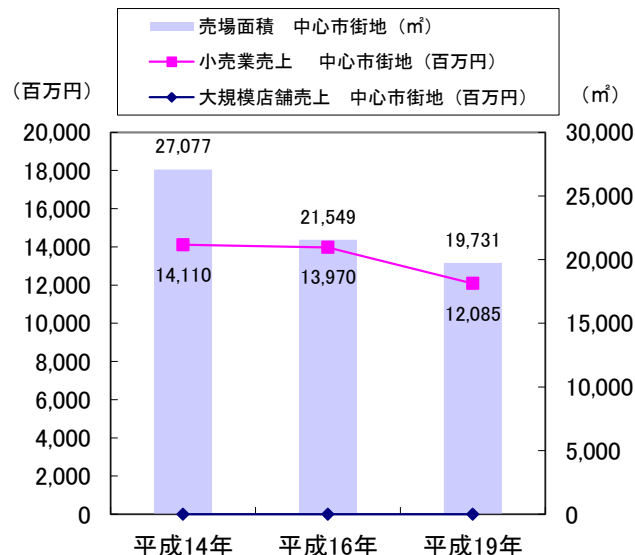
商業の売上額及び売場面積は、市全体、中心市街地ともに減少している。中心市街地では平成 19 年で、小売業売上額が 12,058 百万円、売場面積が 19,731 m²となっている。

中心市街地においてもロードサイドショップの立地等により、売場効率（面積あたりの売上額）は悪化しており、市全体と比較すると売場効率は低くなっている。

■市全体の商業の売上及び売場面積



■中心市街地の商業の売上及び売場面積



■市全体及び中心市街地の売上及び売場面積

(百万円、m²)

	平成14年	平成16年	平成19年
小売業売上 市全体 (百万円)	28,620	28,308	25,261
大規模店舗売上 市全体 (百万円)	18,046	18,307	15,246
売場面積 市全体 (m ²)	42,321	36,059	34,324
売場効率 市全体 (万円/m ²)	110.27	129.27	118.01
小売業売上 中心市街地 (百万円)	14,110	13,970	12,085
大規模店舗売上 中心市街地 (百万円)	0	0	0
売場面積 中心市街地 (m ²)	27,077	21,549	19,731
売場効率 中心市街地 (万円/m ²)	52.11	64.83	61.25

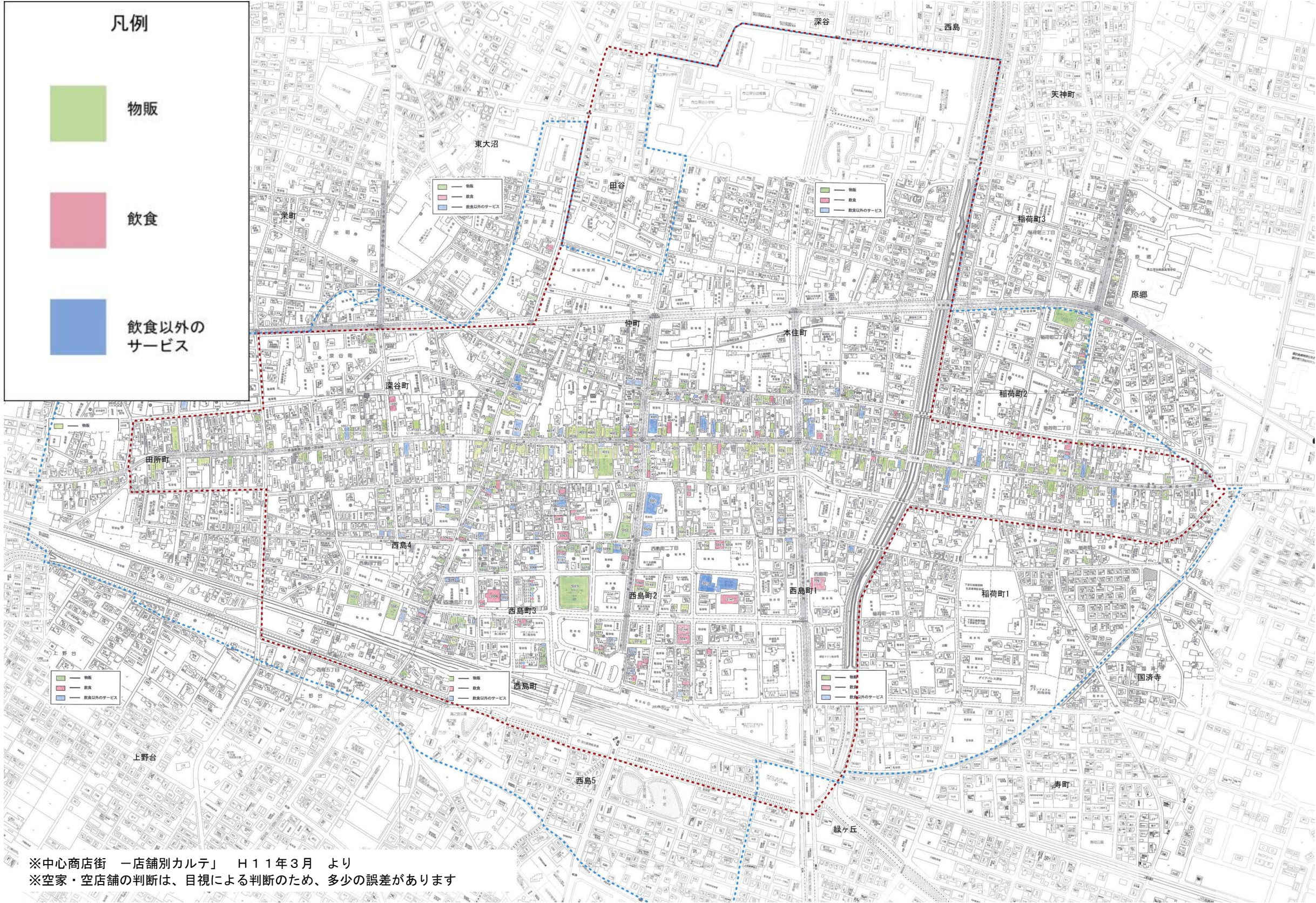
< 商業統計調査 >

3) 店舗業種別の分布状況

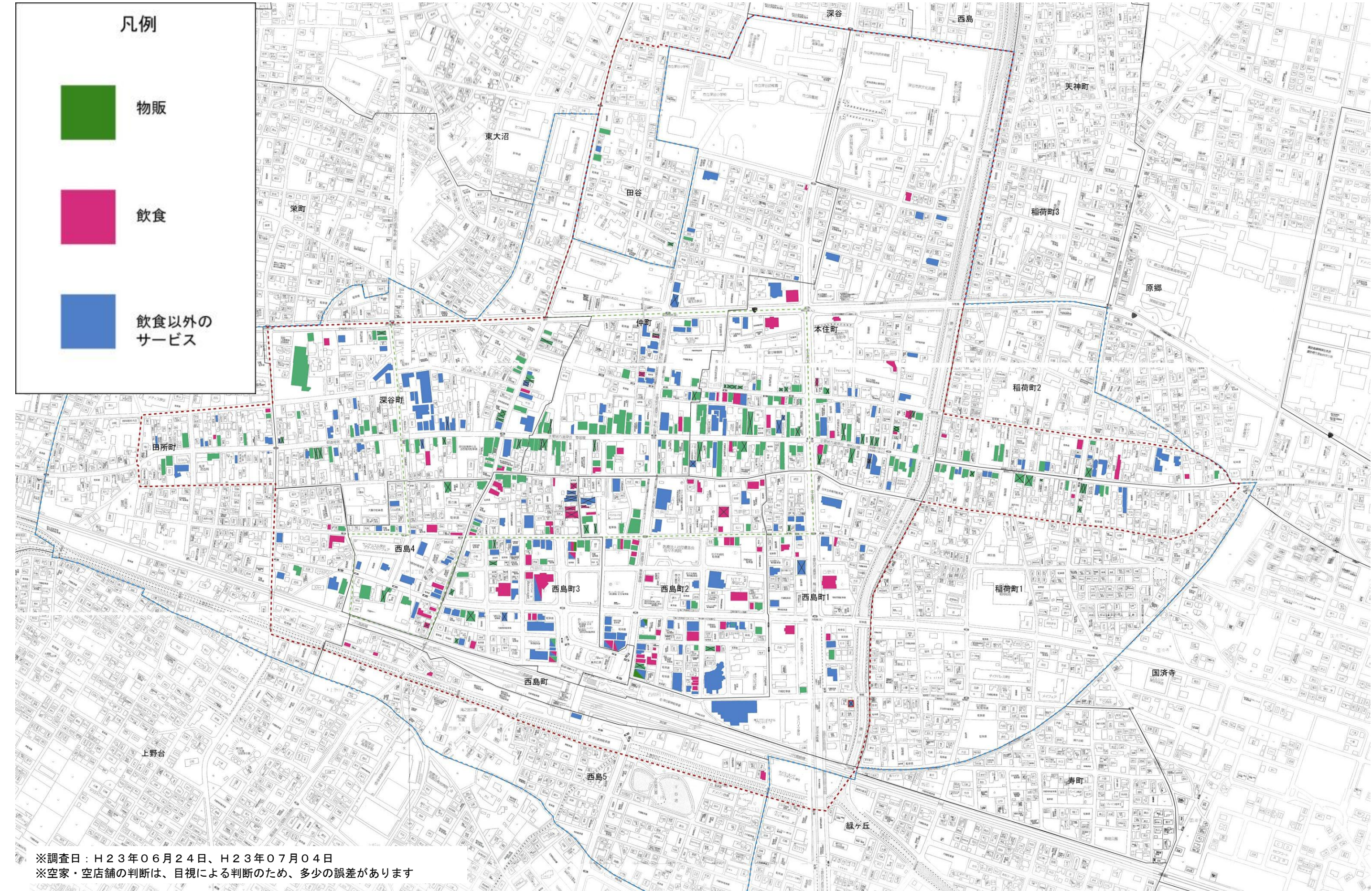
・最近 10 年間で、物販業が減少し、飲食業や飲食以外のサービス業が増加している。

平成 10 年と平成 23 年の店舗業種別の分布を比較すると、中山道沿線の商店街における物販業の減少や深谷駅前のキンカ堂の撤退がみられ、中心市街地衰退の大きな要因となっている。また、中心市街地北側や国道沿線に飲食業や飲食以外のサービス業が増加し、中心市街地内においても、店舗の分散化がみられる。

■平成 10 年度



■平成 23 年度



＜深谷市中心市街地活性化基本構想（平成23年9月）：深谷商工会議所＞

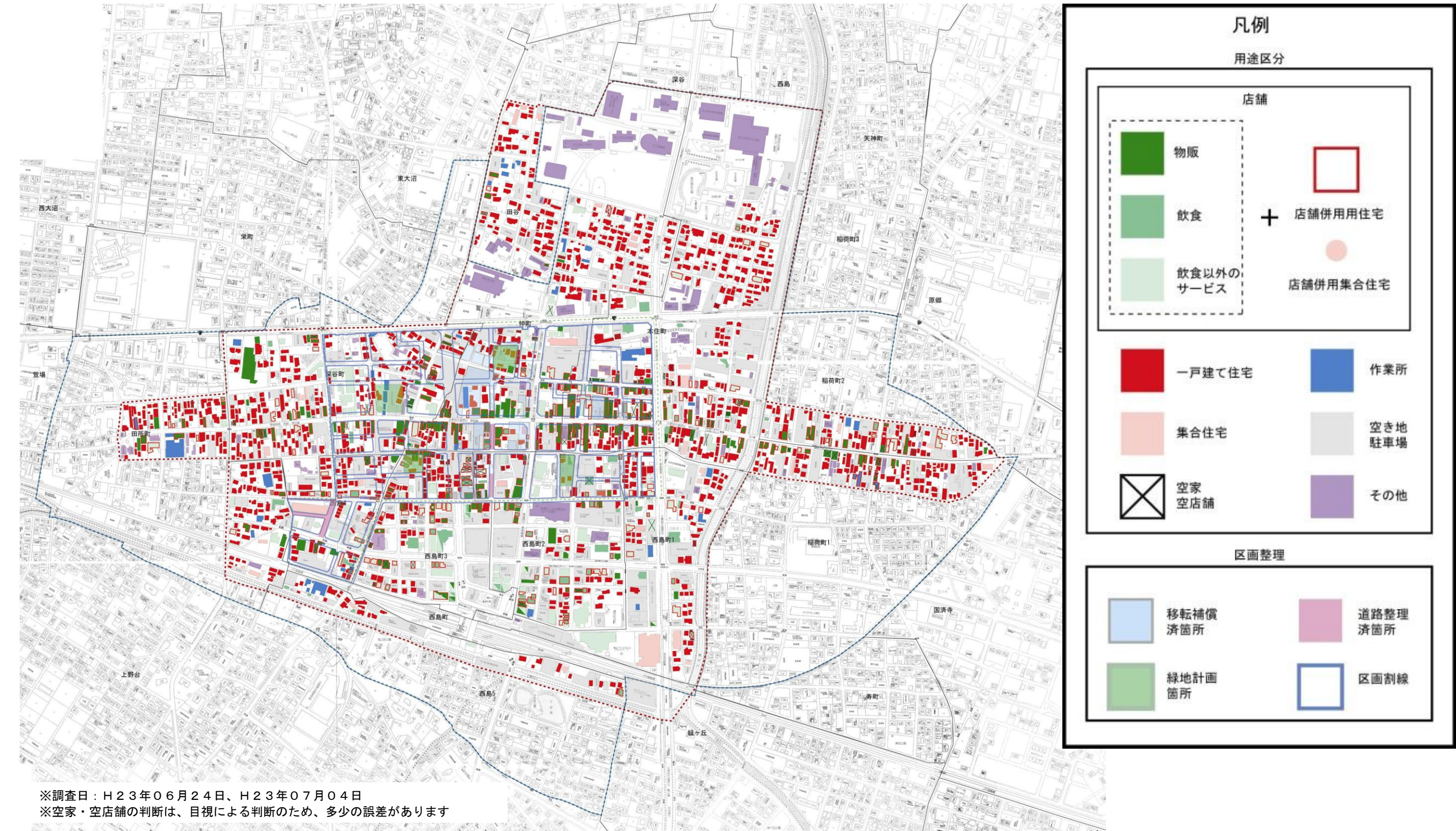
③土地・建物利用状況

1) 建物用途、土地利用の現況

・中心市街地の周辺には一戸建て住宅が多く立地している。

深谷駅周辺や商店街沿道の店舗立地に加え、中心市街地北側にはその他（公共施設等）の生活関連施設が立地している。その周辺には一戸建て住宅が立地しており、中心市街地居住者においては、商業店舗だけではなく、生活利便の整った地域であることがわかる。

■中心市街地の建物用途、土地利用の現況

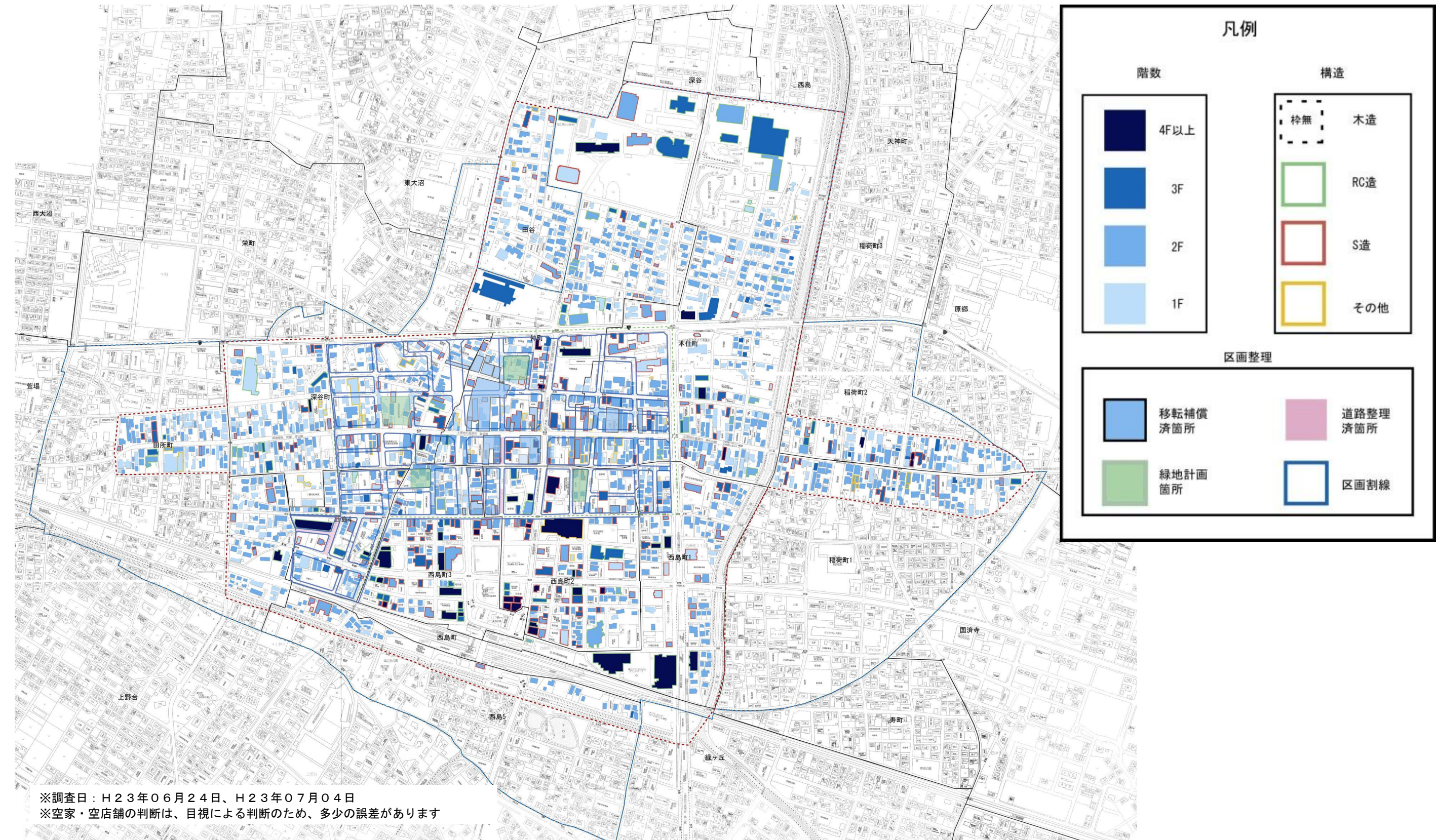


2) 建物構造、階数別の現況

・深谷駅周辺にホテルや共同住宅等の高層の建物が立地している。

深谷駅周辺においてホテルや共同住宅等の4階以上の建物が立地しているとともに、中心市街地内北側の公共施設は2～3階建ての建物が立地している。その周辺の住宅や店舗においては、1～2階建ての低層の建物が中心となっている。

■中心市街地の建物構造、階数別の現況

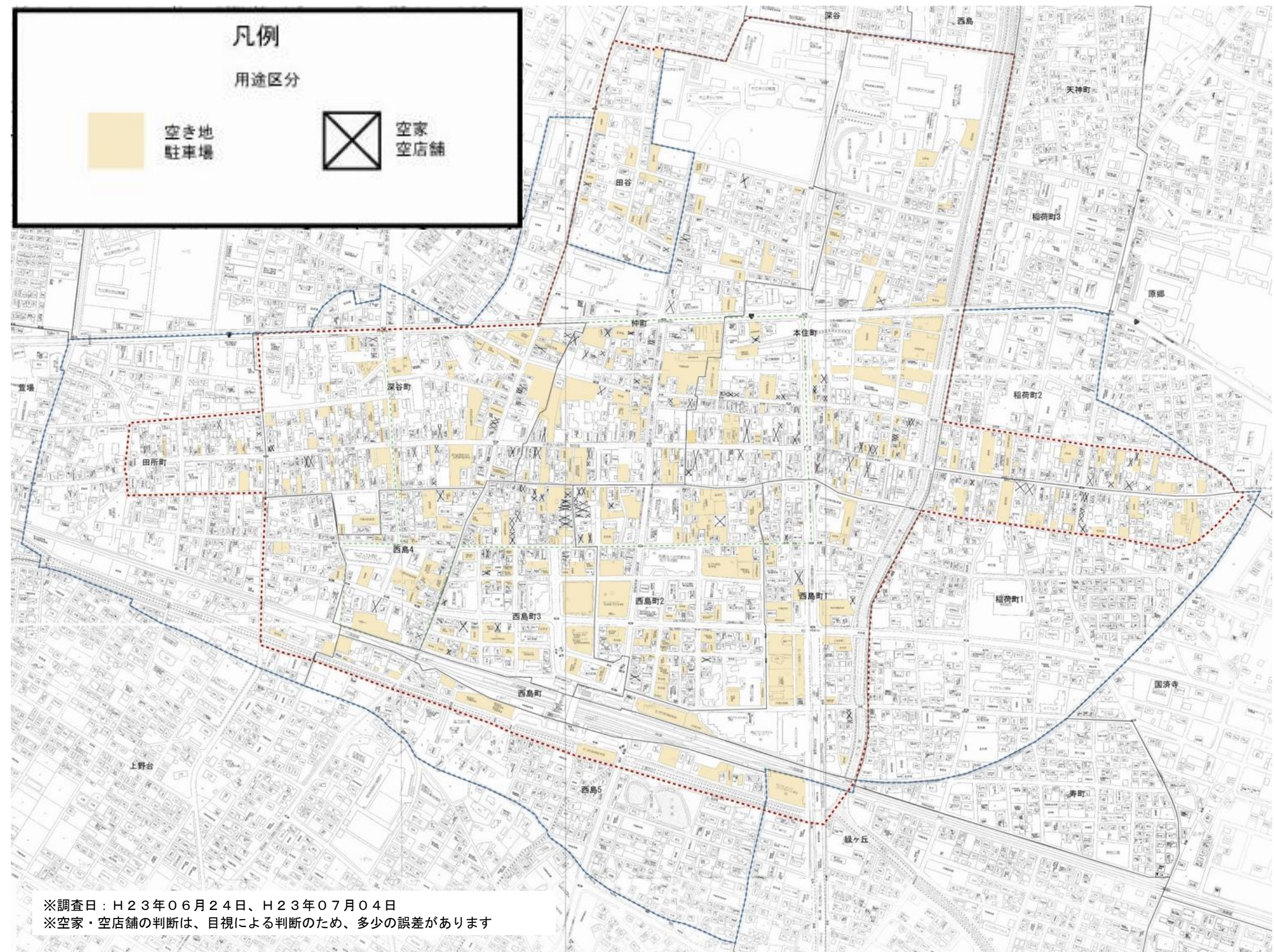


3) 空家、空き店舗、低未利用地の状況

・ 空き地・駐車場が多く、商店街沿線には空家・空き店舗もみられる。

中心市街地全体において、空き地・駐車場が多く、中心市街地ににぎわいの喪失の一要因となっている。中山道の商店街沿線やその周辺には空家・空き店舗もみられ、これらの低未利用地の活用が求められる。

■空家、空き店舗、低未利用地の状況



＜深谷市中心市街地活性化基本構想（平成23年9月）：深谷商工会議所＞

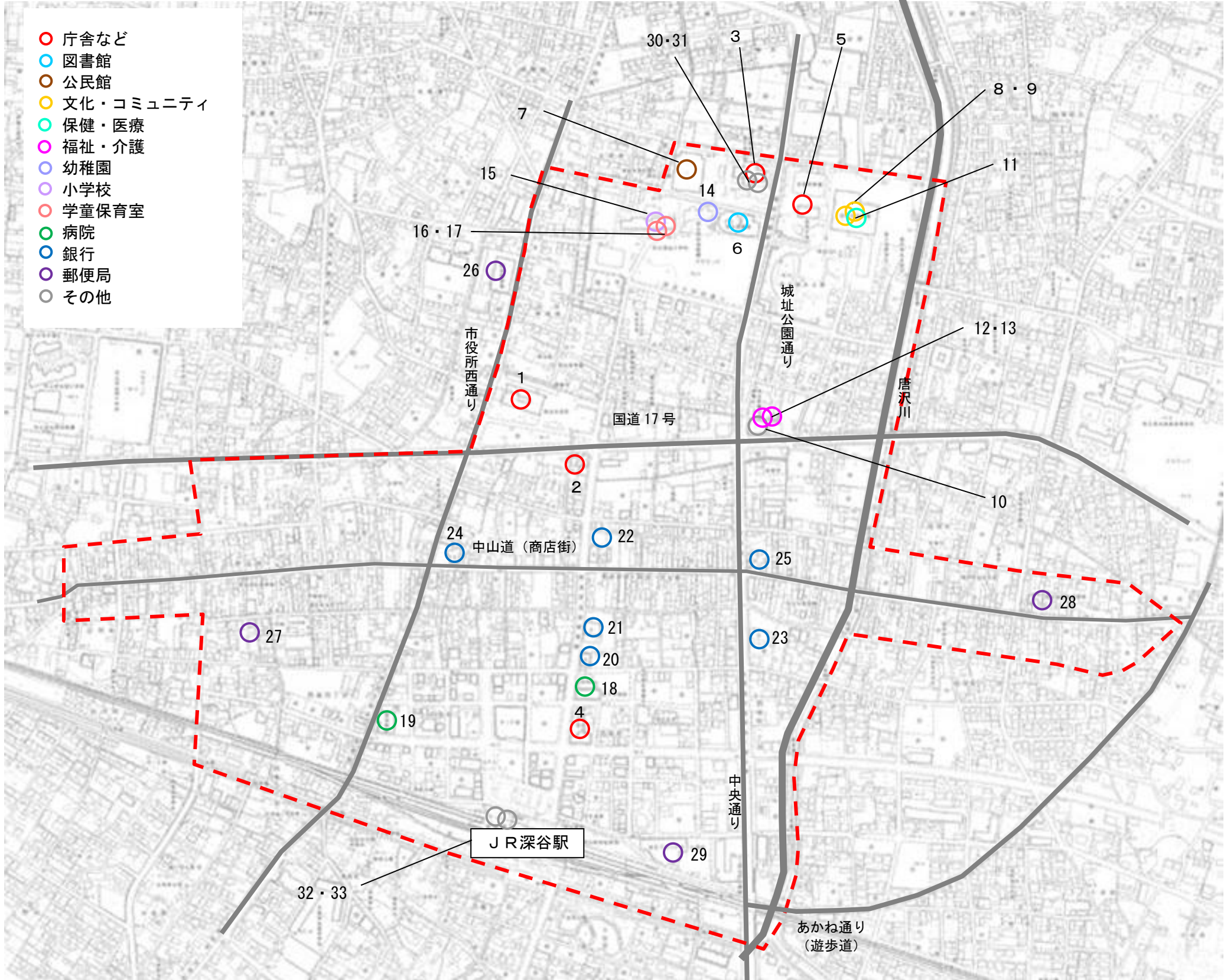
④都市福祉施設の立地状況

1) 公共施設等の立地状況

・中心市街地北側を中心に、公共公益施設が集積している。

中心市街地内の国道 17 号以北においては市役所や商工会議所、図書館、コミュニティセンター、深谷小学校や深谷幼稚園などの公共公益施設が集積、深谷駅周辺には医療施設や金融機関が立地しており、中心市街地内の生活利便性を高めている。

■公共施設等の立地状況



■公共施設等の一覧

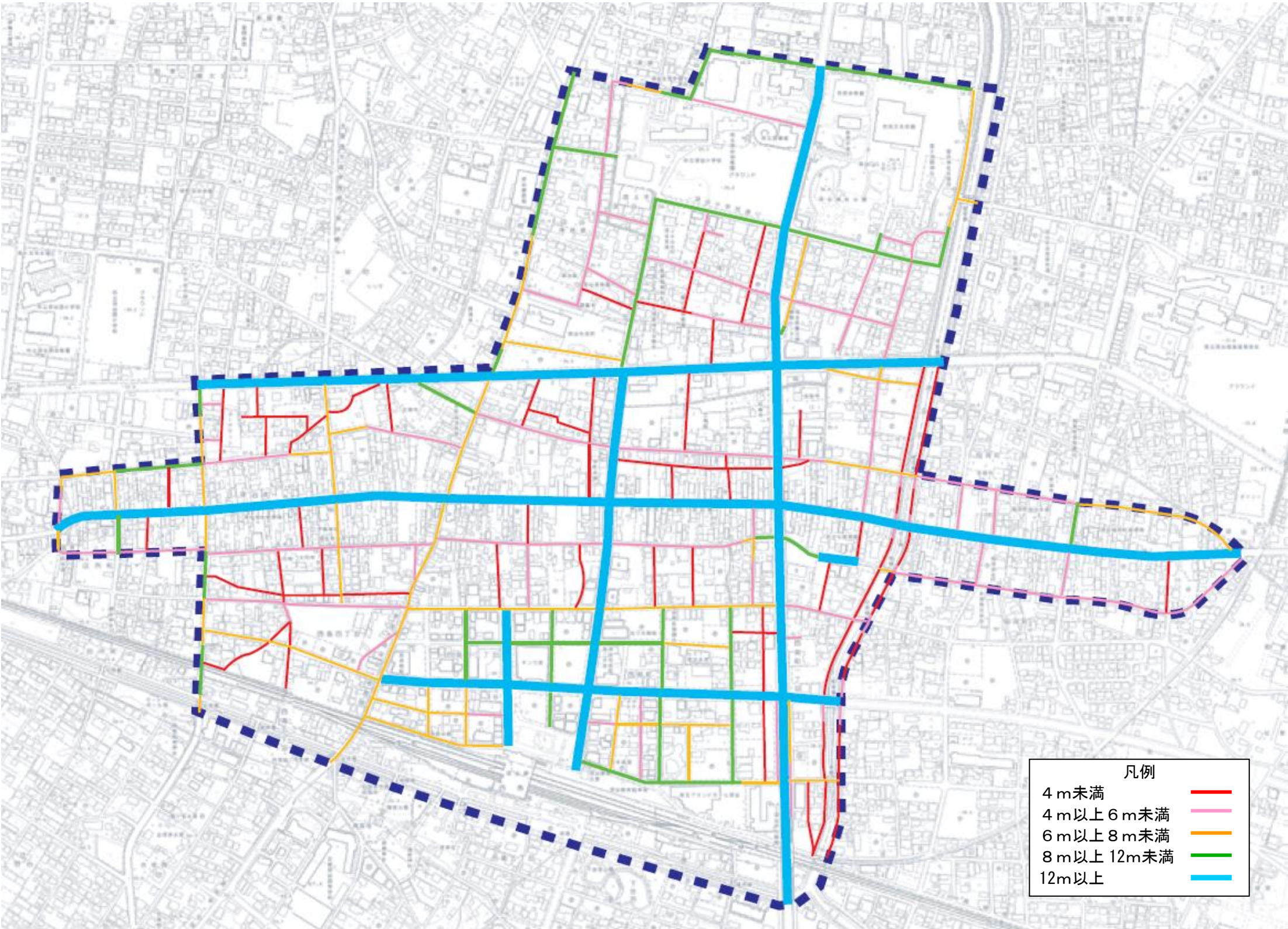
1. 深谷市役所
2. 深谷市役所南別館
3. 深谷市役所産業会館内分室
4. 深谷市第二庁舎
5. 深谷市教育庁舎
6. 深谷市立図書館
7. 深谷公民館（深谷生涯学習センター）
8. 深谷市民文化会館
9. 深谷コミュニティセンター
10. 深谷市立教育研究所
11. 深谷市保健センター
12. 深谷市社会福祉協議会
13. 深谷市ボランティア交流センター
14. 深谷幼稚園
15. 深谷小学校
16. 第一深谷学童保育室
17. 第二深谷学童保育室
18. 佐々木病院
19. 皆成病院
20. 埼玉懸信用金庫
21. 埼玉りそな銀行
22. 足利銀行
23. 東和銀行
24. 群馬銀行
25. 埼玉信用組合
26. 深谷郵便局
27. 深谷相生郵便局
28. 深谷稲荷町郵便局
29. 埼玉グランドホテル深谷内郵便局
30. 深谷商工会議所
31. 深谷市産業会館
32. 深谷市観光協会
33. 深谷市深谷駅市民サービスセンター

⑤道路幅員の状況

- ・ 国道 17 号や中山道、中央通りなどの広幅員道路が骨格をなす。
- ・ 商店街周辺や住宅地においては狭隘道路が存在する。

中心市街地区域内には、国道 17 号や中山道といった広幅員道路が横断しており、中央通りや駅前通りなどが縦断している。その他の道路については、深谷駅周辺においては概ね 6 m 以上の道路で形成されているが、商店街周辺や周辺住宅地については 4 m 未満道路も存在し、防災上の改善が求められる。

■道路幅員の状況



<道路台帳より>

⑥公共交通の利便状況

1) 鉄道

【深谷駅の1日平均乗降客数】

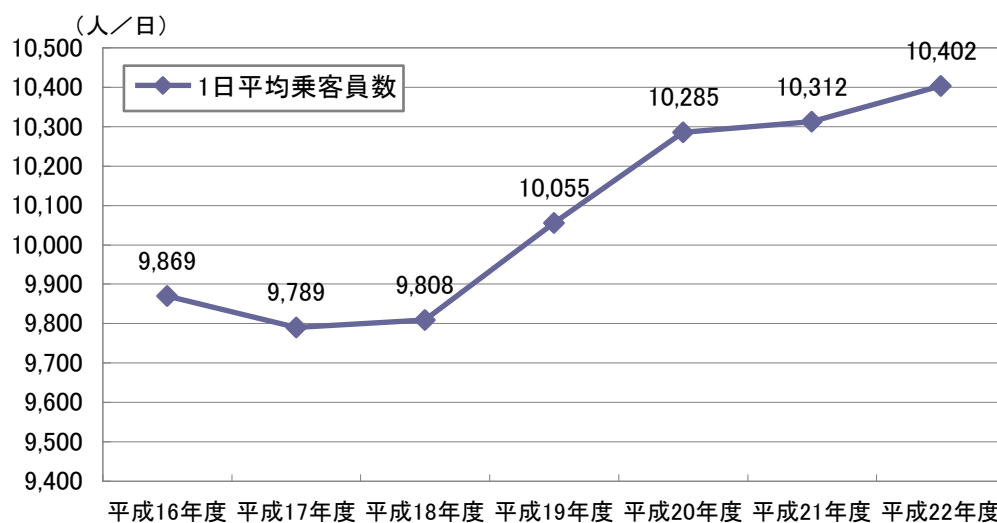
9,869人（平成16年）⇒10,402人（平成22年）

・深谷駅の1日平均乗降客数は、平成17年度以降、増加している。

深谷駅の1日平均乗降客数は、平成16年度から平成17年度で減少していたものの、平成17年度以降は増加しており、平成22年度では10,402人となっている。

一般客の利用は、約2,700人程度で横ばいに推移しているが、定期券利用客は年々増加しており、日常的な利用が多くみられる。

■深谷駅の1日平均乗降客数の推移



■深谷駅の乗降客数の推移

年度	乗客員数	旅客	
		一般	定期券利用客
平成16年度合計	3,602,185	999,005	2,603,180
1日平均	9,869	2,737	7,132
平成17年度合計	3,573,001	990,036	2,582,965
1日平均	9,789	2,712	7,077
平成18年度合計	3,579,834	991,381	2,588,453
1日平均	9,808	2,716	7,092
平成19年度合計	3,680,194	1,018,608	2,661,586
1日平均	10,055	2,783	7,272
平成20年度合計	3,754,142	1,020,630	2,733,512
1日平均	10,285	2,796	7,489
平成21年度合計	3,763,934	981,777	2,782,157
1日平均	10,312	2,689	7,622
平成22年度合計	3,797,032	980,171	2,816,861
1日平均	10,402	2,685	7,717

< J R 高崎支社 >

2) バス路線

・深谷駅北口から市内各方面へ、深谷市コミュニティバスと民間バスが通っている。

中心市街地区域内には、深谷駅北口を起点として市内各方面へのバス路線（深谷市コミュニティバス「くるリン」7系統、および民間バス2系統）が通っている。



■ 深谷市コミュニティバス
「くるリン」系統凡例

①	深谷 北コース東循環
②	深谷 南コース東循環
③	深谷 北コース西循環
④	深谷 南コース西循環
⑤	岡部シャトル便(17号経由)
⑥	岡部シャトル便(南岡経由)
⑦	川本経由花園シャトル便

■ 民間バス路線凡例

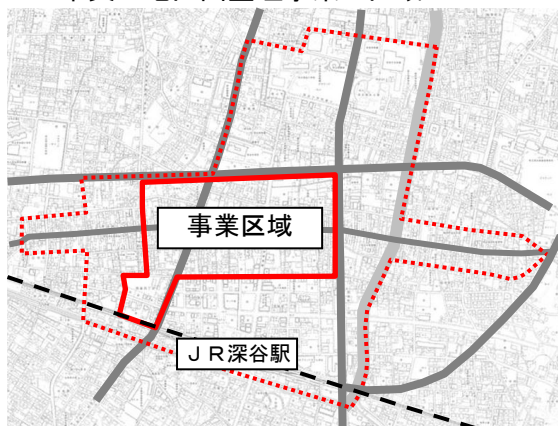
- A 国際十王バス 籠原駅経由 熊谷駅行
- B 武蔵観光バス GP・玉淀駅経由 寄居車庫行

⑦市街地整備の状況

- ・中央土地区画整理事業は徐々に進捗している。

中央土地区画整理事業は、平成 23 年 3 月 31 日現在で総事業費進捗率が 10.2%、基本事業費進捗率が 31.9%となっている。今後、公共施設整備や建物移転が進むことにより、商店街周辺や駅周辺のにぎわいの創出が期待される。

■中央土地区画整理事業の区域

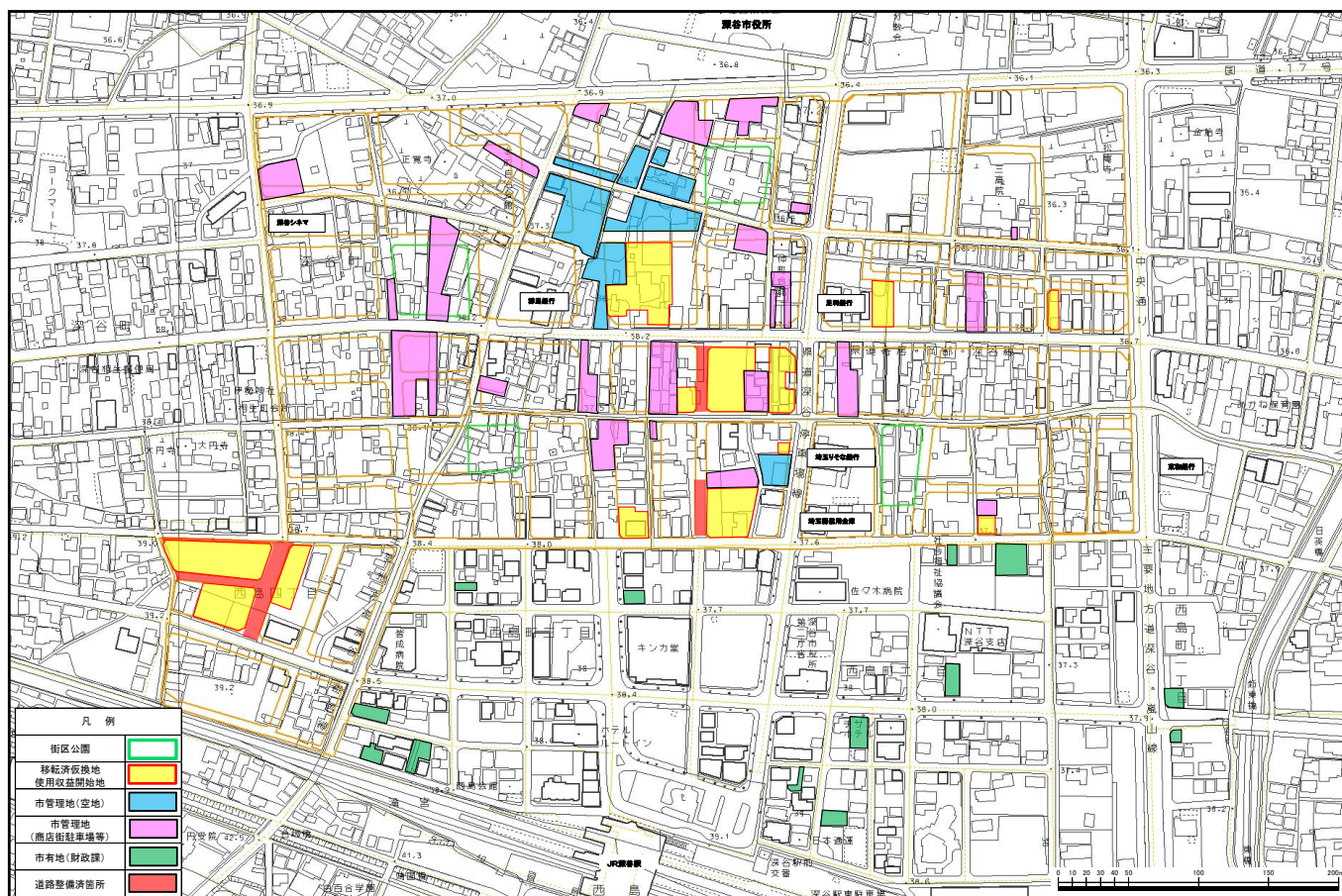


■事業進捗状況

総事業費進捗率	10.2%
基本事業費進捗率	31.9%
公共施設整備費進捗率	1.3%
建物移転費進捗率	8.2%
建物移転済戸数	35戸
移転戸数進捗率	7.8%

平成 23 年 3 月 31 日

■中央土地区画整理事業 整備状況図



<区画整理課>

(3) 地域住民のニーズ等の把握・分析

②市民アンケート調査

1) 調査概要

調査概要	中心市街地のにぎわいの創出に向けて、市民の中心市街地の利用目的、頻度とともに、中心市街地（商店街）を利用しない理由や中心市街地に望むこと、活性化のイメージ等を把握し、今後の中心市街地活性化の取組に向けた分析を行う。
調査方法	市内にお住まいの方から、2,000名を無作為抽出
調査日時	平成23年12月5日（月）～平成23年12月16日（金）
回収状況	854票（回収率：42.7%）

2) 調査結果

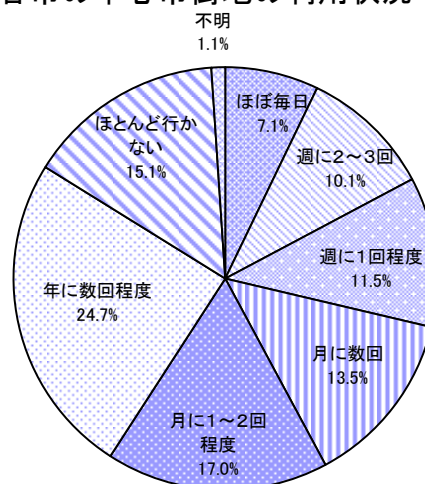
◆深谷市の中心市街地（深谷駅や市役所の周辺）の利用状況

郊外居住者の中心市街地の利用状況は少ない。

深谷市の中心市街地の利用状況は、年に数回が24.7%となっており、次いで、月に1～2回程度が17.0%となっている。

属性別にみると、深谷市外居住者は中心市街地の利用が少ないことがわかる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）



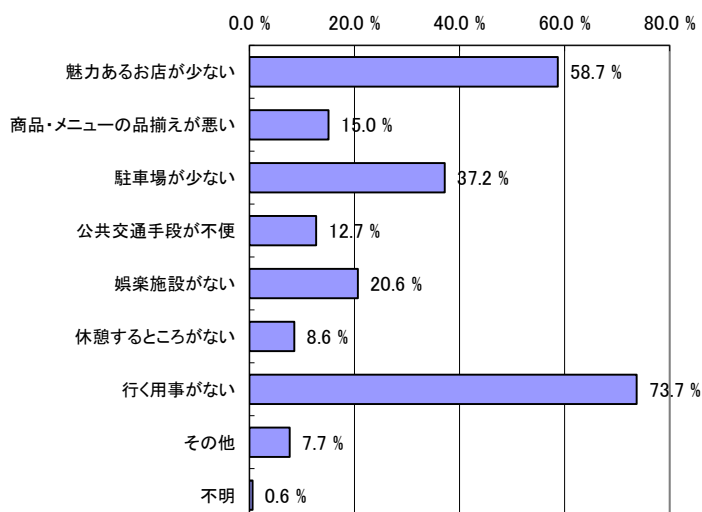
◆深谷市の中心市街地を利用しない理由

若者にとっては娯楽施設や魅力あるお店が少ないことが利用しない理由としてあげられる。

中心市街地を利用しない理由として、行く用事がないが73.7%となっており、次いで、魅力あるお店が少ないが58.7%、駐車場が少ないが37.2%となっている。

属性別にみると、特に深谷市外居住者が行く用事がないと回答している。10歳代～30歳代の若者は娯楽施設がないや魅力あるお店が少ないが、利用しない理由としてあげられる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）



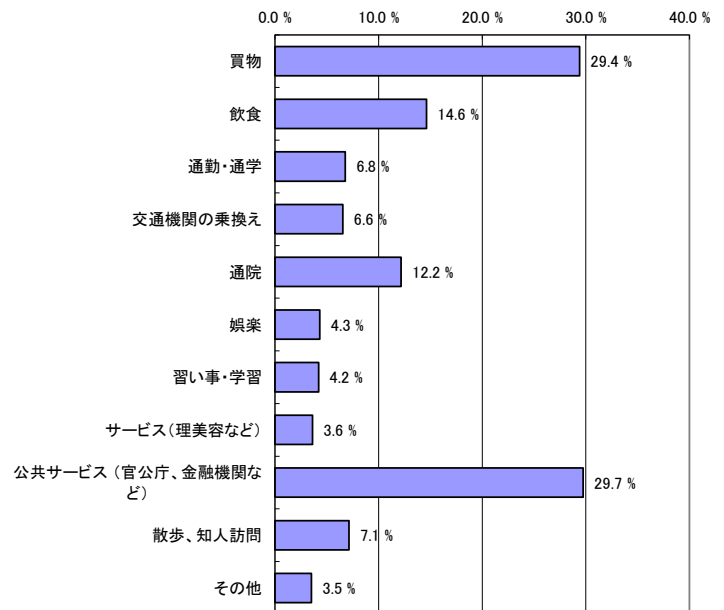
◆中心市街地を利用する目的

公共サービスや年齢に合わせた生活の場としての利用が多い。

中心市街地を利用する理由としては、公共サービス（官公庁、金融機関など）が 29.7%と最も多く、次いで買物が 29.4%となっている。

属性別にみると、20～40 歳代で通勤・通学や飲食の利用が多くなっており、70 歳代以上では通院の利用が多くなってることから、市民の生活の場として中心市街地の利用が多くみられる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）

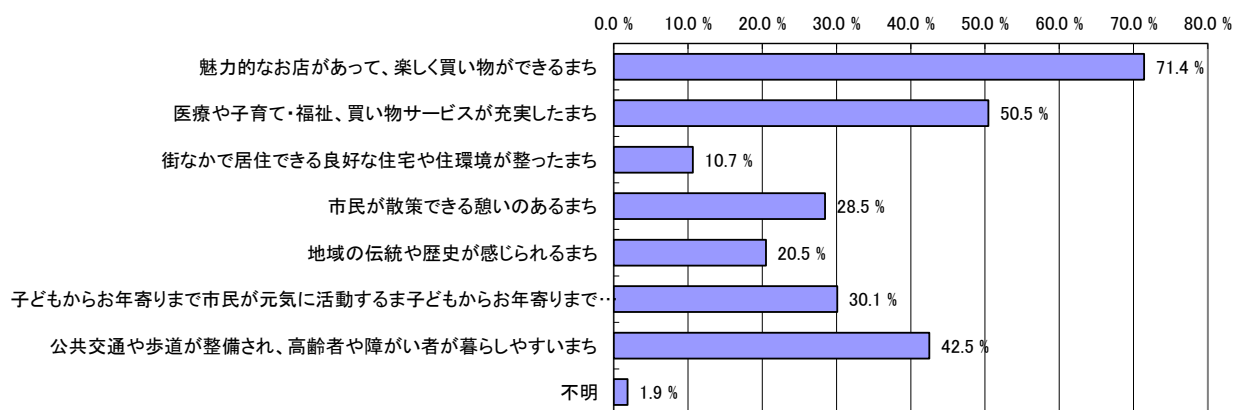


◆今後の中心市街地の方向性

今後の方向性として、生活サービスの充実や、高齢者等も暮らしやすい場所が求められる。

今後の中心市街地の方向性としては、「魅力的なお店があって、楽しい買い物ができるまち」が 71.4%と最も多く、次いで「医療や子育て・福祉、買い物サービスが充実したまち」が 50.5%、「公共交通や歩道が整備され、高齢者や障がい者が暮らしやすいまち」が 42.5%となっている。

図 今後の中心市街地の方向性（全体）

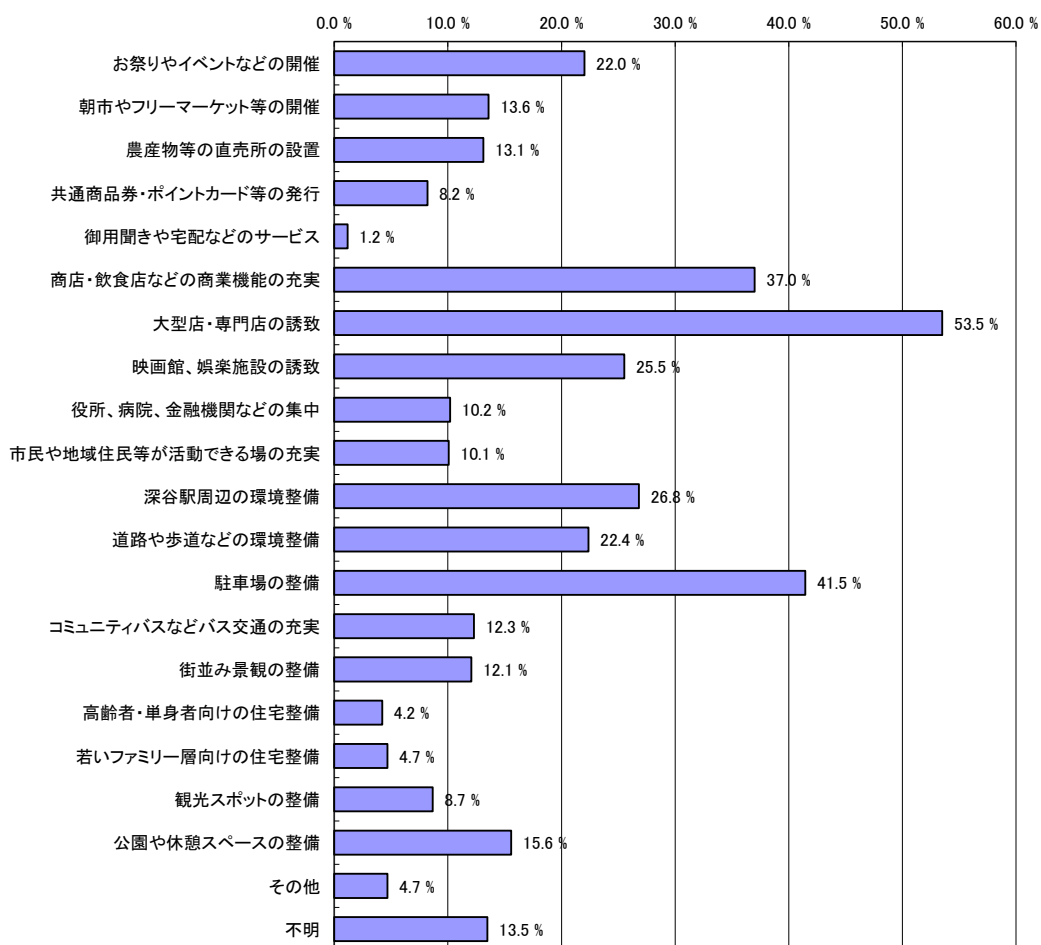


◆中心市街地活性化に必要な取組

中心市街地活性化に必要な取組として、大型店や商店などの商業機能の充実や駐車場の整備が求められている。

中心市街地活性化に必要な取組としては、「大型店・専門店の誘致」が53.3%と最も多く、次いで「駐車場の整備」が41.5%、「商店・飲食店などの商業機能の充実」が37.0%となっている。属性別にみても、この傾向は変わらず、キンカ堂の撤退による商業機能の低下が大きな要因として考えられる。

図 中心市街地活性化に必要な取組（全体）



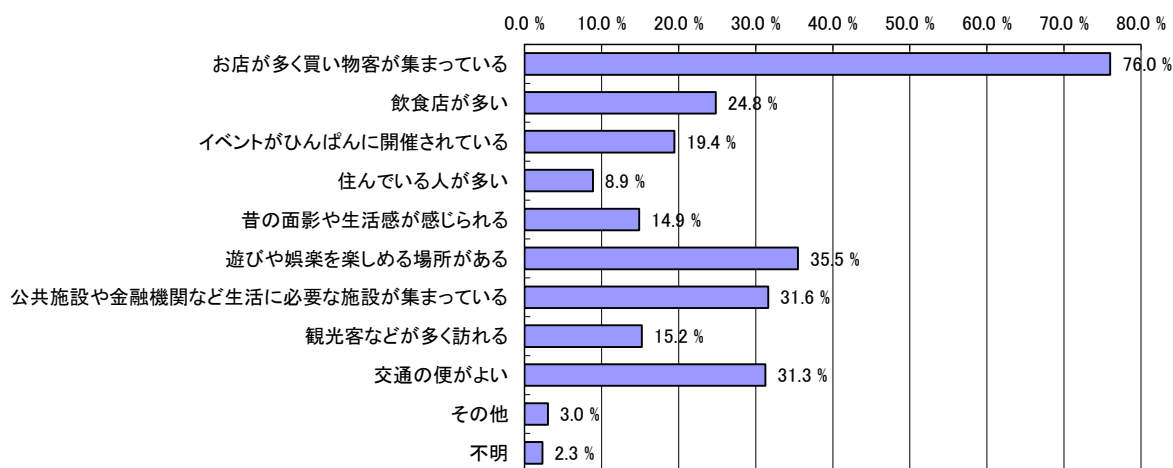
◆「中心市街地のにぎわい」のイメージ

お店の集積が最も求められているほか、若い世代で娯楽やイベント、高齢者では交通の利便性や生活施設の集積が求められている。

「中心市街地のにぎわい」のイメージは、「お店が多く買い物客が集まっている」が76.0%と最も多く、次いで「遊びや娯楽を楽しめる場所がある」が35.5%、「公共施設や金融機関など生活に必要な施設が集まっている」が31.6%となっている。

属性別にみると、若い世代で娯楽やイベントによるにぎわいが求められており、高齢者では交通の利便性や生活施設の集積が求められている。

図 「中心市街地のにぎわい」のイメージ（全体）



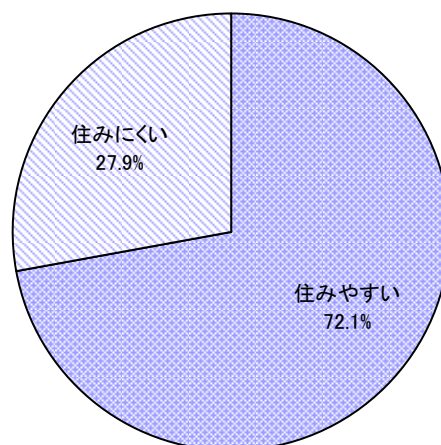
◆中心市街地の住みやすさ

中心市街地居住者の約70%が住みやすいと思っている。

中心市街地居住者のうち、72.1%が住みやすいと思っており、27.9%が住みにくいと思っている。

属性別にみると、特に50～60歳代で住みやすいと思っている割合が高い。

図 中心市街地の住みやすさ（全体）

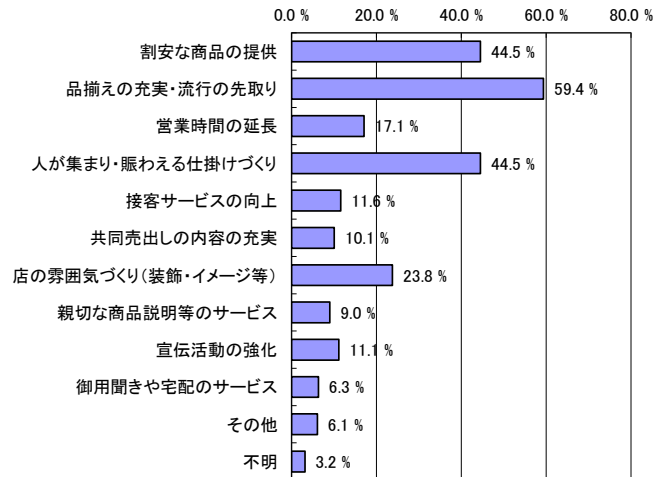


◆商店街に望むもの

商店街に望むものとして、品揃えや割安な商品の提供など個店の努力によるものと賑わいの仕掛けづくりなど全体での取組の両方が求められる。

商店街に望むものとしては、品揃えの充実・流行の先取りが 59.4%と最も多く、次いで、人が集まり・賑わえる仕掛けづくりや割安な商品の提供が 44.5%となっている。

図 商店街に望むもの（全体）



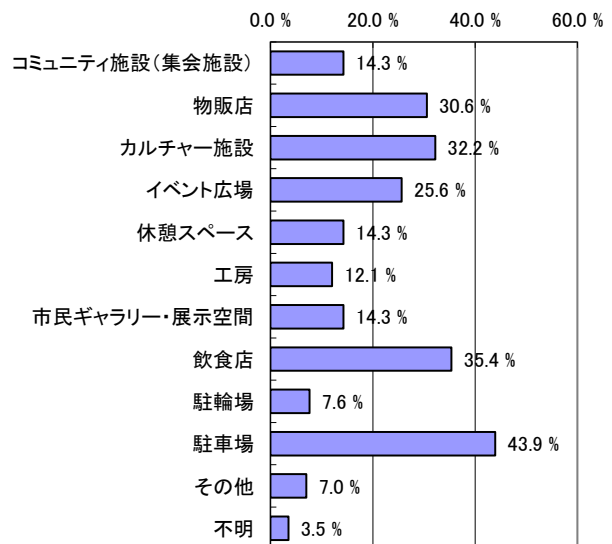
◆空き店舗、空き地の活用方法

今後の方向性として、買物だけではなく、生活の場、高齢者等も暮らしやすい場所が求められる。

空き店舗、空き地の活用方法としては、駐車場が 43.9%と最も多くなっており、次いで、飲食店が 35.4%、カルチャー施設が 32.2%となっている。

属性別にみると、特に若い世代で飲食店や物販店としての活用が求められている。

図 空き店舗、空き地の活用方法（全体）



②大型店（アリオ深谷）利用者ヒアリング調査

1) 調査概要

調査概要	アリオ深谷の利用者に対し、施設の利用目的、頻度とともに、中心市街地（商店街）を利用しない理由や中心市街地に望むことを把握し、今後の中心市街地活性化、利用者の増加に向けた分析を行う。
調査方法	アリオ深谷 1 階及び 2 階駐車場口付近にて、立会いによるヒアリング調査
調査日時	平成 23 年 11 月 29 日（火）10：00～17：00
回収状況	3 2 5 票

2) 調査結果

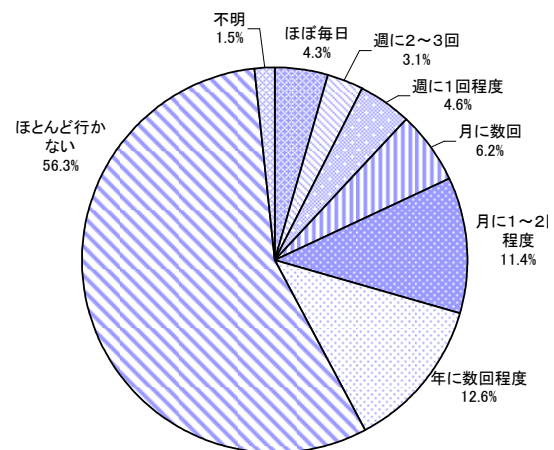
◆深谷市の中心市街地（深谷駅や市役所の周辺）の利用状況

アリオ来店者の中心市街地の利用状況は極めて少ない。

深谷市の中心市街地の利用状況は、ほとんど行かないが 56.3%を占め、年に数回が 12.6%となっている。

属性別にみると、70 歳代以上の高齢者や深谷市外居住者は、中心市街地の利用が少ないことがわかる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）



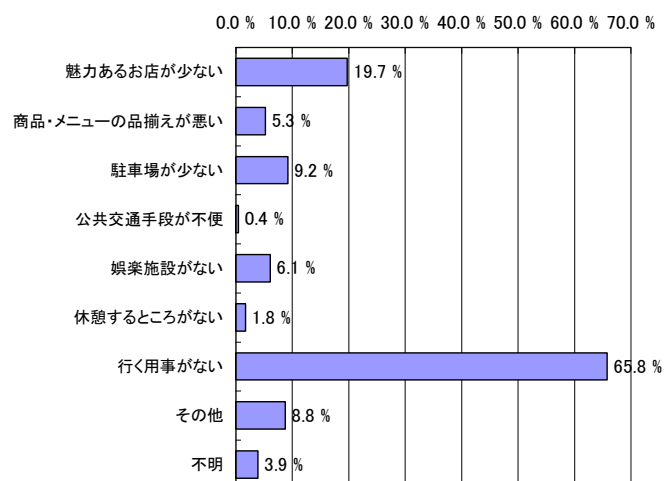
◆深谷市の中心市街地を利用しない理由

中心市街地へ行く用事がないことが、衰退の要因として考えられる。

中心市街地を利用しない理由として、行く用事がないが 65.8%となっている。その他には、魅力あるお店が少ないが 19.7%、駐車場が少ないが 9.2%となっている。

属性別にみると、特に深谷市外居住者や 10 歳代・20 歳代の若者が行く用事がないと回答しており、10 歳代・20 歳代の若者は娯楽施設がないや魅力あるお店が少ないが、利用しない理由としてあげられる。

図 中心市街地を利用しない理由（全体）



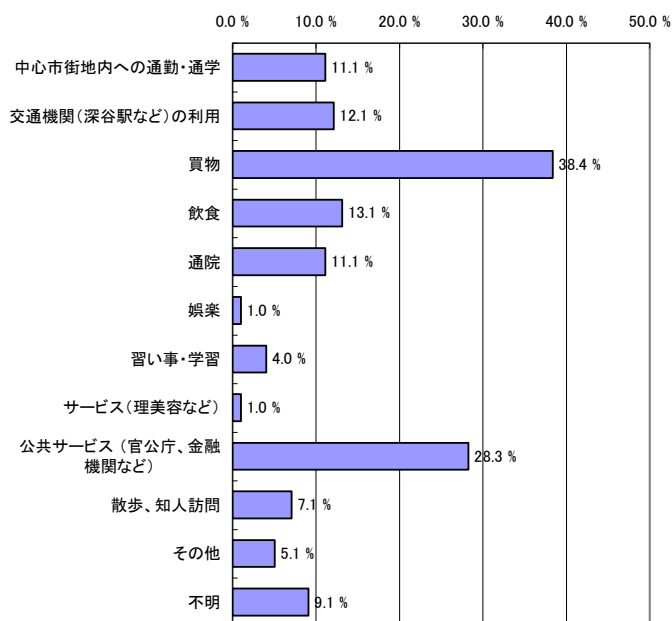
◆中心市街地を利用する目的

中心市街地の利用目的は、買物と公共サービスの利用が多い。

中心市街地を利用する理由としては、買物が38.4%と最も多く、次いで公共サービス(官公庁、金融機関など)が28.3%となっている。

属性別にみると、深谷市内居住者や30歳代・40歳代で公共サービスの利用が多くなっており、買物以外には市民の生活の場として中心市街地の利用が多くみられる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）

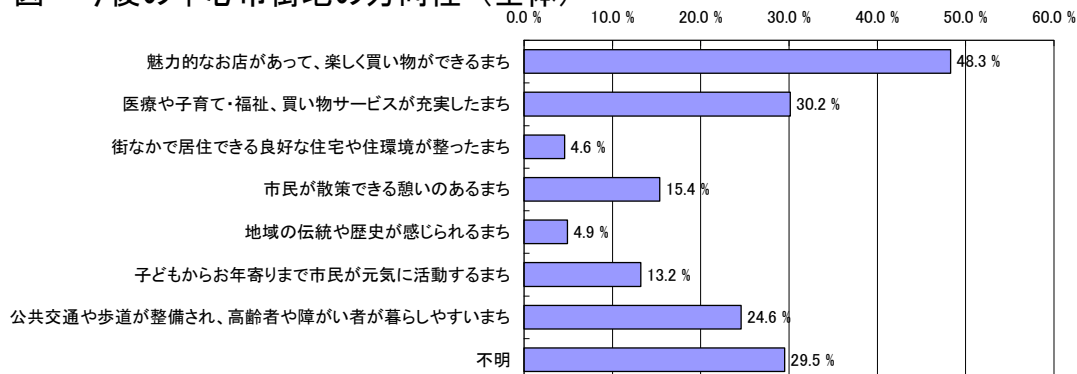


◆今後の中心市街地の方向性

今後の方向性として、買物だけではなく、生活の場、高齢者等も暮らしやすい場所が求められる。

今後の中心市街地の方向性としては、「魅力的なお店があって、楽しい買い物ができるまち」が48.3%と最も多く、次いで「医療や子育て・福祉、買い物サービスが充実したまち」が30.2%、「公共交通や歩道が整備され、高齢者や障がい者が暮らしやすいまち」が24.6%となっている。商業の活性化とともに、生活サービスの充実や高齢者等への対応が求められる。

図 今後の中心市街地の方向性（全体）



(4) これまでの取組みの評価

① 事業の進捗と課題

- ・市街地の整備改善事業の今後の進捗に期待。
- ・事業主体が明確になっていない事業は進んでいない。

事業の進捗状況をみると、市街地の整備改善事業においては土地区画整理事業をはじめ、長期間を有する事業が多いため実施中の事業が多く、今後の成果が期待できます。主体別にみると、市や民間が主体の事業において未着手事業が多く、特に民間事業においては旧計画においても実施主体が明確に示されていない事業もみられる。

■内容別の事業進捗状況

事業内容	完了	実施中	未着手	合計
市街地の整備改善事業 (21事業)	2	10	9	21
	9.5%	47.6%	42.9%	100.0%
商業の活性化事業 (21事業)	7	5	9	21
	33.3%	23.8%	42.9%	100.0%

■主体別の事業進捗状況

事業主体	完了	実施中	未着手	合計
国・県	1	2	0	3
	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
市	1	6	11	18
	5.6%	33.3%	61.1%	100.0%
深谷TMO	5	2	0	7
	71.4%	28.6%	0.0%	100.0%
民間	2	5	7	14
	14.3%	35.7%	50.0%	100.0%

② 各種事業の成果（完了、実施中事業）

- ・商店街や個店を対象と事業はコンスタントに実施されている。

完了事業では、深谷 TMO が主体の商店街や個店を対象とした事業が多く、空き店舗対策や開業支援等により一定の成果がみられる。今後、市街地の整備改善事業の進捗やイベント事業の継続的实施による成果が期待できる。

1) 完了事業（9 事業）

深谷市教育研究所・深谷市福祉交流センター建設事業	
実施時期	H20～H21 年度
実施主体	深谷市福祉課
事業概要	中央地区と中山道沿道地区（東側）に施設を建築。その結果、利用者が12%増加し、ボランティア活動団体が76%割増加した。
ウォーキング・トレイル事業	
実施時期	H23 年度
実施主体	埼玉県
事業概要	唐沢川沿道を利用し、水と緑の遊歩道空間を整備した。具体的には、花壇、張出テラス、休憩広場、ベンチ、車止め等を整備した。

個別の施設整備に対する支援（開業者等に対する支援）	
実施時期	H18～H20 年度
実施主体	深谷 TMO
事業概要	「めんや一翁」の開業に向けて支援し、地場産の活用、市街地の回遊性の創出。店舗のつながりが生まれ、来街客の増加と回遊性の創出大きく寄与した。
個別の施設整備に対する支援（開業者等に対する支援）	
実施時期	H14～H22 年度
実施主体	深谷 TMO
事業概要	「深谷シネマ」におけるミニシアターの設置等を支援し、映画館の無かった深谷市に 30 年ぶりに映画館の復活になり市内や近隣から多くの来場者を迎えた。
個別の施設整備に対する支援（開業者等に対する支援）	
実施時期	H15～H22 年度
実施主体	深谷 TMO
事業概要	活性化サロン一休「BOX マーケット」として、BOX の設置、展示スペースの設置を行った。中心市街地の動きを幅広く市民に PR し、中心市街地に公衆トイレがないため新たに公衆トイレを設置した。BOX マーケットはショップのオーナーを体験。魅力あるギャラリーとして定着させるため、市民の持つ「タレント」の発表の場として提供する。
中心市街地等商店街・商業集積活性化施設等整備事業	
実施時期	H15 年度
実施主体	西島商友会
事業概要	有志により(株)まちづくり深谷を設立し、事業計画を策定したが事業資金と土地の確保が出来なかったため株式会社の解散せざるに至った。
商業・サービス業集積関連施設整備事業	
実施時期	H14～H18 年度
実施主体	深谷 TMO
事業概要	「ヤングプラザ彩商館」において、深谷商業高校の生徒による商いの実習を実施した。近隣の農業高校とのコラボして、若者たちに深谷の中心市街地における課題を知ってもらい、斬新なアイディアと活動力とで活性化に活かした。
空き店舗対策事業	
実施時期	H20～H21 年度
実施主体	深谷 TMO
事業概要	空き店舗を活用し、あいの里「さくら亭」（飲食店）を開業した。 地場産の食材を活用したスローフードの店として深谷名物の煮ぼうとうをメニューとして飲食店を開店。深谷市の推奨品なども利用する。来街者の増加と回遊性の創出に大きく貢献できた
中心市街地等商店街・商業集積活性化施設等整備事業	
実施時期	H14～H22 年度
実施主体	深谷 TMO
事業概要	中山道ギャラリー、活性化サロンを設置し、文化交流の場として提供している。

2) 実施中事業 (15 事業)

中央土地区画整理事業	
実施主体	深谷市
事業概要	公共施設の整備改善及び住商混在した土地の区画を整理して利用価値を高め、宅地利用増進を図る。
都市再生区画整理事業（街なか再生型）	
実施主体	深谷市
事業概要	公共用地の先行取得の促進、及び防災上危険な密集市街地で中心市街地等都市基盤が脆弱で整備の必要な既成市街地の再生を推進する。
中小企業労働力確保法に基づく支援事業（生涯学習推進事業等）	
実施主体	深谷商工会議所
事業概要	深谷宿本舗及びにぎわいた市を開催する。
優良建築物等整備事業（特定優良賃貸住宅制度）	
実施主体	埼玉県
事業概要	民間の土地所有者等（賃貸住宅経営者）が一定の基準以上の優良な賃貸住宅を建設し、それを中堅所得者に対して供給する制度。国と埼玉県が賃貸住宅経営者に家賃を減額するための補助を行う。
高齢者向け特定優良賃貸住宅制度	
実施主体	国
事業概要	増大する高齢者単身・夫婦世帯等の居住の安定を図るため、民間活力を活用し、高齢者の身体機能に対応した設計、設備など高齢者に配慮した良質な賃貸住宅ストックの早急な形成を促進する。
交通バリアフリー施設整備事業	
実施主体	深谷市
事業概要	JR 深谷駅の利用者の利便性向上・バリアフリーの推進を図るため、北口及び南口のエントランス部にエスカレーターを設置する。
地区計画制度+街路事業	
実施主体	深谷市
事業概要	歴史的や文化的価値のある建造物の保存・活用等を地区計画等の活用により、景観に配慮した協調的な建築活動を誘導する。
優良建築物等整備事業	
実施主体	深谷商工会議所
事業概要	深谷シネマの整備等に係る支援。
ひとにやさしいまちづくり事業	
実施主体	深谷市
事業概要	高齢者等の社会参加を促進するため、快適かつ安全な移動に役立つ、スロープ、エレベーター、身体障害者用駐車場施設や高齢者等の利用に配慮した市街地の整備改善や建築物整備を促進する。

バスサービスの高度化事業	
実施主体	深谷市
事業概要	高齢者、運転免許証を持たない方などの市内移動における交通手段の確保を主な目的としたコミュニティバスを運行している。 ※市内全域を6台の車両で13路線を運行。
中心市街地等商店街・商業集積活性化施設等整備事業（共同店舗・パティオ・ファサード事業）	
実施主体	深谷TMO
事業概要	ウッドデッキ「フカデッキ」の設置と商業者、生産者の新たな販売の場づくりのためのにぎわい朝市の実施。
イベント開催事業	
実施主体	深谷TMO
事業概要	ミステリーツアーと映画祭を実施している。
商店街等活性化先進事業	
実施主体	深谷商工会議所
事業概要	共同店舗事業計画におけるタウンマネージメント等、商店街の活性化と将来のまちづくりを検討。
中小小売商業高度化事業の推進	
実施主体	深谷商工会議所
事業概要	TMO構想に基づき、平成12年から組織の設立、事業の企画・立案、運営管理を支援している。
タウンマネージャー派遣のための事業	
実施主体	深谷商工会議所
事業概要	TMO構想に基づき、平成12年からタウンマネージャーの派遣。

③イベント等の実施の状況

・年間を通じて、多種多様のイベントが開催されている。

中心市街地においては、春から秋にかけて深谷宿本舗やにぎわいた市、夏に七夕まつりや深谷まつり、秋にはふかや映画祭な産業祭などのイベントが実施されており、年間を通じた多種多様な取組が行われている。

事業主体として、深谷市や深谷商工会議所、深谷市観光協会などによるイベントが多いが、近年では、NPO 団体等の参画もみられ、今後も多様な主体による活動が期待される。

■中心市街地の主なイベント実績（平成 23 年度）

期 日	事 業 名	集客数	備 考
平成23年4月～9月	中山道深谷宿本舗(常設)	4,096人	
平成23年4月～9月	深谷にぎわいた市(月1回)	1,800人	ティッシュ配布数
平成23年7/8(金)～10(日)	深谷七夕まつり	130,000人	
平成23年7/30(土)～31(日)	深谷まつり	40,000人	
平成23年10/15(土)～23(日)	深谷宿ミステリーツアー	648人	実績
平成23年10/16(日)～23(日)	花の街ふかや映画祭	800人	実績
平成23年11/12(土)～13(日)	深谷市産業祭	6,6000人	実績

■中心市街地の主なイベントの概要

中山道深谷宿本舗

事業目的	深谷市の中心市街地や深谷 TMO などに係わる活性化事業を市民や来街者に広く PR するとともに、中心市街地活性化に係わる会議やイベントの場として活用する。
事業主体	深谷商業奉仕会
施設構成	市民が交流するサロン及び会議スペース
事業概要	市民や中心市街地等商業者に対して活性化に係わる会議・集会を開催することにより、市民・商業者相互の交流や活性化への意向醸成を推進する。

深谷にぎわいた市

【事業概要】

夕市は、旧七ツ梅酒造跡を活用し、中心市街地の活性化及び商店の販売促進を図ることを目的に、市民の皆様に地場の野菜・花・工芸品などを良心的な価格で販売しています。商業者・農業生産者の新たな販売の場づくりや、市民の日常生活における楽しみの機会の提供をしています。

【事業主体】

深谷商工会議所



深谷七夕まつり

【事業概要】

深谷七夕まつりは、江戸時代の宿場町の頃に行われていた、星まつりに端を発したといわれ、現在では、深谷市の一大祭行事として、県外からの観光客もたくさん訪れます。期間中は、中山道を歩行者天国にして、色とりどりのくす玉飾りや竹笹、創作飾り、大がかりな仕掛け細工が飾られ、観光客はしばし足を止めて見とれている姿をよく目にします。

【事業主体】

深谷市観光協会



深谷まつり

【事業概要】

深谷まつりは、深谷城内にあった、三社天王（弁財天・大黒天・牛頭天王）を、天和元年（1681年）に立町（現在の相生町）に移し、八坂神社と改称して始まった「八坂まつり」が起源で、三百有余年の歴史があります。

【事業主体】

深谷市観光協会



深谷宿ミステリーツアー

事業目的	中心市街地を題材とするミステリーをもとに、市民が中心市街地を楽しみながら巡ることで、中心市街地に対する関心を集め、深谷宿の歴史や文化の再発見の契機とするとともに、中心市街地のにぎわいの素を作り出し、さらには広域からの集客を行うことで深谷市の知名度の向上を図ることを目的としています。
事業主体	深谷TMO
事業概要	深谷市内在住のミステリー作家・伊井圭氏に、継続的に、中心市街地を題材とするミステリーの執筆を依頼し、これをもとにツアーブックを作成し、ウォーキングツアーを実施している。 平成15年度から開始した「深谷宿ミステリーツアー」は、毎年市民から好評を得ているばかりでなく、市内外の関心を高める効果があることから、深谷市の知名度の向上や市街地の集客向上に貢献している。



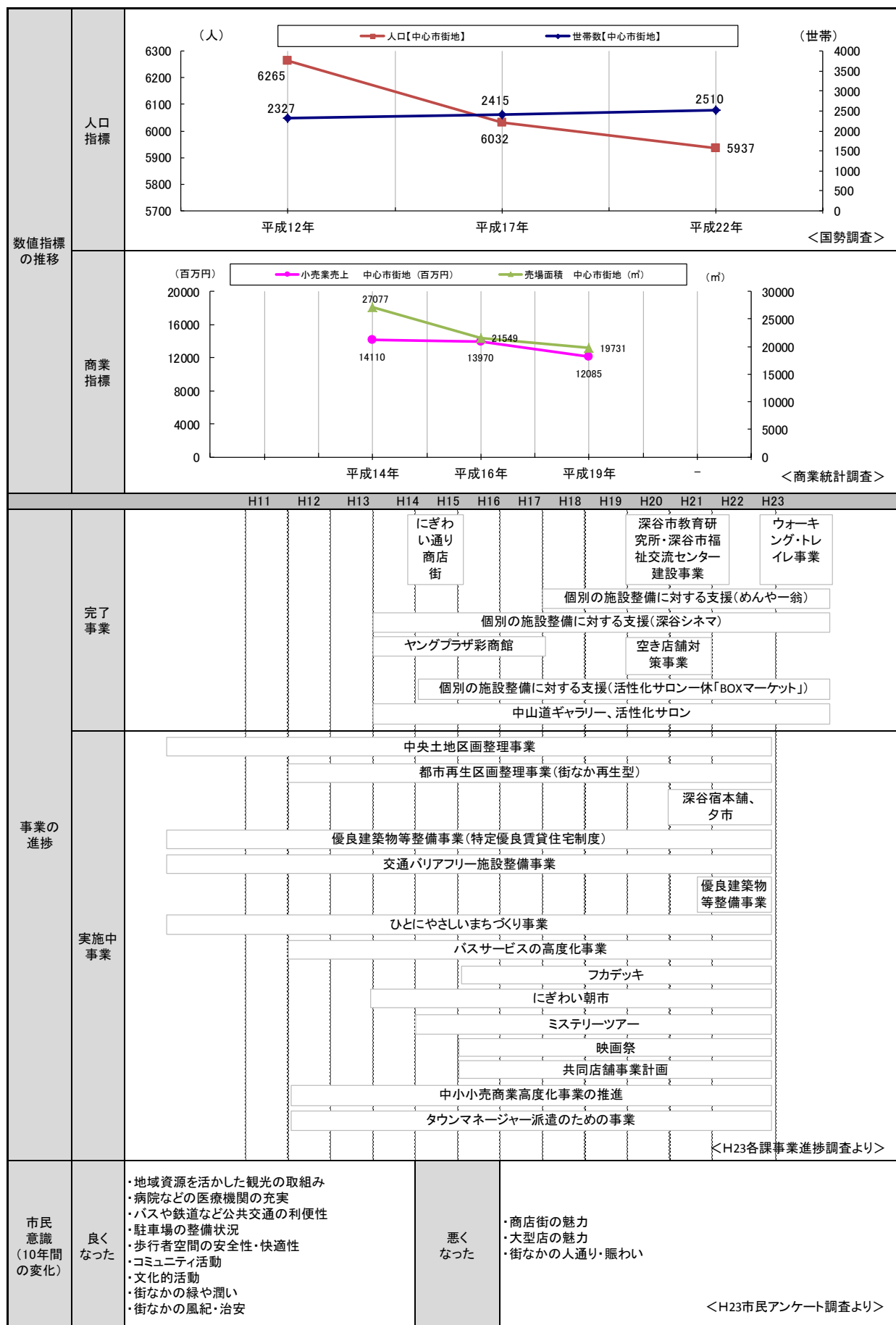
④ 事業効果の検証

1) 市街地整備に関する事業効果

市街地整備に関しては、中央土地区画区整理事業や都市再生土地区画整理事業（街なか再生型）など、実施中であり、長期にわたる事業が多くなっています。そのため、事業実施による居住人口の増加などの効果には直接結びついていませんが、今後、市街地整備に関する事業が進捗することによる事業効果に期待できます。

2) 商業活性化に関する事業効果

商業活性化に関しては、個店の開業支援やイベントの実施など定期的に事業を実施しており、一定の成果はみられます。しかし、中心市街地全体の売上や店舗面積の増加にはつながっていない状況です。また、最近 10 年間においても、商店街や大型店の魅力、街なかの人通り・賑わいに関しては「悪くなった」という市民評価もあり、継続的な事業推進と一体的な取組が求められます。



（５）中心市街地の課題

中心市街地の現状やニーズ、これまでの取組を踏まえ、中心市街地活性化の課題を以下の３点に整理します。

課題１：土地区画整理期間中のにぎわい空間の維持

- ・土地区画整理期間中に生じる空き地等により、中心市街地の賑わいが喪失されつつある。点在する空き地や空家等を有効的に活用し、中心市街地の賑わいを維持していく必要がある。

【活性化の方向性】市民や来街者が滞在できる溜り場づくり

◆市民の交流の場⇒来街者のへの展開

- ・活性化サロン等の取組みの拡充やの空き店舗活用により、地域住民の寄合の場を創出するとともに、来街者への観光や地域資源の案内拠点として展開を図る必要がある。

◆空き地・空き店舗の一時的利用

- ・土地区画整理事業期間中に発生する空き地等を、仮設的なカフェや休憩所としての一時的な利用を図り、市民や来街者の溜り場をつくることが考えられる。

【活性化の方向性】歴史・文化と新しい街並みが調和するルールづくり

◆地域住民主体による景観、街並み形成のルールづくり

- ・区画整理事業に併せて、新しい環境づくりとともに、歴史・文化を活かした景観・街並み形成のルール（まちづくり協定、地区計画等）をつくることが考えられる。

課題２：地域資源や市民活動の効果的な連携

- ・中心市街地内において、多くの歴史的建造物や各種まちづくり・イベント活動などが展開されている。資源のネットワークや活動の連携など効果的な展開により、中心市街地活性化に取り組んでいく必要がある。

【活性化の方向性】対象・ターゲットを絞った回遊づくり

◆市民が回遊できる仕組みづくり

- ・安全な歩行空間を確保するとともに、市民が買い物や散歩等で中心市街地内を回遊できる仕組みを構築する必要がある。

◆来街者が回遊できる仕組みづくり

- ・寺社やレンガ建物などの歴史的建造物などの地域資源を活用し、様々な案内媒体、情報発信により、観光客が回遊できる仕組みを構築する必要がある。

課題３：事業主体の明確化・組織づくり

- ・現計画において、実施主体が記されていない事業は未着手状態であり、事業展開にあたっては、事業主体を明確にするとともに、それを担保する、運営管理する組織づくりが必要である。

【活性化の方向性】多様な主体の連携による多世代交流型の活動

◆高齢者や若者のコラボレーションによるイベント展開

- ・地域住民や自治会、商業者、学校、NPO団体などの多様な主体が連携できる組織をつくる必要がある。
- ・既に取り組んでいる様々なイベント事業と連携し、元気な高齢者の力、高校生などの若い力を活用し、多世代交流できるイベントの連携・拡充を図ることが求められる。

2. 市民ワークショップのまとめ

(1) ワークショップの実施概要

①ワークショップの目的

◆総合性

- ・これまでのイベントや活動を基本とするが、商店街やイベントだけに特化せずに、居住や生活の視点による総合的な中心市街地のまちづくりを考える。

◆主体性（要望から自立へ）

- ・中心市街地に住んでいる人が、どのような街にしたいのか、それを実現するために何をすれば良いのか市民主体で考える。また、市民主体のまちづくりを基本とし、市民がやる気が出るワークショップとする。

◆継続性（新たなネットワーク形成のきっかけ）

- ・本ワークショップを通じて、幅広い分野で意見交換を行い、まちづくりの新たなネットワークを形成するきっかけとする。

②ワークショップの実施方針

- ・本ワークショップでは、中心市街地に住んでいる人を対象として、将来のまちづくりの目標を共有するとともに、どのようなまちづくり事業を考えているかを把握する。つまり、まちづくり事業の検討に留めた場とする。
- ・検討されたまちづくり事業は、(仮称) まちづくり協議会（以下 協議会）で必要なものを選別し実行していく流れとする。
- ・なお、ワークショップで検討した事業は、後日、協議会に報告するという前提で、事業・施策等を整理する。

③ワークショップの流れ

第 1 回ワークショップ:平成 24 年 1 月 23 日(月)

中心市街地活性化に向けた勉強会

【全体】

① 基調講演

- ・【講師】 昌子住江氏 (NPO アクションおっばま理事長)
「多様な主体の連携によるまちづくりの取組」

② 意見交換会

- ・深谷市中心市街地における取組や中心市街地活性化の方向性について市民と講師で意見交換を行います。

第 2 回ワークショップ:平成 24 年 2 月 1 日(水)

中心市街地の“強み”と“弱み”を共有しよう!!

【グループワーキング】

- ① 中心市街地の“強み”と、“弱み”を出し合い、課題と資源を共有する
※ワークシートを活用し、グループごとに意見を出し合う。
- ② “強み”“弱み”を類型化し、まちづくりの課題を共有する

第 3 回ワークショップ:平成 24 年 2 月 21 日(火)

まちづくりの将来目標を考えよう!!

【グループワーキング】

- ① SWOT 分析シートによる“強み”を活かし、“弱み”を改善する方向性の検討
※SWOT 分析の方向性から、実現するために既に取り組んでいる事業、新たに取り組むべき事業・施策を整理
- ② SWOT 分析により、テーマ別の将来目標を検討

第 4 回ワークショップ:平成 24 年 3 月 1 日(木)

市民・地域主体のまちづくり事業・施策を考えよう!!

【グループワーキング】

- ① まちづくりの方向性、既存の取組に関連する事例紹介
※第 3 回の結果を踏まえ、ファシリテーターから関連する全国的な取組事例を紹介
- ② 中心市街地のまちづくりを実現する事業・施策の整理と提案
※第 3 回の目標を踏まえ、実現するために既に取り組んでいる事業、新たに取り組むべき事業・施策を整理
- ③ まちづくり事業・施策の実現に向けた協力者・団体の抽出

（２）中心市街地活性化の課題

①中心市街地の共通課題

キーワード	課題	
	弱み	強み
人	土・日は平日に比べて非常に人通り車通りが少なく、にぎわいが無い。 今後、世帯がだんだん減ってくる。	市全体の人口が増加している。 子どもの登下校の見張りや地域の助け合いができています。 人と人とのつながりが残っており、隣組（近所）が団結している。 街並みを見に来る人やホテル等の宿泊客数が増えている。 アパート・マンションの入住率が比較的高い地域によっては住宅が増加し、若い世代が増えている。
高齢者	高齢者の一人暮らしが増えている。	高齢者の元気・パワーがあり、面倒見る人が多い。 昔から住んでいる土着の人が多い。 友達や顔見知りが多い。
子ども	子どもの数が少ない。 高校生が立ち寄る場がない。	高校生の通行量が多い。
地域資源 ・歴史	休憩するところがない 文化的行事が少ない—広報活動が下手	お寺や神社、造り酒屋、レンガ煙突・レンガ建造物、古い建物等の歴史資源が多い。 1604 年頃に整備された中山道を中心に、路地があり、歴史的温かみのある街並みが形成されている。 花（桜）・野菜・渋沢栄一などの地域資源が豊富である。 「街の映画館」深谷シネマがある 景観モデル地区に指定されている。 素晴らしい駅舎や城址公園などの公共空間がある。

②商店街活性化・イベントに関する課題

キーワード	課題	
	弱み	強み
集まる 場所	—	駅や駐車場があり、通勤する人のアクセスが多い。 公共施設(市役所・学校)や病院・銀行などがある。 ホテルなどの宿泊施設がある。
商業・店舗	商店街にお店・商品が減少しており、空き店舗が多い(シャッター通り)。 おしゃれな店や若い人向けの店が少ない。 魅力ある店、新しい系統の店が少ない。 衣類品・飲食店が少ない。 大型店・専門店、スーパー(食品)がない(スーパーの撤退)。 商店街の閉店が早く、20時以降は人がいなくなる。 物販商店は、外販割合が増えている。	生鮮三種(食料品店)が残っている。 年配の方向けの店が残っている。 チェーン店以外の地元店が多い。 お土産に持っていく店がある。 昔ながらの店があり、面白いお店がある。 やる気のある店主が残っている。 老舗の店の客が増えている。 大手・FCの飲食店が増えている。
商店街の 活性化	商店街の人通りが少なく、さみしい。 商店の後継者不足(高齢化)。 まち歩きに便利なマップがない。 「煮ぼうとう」が食べられる店が旧中山道商店街(街中)にない。 観光資源が少ない。 休憩スペースが少ない。 町の景観が保たれていない。 店舗個々の魅力が弱く、集客数の多い商店(施設)がない。 市街地への出店が少ない。	お菓子屋さんが多い。 自転車で遊び回れる街並み形成されている。 利用できそうな空き地がある。
イベン ト・ソフト 事業・活動	自治会費が毎年少なくなっている。 祭りの参加者がだんだん少なくなっている。 人が集まるためのソフト対策が不十分である。 歴史ある深谷文化が活かされていない。	老人会の活動が盛んである。 お祭りなど歴史的行事を継続されている。 食べ歩きができる店・資源がある。 祭り、七夕、産業祭などの実施により一時的なにぎわいがある(人手が多い)。 映画やテレビのロケがあり有名である。 セツ梅に来る人、ネットで調べて深谷に来る人などマニアックな来街者がいる。

③生活・安全安心に関する課題

キーワード	課題	
	弱み	強み
集まる場所	—	駅や駐車場があり、通勤する人のアクセスが多い。 公共施設(市役所・学校)や病院・銀行などがある。 ホテルなどの宿泊施設がある。
雇用	オフィス(会社)が少ない。 雇用の場が少ない。	
市街地整備環境	駅前整備や区画整理事業の進捗が遅い。 空き地が多くなり土ほこりの害が出る 空き地が多い 路地がなくなってしまって面白くない 中山道交差点に右折帯がないので不便である。	夜は暗くなく、安全である。 インフラ整備ができています(特に下水・光ケーブルなど)。
教育・医療	病院はあるが救急医療がない。 避難場所はあるが知らない人が多い。	近所の助け合いにより、子育てしやすい環境である。 深谷小学校の人気があり、通わせたいと人が移ってくる。 保健センター・保育・幼稚園・小・中学校など、子育て支援は整っている。 学習塾など教育関連施設が増えている。
安全・安心の生活	住宅や人口が減少している。 歩道が少なく、歩行者に危険な道路が多い。 車いす・ベビーカーが通りにくい。 公衆トイレがない 高齢者が安価に住める住宅がなく、お店も少ない。	大きな災害がない。 唐沢川の花壇など良好な環境が整っている。

④環境・街並み形成に関する課題

キーワード	課題	
	弱み	強み
交通アクセス・道路・駐車場	公共交通手段が不便である。 車がアクセスしにくい。 月極駐車場の空きが増えている。 地域によっては駐車場が少なく、店用の駐車場が確保しにくい。 歩道が少ない(道路幅がない)。	全体として駐車場が多い。 空き地が駐車場として使える。 雰囲気の良い路地が残っている。
市街地整備環境	駅前整備や区画整理事業の進捗が遅い。 空き地が多くなり土ほこりの害が出る 空き地が多い 路地がなくなってしまって面白くない 中山道の交差点に右折帯がないので不便である。	夜は暗くなく、安全である。 インフラ整備ができています(特に下水・光ケーブルなど)。
住宅	土地の流動性が少ない。 アパート等賃貸住宅が少ない。 老朽化した建物が多い。	マンションが立地している。 建築許可の制限が少ない(商業地域)。 ファミリー向けのマンション需要がある。
環境	建物はあるが空家が多く、駅周辺がさみしい。 歴史があるため、発展が少ない環境である。	唐沢川がきれいになっている。 ポイ捨てごみが減って町がきれいである。 ごみ収集日が多い。 子どもが少なくなって町内が静かになった

(3) 中心市街地活性化の将来目標

歴史のまちに誰でも集える空間をつくろう（案）

- 昭和のにぎわい、古き良き雰囲気を彷彿させる地域づくりに取り組むとともに、地域住民が日常生活のなかでほっとできるようなまちづくりを進める。
- 歩いて暮らしやすいまちづくりを進める。
- 子育てしやすい環境をつくり、若者の定住、人口増加を図る。
- 高齢者から子どもまでの世代間交流により、地域活動やまちづくり活動に若者を取り込み、次世代への継承を図る。
- 地域住民が生活しやすい中心市街地の活性化を進め、地域資源を活かした来街者との交流を図る。

(4) テーマ別の将来目標

① 商店街活性化・イベント

歴史を活かした憩える、集える、毎日何かやっているまち

地域のレンガ建築物等の歴史・文化的資源を活用し、地域住民や来街者が集まり、交流できる場づくりを行い、年間のイベント・地域活動を通して、中心市街地で毎日何かをやっている感じさせるまちづくりを進める。

② 生活・安全安心

健康で、歩いて暮らせるまち

中心市街地内を安全安心で歩いて暮らせるまちづくりを進め、地域住民が中心市街地内を歩き、散歩することにより健康なまちづくりを進める（医療費の削減につなげる）。

③ 環境・街並み形成

道路アクセスがよく、歴史を尊重したまち

区画整理事業に併せて、周辺部からのアクセス性向上のための道路整備を行い、歴史的な建造物・資源等を活用しながら、古いものと新しいものが調和することによる歴史を尊重したまちづくりを進める。

(5) 中心市街地活性化の提案事業

① 商店街活性化・イベント

事業名	内容	優先度
イベント事業		
「映画祭」開催時の相乗りイベント事業	中心市街地で開催している「映画祭」に併せて、各種イベントを企画・実施し、より多くの来街者を確保する。	1
地元高校生を対象とした市街地でのイベント事業	高校生を対象としたイベントや PR に一緒に取り組み、中心市街地における若者の活動の場、中心市街地まちづくりへの参画機会を広げる。	
七ツ梅での『寄席』開催事業	七ツ梅において、地域住民や来街者等の交流の場となる『寄席』を開催し、地域コミュニティの再生、にぎわいの創出を図る。	
観光PR・拠点づくり事業		
「まちの駅」整備事業	観光案内窓口やPRの拠点として、中心市街地内に「まちの駅」を整備する。	2
七ツ梅拠点づくり事業	西側の拠点である「七ツ梅」を地域活動の拠点、交流の拠点として、機能の充実、活用を図る。	
「中山道」ガイドマップ作成事業	中心市街地の歴史的資源を PR、情報発信するため、「中山道」を中心としたガイドマップを作成し、中心市街地を回遊しながら見学・観光できるようにする。	
食べ物マップ作成事業	お菓子屋、飲食店などを中心とした「食べ物マップ」を作成し、「食」による中心市街地の回遊性の向上を図る。	
ロケ地PR事業	映画やテレビのロケ地として PR するため、エキストラ募集、市民ネットドラマの制作に取り組む。	
歴史的な建物PR事業	中心市街地の歴史的資源をPR、情報発信し、中心市街地を回遊しながら見学・観光できるようにする。	
憩いの場・集いの場づくり事業		
街なか休憩所・縁台整備事業	休憩スペースが少ない中心市街地において、空き店舗や空き地を活用した街なか休憩所や縁台の整備に取り組む。	3
「お父さんの憩いの場～屋台横丁」事業	地域住民の飲食・交流の場として、昔ながらの雰囲気を残した「屋台横丁」を設置し、にぎわいの創出を図る。	
高齢者交流空間整備事業	一人暮らしの高齢者が多くなっている中心市街地において、高齢者が交流できる場を整備する。	
商店街「お休み処」設置事業	商店街において、地域住民や来街者が休憩し、回遊しやすくするため、「お休み処」を設置し、提供店の募集及びマップ作成に取り組む。	
街なか公民館事業	地域における公民館活動を街なかで展開し、中心市街地に活性化につなげる。	

商業活性化関連事業		
商店街空き店舗活用事業	商店街の空き店舗を活用し、企業や若者に貸し出すことによって、新たな出店や起業を支援する。	4
生鮮食料品店事業	商店街直営の生鮮食料品店を出店し、店主持ち回りで経営するなど、地域のマネジメントによる活性化を図る。	
生鮮三品・惣菜・パンの元気市場事業	生鮮三品・惣菜・パンの元気市場を出店し、商店街直営で運営するなど、地域マネジメントによる活性化を図る。	
その他事業		
ファサード統一事業	中心市街地の歴史的な建築物との調和を図り、商店街においても昭和レトロな街並み形成するための、ファサードの統一に取り組む。	—
横丁再現事業	中心市街地の歴史的な建築物との調和、ファサードの統一を図り、横丁の街並みを再現する。	
レンタサイクル事業（市民向け）	市民向けのレンタサイクルにより、市民の中心市街地の回遊性の向上を図る。	

② 生活・安全安心

事業名	内容	優先度
レンガ建築物活用事業		
レンガ蔵等の歴史ある建物の有効利用事業	歴史的な建造物やレンガ建造物などを有効活用し、建物の保存を図るとともに、中心市街地のにぎわい、回遊性の創出を図る。	1
レンガ建築物継承事業	深谷市の地域性にある街並み、歴史・文化の保全を図るため、歴史的な建造物やレンガ建造物などを保存・継承する。	
高齢者が住みよいまちづくり事業		
高齢者パワー活用事業	元気な高齢者が多く、高齢者パワーを活用したイベント・行事や様々な活動を企画する。	2
高齢者に対する災害時の避難支援事業	高齢者の一人暮らしが多く、災害時には、地域コミュニティを活用した避難支援を実施する。	
中心市街地の利便性を活かした取り組み検討事業	深谷駅や公共施設等の集積により利便性の高い中心市街地に強みを活かして、イベント活動や街なか居住等の取組を進める。	
広場・休憩スペース整備事業		
子ども広場整備事業	空き地等を活用して、子どもが安全に遊ぶことができる広場を整備する。	3
街なか休憩スペース創出事業	休憩スペースが少ない中心市街地において、空き地を活用して、休憩スペースを設置する。	
公衆トイレ整備事業	休憩スペースが少ない中心市街地において、地域住民や来街者の回遊性を促すために、公衆トイレを設置する。	

歩行者のためのまちづくり事業		
歩行者専用道路整備事業	地域住民の散歩等の回遊性を高めるため、歩行者専用道路を整備する。	4
適切な駐車場整備事業	中心市街地全体では駐車場は多いが、地域によっては駐車場が不足しており、地域バランスに配慮した駐車場整備を行う。	
適切な広さの歩行空間整備	道路幅員が狭く、歩行者の危険性を改善するため、歩行者が安全な歩行空間を確保する。	
歩行者に配慮した歩行空間整備	道路幅員が狭く、歩行者の危険性を改善するため、歩行者が安全な歩行空間を確保する。	
空地の舗装処理	空き地を舗装して、イベントや地域活動の拠点となる広場を整備する。	
にぎわい・利便施設整備事業		
キンカ堂跡地利用計画	キンカ堂跡地の利用計画について、市民主体で作成し、中心市街地のにぎわいの拠点となるように活用する。	5
複合施設整備事業	中心市街地の拠点となる施設が不足しており、にぎわい・交流の拠点となるような複合施設を整備する。	
救急病院の整備	病院などの医療機関はあるが、救急の対応が不足しているため、救急病院を整備する。	
土地区画整理事業進行時の暫定改良	土地区画整理事業の進行中においては、空き地の増加によるにぎわいの喪失が懸念されるため、暫定的な改良により、仮設的なにぎわい創出を図る。	
電線地中化事業	電線を地中化することにより、街並み景観の向上、統一した街並み形成を図る。	

③環境・街並み形成

事業名	内容	優先度
イベント事業		
空き地利用イベント事業	中心市街地に多く存在する空き地を利用して、各種イベントを実施し、広場的な活用を図る。	1
朝市・フリーマーケット事業	商店街や周辺住民が中心となって、朝市やフリーマーケットなどのイベントを実施する。	
六さい市復活事業	中山道の歴史ある六さい市を復活し、にぎわいのある商店街を創出する。	
学生とのコラボ事業（イベント、PR）	高校生や大学生とコラボレーションして、中心市街地のイベントや PR に一緒に取り組み、中心市街地における若者の活動の場を広げる。	
町中花いっぱい運動事業	元気な高齢者や地域住民により、中心市街地の花いっぱい運動に取り組み、緑化による環境づくりに取り組む。	

区画整理事業関連事業		
区画整理・駅前通りの早期整備	区画整理事業の遅れにより、空き地等の増加による中心市街地の衰退につながっているため、区画整理・駅前通りの早期整備を図る。	2
市民主体のまちづくりを考える会設置事業	区画整理事業による良好な街並み形成を図るため、市民主体により「まちづくりを考える会」を設置し、将来のまちづくりについて考える。	
街並み景観条例づくり	「まちづくりを考える会」により、区画整理後の将来の街並み形成に向けた街並み景観条例の検討を行う。	
花園 IC からのアクセス向上	広域からの中心市街地への来街者の増加を図るため、花園 IC からのアクセス利便性を高める。	
空家・空き地活用事業		
路地空間づくり事業	中山道を中心に残っている路地空間を継承し、区画整理事業においてもヒューマンスケールの空間を形成する。	3
空家活用休憩サロンづくり事業	休憩スペースが少ない中心市街地において、空家を活用して、休憩サロンを設置する。	
空き地が活用休憩所づくり事業（ベンチ、パラソル）	休憩スペースが少ない中心市街地において、空き地を活用して、ベンチやパラソルなどの仮設的な休憩スペースを設置する。	
レンガ建物・歴史的建築物活用事業（休憩コーナー、カフェ等）	歴史的な建造物やレンガ建造物などを休憩コーナーやカフェとして活用し、建物の保存を図るとともに、中心市街地のにぎわい、回遊性の創出を図る。	
記念写真スポットづくり事業	歴史的な建造物やレンガ建造物・煙突、お寺・神社などを記念写真としてもスポットとしてPRし、来街者の増加と中心市街地内の回遊を図る。	
休憩場所（トイレ）設置事業	休憩スペースが少ない中心市街地において、トイレなどの休憩場所を設置する。	
PR 事業		
歴史資源案内・表示事業	中心市街地の歴史的資源を PR、情報発信するため、案内表示を設置し、中心市街地を回遊しながら見学・観光できるようにする。	4
街なか案内ボランティア事業	中心市街地の歴史的資源を PR、情報発信するため、地域住民による案内ボランティアに取り組む。	
歴史的建築物ガイドマップ作成事業	中心市街地の歴史的資源を PR、情報発信するため、歴史的建築物ガイドマップを作成し、中心市街地を回遊しながら見学・観光できるようにする。	
渋沢栄一PR事業	幕末から大正初期に活躍した渋沢栄一の生誕地としてPRし、来街者の増加を図る。	
深谷文化・偉人PR事業	歴史的な建築物や渋沢栄一などの歴史・文化をPR、情報発信し、中心市街地を回遊しながら見学・観光できるようにする。	
桜並木PR事業	深谷駅に近接する桜並木を PR し、花見客など来街者や観光客の増加を図る。	

空間づくり事業		
まちなか美術館・博物館事業	歴史的な建造物やレンガ建造物・煙突、お寺・神社など、中心市街地の歴史的資源を活用し、中心市街地を回遊しながら見学・観光できるようにする。	5
レンガ建物観光化事業	レンガ建物などの歴史的資源を活用し、中心市街地を回遊しながら見学・観光できるようにする。	
唐沢川おしゃれな歩行空間づくり事業	水がきれいになった唐沢川を活用して、おしゃれな歩行空間をつくり、中心市街地のにぎわいを創出する。	
明治維新のイメージまちづくり事業	歴史的な建築物や渋沢栄一などの歴史・文化を活用し、明治維新をイメージしたまちづくりを進める。	
街なか緑化事業	街路樹や植栽などの緑が少ない中心市街地において、緑化による環境づくりに取り組む。	
その他事業		
街路灯設置事業	夜になると暗い地域もあるので、街路灯を設置し、明るく安全な中心市街地を形成する。	—
バス無料化事業	周辺部から中心市街地へのアクセス性を高めるため、バスの無料化を目指す。	
公営住宅整備事業	中心市街地内の利便性を活かした街なか居住を図るため、公営住宅の整備を提案する。	
御用聞き制度づくり事業	つながりのあるコミュニティを活かし、高齢者や子育てに関する御用聞き制度をつくり、中心市街地の相談窓口を設置する。	
地元名産開発事業	地酒を使った酒ボンボンやネギミソふりかけ等、深谷市の資源や農産物を活用した地元名産を開発する。	

(6) 提案事業のモデル的検討

① 商店街活性化・イベント

年間イベントプログラム

- ・野菜サミット(年5回)、100円商店街(年3～4回)、にぎわいた市(毎月最終土曜日)などの年間を通じたイベントと連携して、総合的にイベントに取り組む事業である。

◎取組スケジュール

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	ハーフマラソン		花フェスタ			七夕		映画祭			
			ミステリーツアー			深谷祭			産業祭		
											妙見市

◎取組の主体

【主体】

- ・商店街(イベントのコマーシャルやPR など)

◎取組の役割分担

《行政の役割》

- ・道路使用など警察との協議
- ・大々的な情報発信PR
- ・補助金により参加できる店を増やす

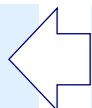
レンガ建築物活用事業

- ・歴史的建物を有効利用するため、若い人の工房やお店、若者の住宅として活用し、使ってもらいながら保全する事業である。

◎取組の主体

【主体】

- ・コーディネートできる人



【協力】

- ・自治会・商工会議所・NPO 団体 など

◎取組の役割分担

《住民の役割》

- ・提供していただけるかなどの情報収集
- ・条件整理（金額など）

《行政の役割》

- ・国や県に働きかけ資金の応援
- ・助成・補助金（国・県）

◎関連事業

① 空き店舗活用事業

- ・若者の就労、生活の拠点として、空き店舗を活用し、定住を図る。

② 世代間交流事業

- ・空き店舗や歴史的建物を利用して、子育て支援の拠点等をつくる。

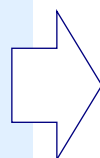
定住促進に向けた売り込み

- ・中心市街地の生活面における強みを PR し、定住促進、人口増加を図るための事業である。

◎PR ポイント

【PR ポイント】

- ・安全で住みやすい環境
- ・子育てしやすい環境
- ・学校教育のレベルが高い
（アカデミックな雰囲気）など



【PR 方法】

- ・マスコミへの売込み（マスコミうけしやすいネタの提供）

◎取組の主体

【協働で取り組む】

自治会

学校関係

行政

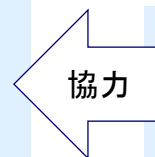
イベント事業

- ・朝市・フリーマーケット事業や六さい市復活事業、学生とのコラボ事業（イベント、PR）など、街並み形成に向けたイベントに総合的に取り組む事業である。

◎取組の主体

【主体】 イベント内容によって主体が異なる

- ・フリーマーケット：住民個々
- ・六さい市：商店街連合会
- ・学生コラボイベント：学生 など



【協力】

- ・商店、商工会議所など

◎取組の役割分担

《住民の役割》

- ・気持ちの若い人による青年部の立上
- ・イベントへの参加

《行政の役割》

- ・行政的交渉（警察・消防）

市民主体のまちづくりを考える会設置事業

- ・区画整理事業による良好な街並み形成を図るため、市民主体により「まちづくりを考える会」を設置し、将来のまちづくりについて考える事業である。

◎取組の主体

【主体】

- ・地権者
- ・まちづくりの専門家
- ・NPO 法人 など

} 市民主体で会を立ち上げ、自主的にまちづくりを考える

◎取組の役割分担

《住民の役割》

- ・どうすれば区画整理が進むかを考える
- ・将来的にまちづくりルールを考える

《行政の役割》

- ・オブザーバーとして参加

◆市民ワークショップのまとめ

【中心市街地の課題】

①中心市街地の共通課題
人
・合併により市の人口が増加した
・街並みを見に来る人やホテル等の宿泊客数が増えている
・アパート・マンションの入居率が比較的高い 等
高齢者
・高齢者の一人暮らしが増えている
・高齢者の元氣・パワーがあり、面倒見る人が多い 等
子ども
・子どもの数が少ない
・高校生の通行量が多い 等
地域資源・歴史
・お寺や神社、造り酒屋、レンガ煙突・レンガ建造物、古い建物等の歴史資源が多い 等

②商店街活性化・イベントに関する課題
集まる場所
・駅や駐車場があり、通勤する人のアクセスが多い
・公共施設(市役所・学校)や病院・銀行などがある 等
商業・店舗
・商店街にお店・商品が減少しており、空き店舗が多い
・魅力ある店、新しい系統の店が少ない
・生鮮三種（食料品店）が残っている 等
商店街の活性化
・商店の後継者不足（高齢化）
・休憩スペースが少ない 等
イベント・ソフト事業・活動
・祭りの参加者がだんだん少なくなっている
・お祭りなど歴史的行事を継続されている 等

③生活・安全安心に関する課題
雇用
・雇用の場が少ない 等
市街地整備環境
・駅前整備や区画整理事業の進捗が遅い
・路地がなくなってしまって面白くない 等
教育・医療
・病院はあるが救急医療がない
・近所の助け合いにより、子育てしやすい環境である 等
安全・安心の生活
・住宅や人口が減少している。
・歩道が少なく、歩行者に危険な道路が多い
・大きな災害がない。
・唐沢川の花壇など良好な環境が整っている 等

④環境・街並み形成に関する課題
交通アクセス・道路・駐車場
・公共交通手段が不便である
・全体として駐車場が多い 等
市街地整備環境
・駅前整備や区画整理事業の進捗が遅い
・路地がなくなってしまって面白くない 等
住宅
・アパート等賃貸住宅が少ない
・老朽化した建物が多い
・マンションが立地している 等
環境
・建物はあるが空家が多く、駅周辺がさみしい
・唐沢川がきれいになっている 等

【中心市街地の将来目標】 **歴史のまちに誰でも集える空間をつくろう（案）**

- 昭和のにぎわい、古き良き雰囲気を彷彿させる地域づくりに取り組むとともに、地域住民が日常生活のなかでほっとできるようなまちづくりを進める。
- 歩いて暮らしやすいまちづくりを進める。
- 子育てしやすい環境をつくり、若者の定住、人口増加を図る。
- 高齢者から子どもまでの世代間交流により、地域活動やまちづくり活動に若者を取り込み、次世代への継承を図る。
- 地域住民が生活しやすい中心市街地の活性化を進め、地域資源を活かした来街者との交流を図る。

テーマ別将来目標【①商店街活性化・イベント】

歴史を活かした憩える、集える、毎日何かやっているまち

- 【イベント事業】
- ・「映画祭」開催時の相乗りイベント事業
 - ・地元高校生を対象とした市街地でのイベント事業
 - ・七ツ梅での『寄席』開催事業
- 【観光PR・拠点づくり事業】
- ・「まちの駅」整備事業
 - ・七ツ梅拠点づくり事業
 - ・「中山道」ガイドマップ作成事業
 - ・食べ物マップ作成事業
 - ・ロケ地PR事業
 - ・歴史的な建物PR事業
- 【憩いの場・集いの場づくり事業】
- ・街なか休憩所・縁台整備事業
 - ・「お父さんの憩いの場～屋台横丁」事業
 - ・高齢者交流空間整備事業
 - ・商店街「お休み処」設置事業
 - ・街なか公民館事業
- 【商業活性化関連事業】
- ・商店街空き店舗活用事業
 - ・生鮮食料品店事業
 - ・生鮮三品・惣菜・パンの元氣市場事業
- 【その他事業】
- ・ファサード統一事業
 - ・横丁再現事業
 - ・レンタサイクル事業（市民向け）

テーマ別将来目標【②生活・安全安心】

健康で、歩いて暮らせるまち

- 【レンガ建築物活用事業】
- ・レンガ蔵等の歴史ある建物の有効利用事業
 - ・レンガ建築物継承事業
- 【高齢者が住みよいまちづくり事業】
- ・高齢者パワー活用事業
 - ・高齢者に対する災害時の避難支援事業
 - ・中心市街地の利便性を活かした取り組み検討事業
- 【広場・休憩スペース整備事業】
- ・子ども広場整備事業
 - ・街なか休憩スペース創出事業
 - ・公衆トイレ整備事業
- 【歩行者のためのまちづくり事業】
- ・歩行者専用道路整備事業
 - ・適切な駐車場整備事業
 - ・適切な広さの歩行空間整備
 - ・歩行者に配慮した歩行空間整備
 - ・空地の舗装処理
- 【にぎわい・利便施設整備事業】
- ・キンカ堂跡地利用計画
 - ・複合施設整備事業
 - ・救急病院の整備
 - ・土地区画整理事業進行時の暫定改良
 - ・電線地中化事業

テーマ別将来目標【③環境・街並み形成】

道路アクセスがよく、歴史を尊重したまち

- 【イベント事業】
- ・空き地利用イベント事業
 - ・六さい市復活事業
 - ・学生とのコラボ事業（イベント、PR）
 - ・朝市・フリーマーケット事業
 - ・町中花いっぱい運動事業
- 【区画整理事業関連事業】
- ・区画整理・駅前通りの早期整備
 - ・市民主体のまちづくりを考える会設置事業
 - ・街並み景観条例づくり
 - ・花園ICからのアクセス向上
- 【空家・空き地活用事業】
- ・路地空間づくり事業
 - ・空き地が活用休憩所づくり事業（ベンチ、パラソル）
 - ・レンガ建物・歴史的建築物活用事業（休憩コーナー、カフェ等）
 - ・記念写真スポットづくり事業
 - ・空家活用休憩サロンづくり事業
 - ・休憩場所（トイレ）設置事業
- 【PR事業】
- ・歴史資源案内・表示事業
 - ・歴史的建築物ガイドマップ作成事業
 - ・深谷文化・偉人PR事業
 - ・街なか案内ボランティア事業
 - ・渋沢栄一PR事業
 - ・桜並木PR事業
- 【空間づくり事業】
- ・まちなか美術館・博物館事業・レンガ建物観光化事業
 - ・唐沢川おしゃれな歩行空間づくり事業
 - ・明治維新のイメージまちづくり事業
 - ・街なか緑化事業
- 【その他事業】
- ・街路灯設置事業
 - ・公営住宅整備事業
 - ・地元名産開発事業
 - ・バス無料化事業
 - ・御用聞き制度づくり事業

3. 参考資料

(1) 市民アンケート調査

① 調査概要

1) 調査概要

中心市街地のにぎわいの創出に向けて、市民の中心市街地の利用目的、頻度とともに、中心市街地（商店街）を利用しない理由や中心市街地に望むこと、活性化のイメージ等を把握し、今後の中心市街地活性化の取組に向けた分析を行う。

2) 調査方法

- ・市内にお住まいの方から、2,000名を無作為抽出

3) 調査期間

- ・平成23年12月5日（月）～平成23年12月16日（金）

4) 回収状況

- ・854票（回収率：42.7%）

②調査結果

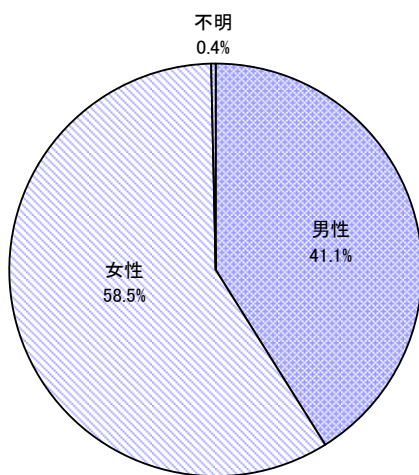
1) 回答者の属性

回答者の属性は、性別でみると、男性が 41.1%、女性が 58.5%となっている。

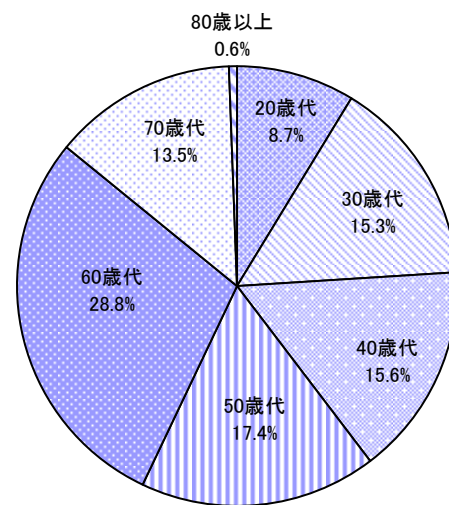
年齢別にみると、60歳代が28.8%と最も多く、次いで50歳代以上が17.4%、40歳代が15.6%、30歳代が15.3%となっている。

居住地別にみると、深谷地区が19.4%と最も多く、次いで幡羅地区が13.6%、上柴地区が12.3%と多くなっている。

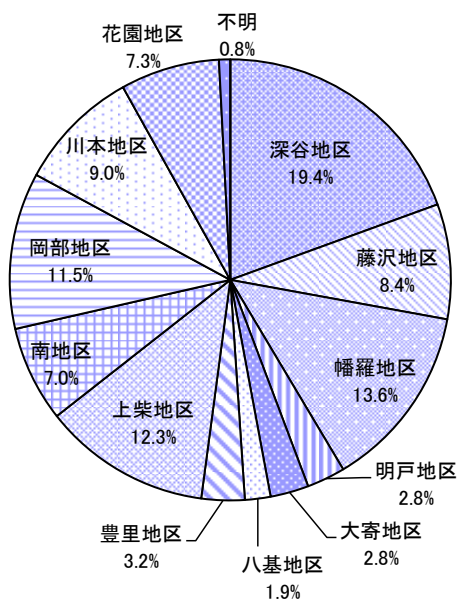
◆性別



◆年齢



◆居住地



2) 深谷市の中心市街地（深谷駅や市役所の周辺）の利用状況

郊外居住者の中心市街地の利用状況は少ない。

深谷市の中心市街地の利用状況は、年に数回が 24.7%となっており、次いで、月に1～2回程度が 17.0%となっている。

属性別にみると、深谷市外居住者は中心市街地の利用が少ないことがわかる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）

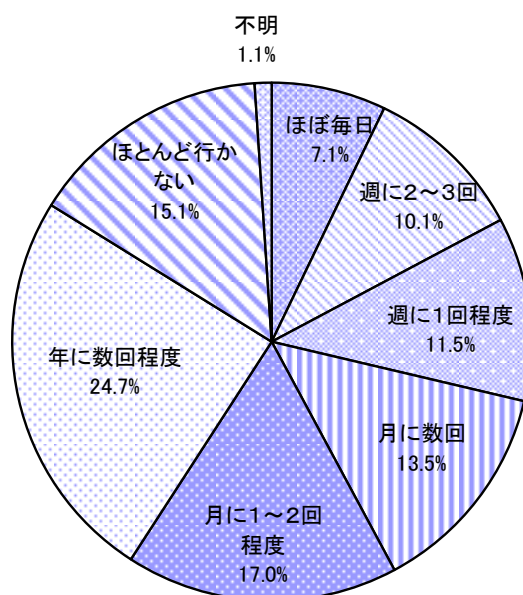


表 深谷市の中心市街地の利用状況（属性別）

		合計	ほぼ毎日	週に2～3回	週に1回程度	月に数回	月に1～2回程度	年に数回程度	ほとんど行かない	不明
全体		854	61	86	98	115	145	211	129	9
		100.0 %	7.1 %	10.1 %	11.5 %	13.5 %	17.0 %	24.7 %	15.1 %	1.1 %
性別	男性	351	32	34	49	41	57	76	61	1
		100.0 %	9.1 %	9.7 %	14.0 %	11.7 %	16.2 %	21.7 %	17.4 %	0.3 %
	女性	500	29	52	49	74	88	135	66	7
		100.0 %	5.8 %	10.4 %	9.8 %	14.8 %	17.6 %	27.0 %	13.2 %	1.4 %
	不明	3	0	0	0	0	0	0	2	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	66.7 %	33.3 %
年齢別	20歳代	74	7	11	9	11	10	13	13	0
		100.0 %	9.5 %	14.9 %	12.2 %	14.9 %	13.5 %	17.6 %	17.6 %	0.0 %
	30歳代	130	7	8	15	17	23	35	25	0
		100.0 %	5.4 %	6.2 %	11.5 %	13.1 %	17.7 %	26.9 %	19.2 %	0.0 %
	40歳代	133	19	8	13	11	20	37	23	2
		100.0 %	14.3 %	6.0 %	9.8 %	8.3 %	15.0 %	27.8 %	17.3 %	1.5 %
	50歳代	148	11	15	17	24	27	35	19	0
		100.0 %	7.4 %	10.1 %	11.5 %	16.2 %	18.2 %	23.6 %	12.8 %	0.0 %
	60歳代	245	14	26	27	36	40	67	33	2
		100.0 %	5.7 %	10.6 %	11.0 %	14.7 %	16.3 %	27.3 %	13.5 %	0.8 %
	70歳代	115	2	16	17	15	24	23	14	4
		100.0 %	1.7 %	13.9 %	14.8 %	13.0 %	20.9 %	20.0 %	12.2 %	3.5 %
	80歳代以上	5	0	2	0	1	1	1	0	0
		100.0 %	0.0 %	40.0 %	0.0 %	20.0 %	20.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %
	不明	4	1	0	0	0	0	0	2	1
		100.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	25.0 %
居住地別	深谷地区	166	32	36	20	22	24	13	19	0
		100.0 %	19.3 %	21.7 %	12.0 %	13.3 %	14.5 %	7.8 %	11.4 %	0.0 %
	藤沢地区	72	3	6	6	11	7	24	13	2
		100.0 %	4.2 %	8.3 %	8.3 %	15.3 %	9.7 %	33.3 %	18.1 %	2.8 %
	幡羅地区	116	4	10	16	15	26	35	10	0
		100.0 %	3.4 %	8.6 %	13.8 %	12.9 %	22.4 %	30.2 %	8.6 %	0.0 %
	明戸地区	24	0	1	6	4	4	6	3	0
		100.0 %	0.0 %	4.2 %	25.0 %	16.7 %	16.7 %	25.0 %	12.5 %	0.0 %
	大寄地区	24	1	1	2	9	4	3	4	0
		100.0 %	4.2 %	4.2 %	8.3 %	37.5 %	16.7 %	12.5 %	16.7 %	0.0 %
	八基地区	16	1	2	3	2	6	2	0	0
		100.0 %	6.3 %	12.5 %	18.8 %	12.5 %	37.5 %	12.5 %	0.0 %	0.0 %
	豊里地区	27	1	4	6	4	2	7	3	0
		100.0 %	3.7 %	14.8 %	22.2 %	14.8 %	7.4 %	25.9 %	11.1 %	0.0 %
	上柴地区	105	6	10	7	19	20	28	13	2
		100.0 %	5.7 %	9.5 %	6.7 %	18.1 %	19.0 %	26.7 %	12.4 %	1.9 %
	南地区	60	4	4	10	7	11	16	7	1
		100.0 %	6.7 %	6.7 %	16.7 %	11.7 %	18.3 %	26.7 %	11.7 %	1.7 %
	岡部地区	98	4	6	9	6	20	32	20	1
		100.0 %	4.1 %	6.1 %	9.2 %	6.1 %	20.4 %	32.7 %	20.4 %	1.0 %
	川本地区	77	1	3	8	11	12	24	18	
		100.0 %	1.3 %	3.9 %	10.4 %	14.3 %	15.6 %	31.2 %	23.4 %	0.0 %
	花園地区	62	2	3	5	5	8	21	16	2
		100.0 %	3.2 %	4.8 %	8.1 %	8.1 %	12.9 %	33.9 %	25.8 %	3.2 %
	不明	7	2	0	0	0	1	0	3	1
		100.0 %	28.6 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	14.3 %	0.0 %	42.9 %	14.3 %

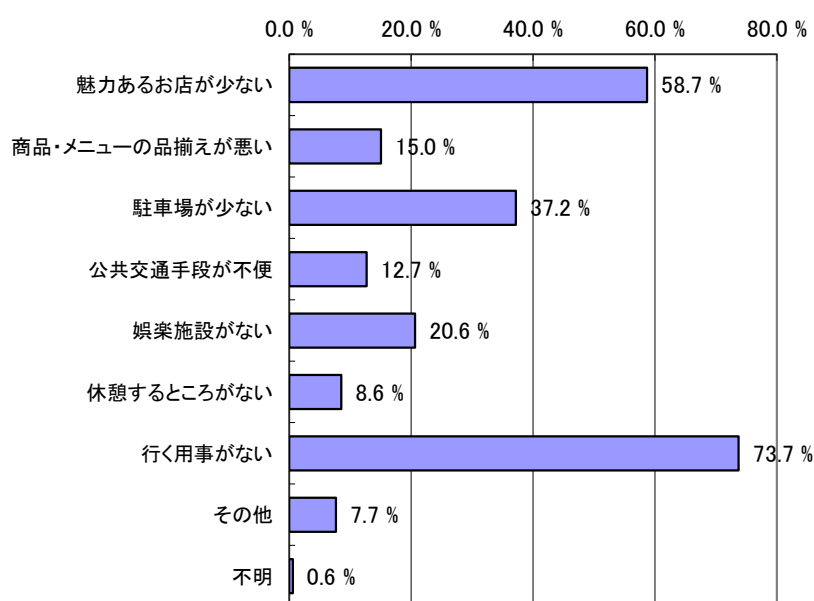
3) 深谷市の中心市街地を利用しない理由

若者にとっては娯楽施設や魅力あるお店が少ないことが利用しない理由としてあげられる。

中心市街地を利用しない理由として、行く用事がないが 73.7%となっており、次いで、魅力あるお店が少ないが 58.7%、駐車場が少ないが 37.2%となっている。

属性別にみると、特に深谷市外居住者が行く用事がないと回答している。10 歳代～30 歳代の若者は娯楽施設がないや魅力あるお店が少ないが、利用しない理由としてあげられる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）



（複数回答）

表 深谷市の中心市街地の利用状況（属性別）

		合計	魅力ある お店が少 ない	商品・メ ニユーの 品揃えが 悪い	駐車場が 少ない	公共交通 手段が不 便	娯楽施設 がない	休憩する ところが ない	行く用事 がない	その他	不明
全体		339	199	51	126	43	70	29	250	26	2
		100.0 %	58.7 %	15.0 %	37.2 %	12.7 %	20.6 %	8.6 %	73.7 %	7.7 %	0.6 %
性別	男性	136	87	23	59	20	41	15	98	14	2
		100.0 %	64.0 %	16.9 %	43.4 %	14.7 %	30.1 %	11.0 %	72.1 %	10.3 %	1.5 %
	女性	201	110	27	66	21	29	14	151	12	0
		100.0 %	54.7 %	13.4 %	32.8 %	10.4 %	14.4 %	7.0 %	75.1 %	6.0 %	0.0 %
	不明	2	2	1	1	2	0	0	1	0	0
		100.0 %	100.0 %	50.0 %	50.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	0.0 %
年齢別	20歳代	26	13	2	8	3	6	1	21	2	0
		100.0 %	50.0 %	7.7 %	30.8 %	11.5 %	23.1 %	3.8 %	80.8 %	7.7 %	0.0 %
	30歳代	60	41	10	19	7	18	4	44	6	1
		100.0 %	68.3 %	16.7 %	31.7 %	11.7 %	30.0 %	6.7 %	73.3 %	10.0 %	1.7 %
	40歳代	60	42	8	25	9	17	6	45	5	0
		100.0 %	70.0 %	13.3 %	41.7 %	15.0 %	28.3 %	10.0 %	75.0 %	8.3 %	0.0 %
	50歳代	54	31	9	17	5	10	3	48	2	0
		100.0 %	57.4 %	16.7 %	31.5 %	9.3 %	18.5 %	5.6 %	88.9 %	3.7 %	0.0 %
	60歳代	99	55	21	43	9	14	11	65	8	1
		100.0 %	55.6 %	21.2 %	43.4 %	9.1 %	14.1 %	11.1 %	65.7 %	8.1 %	1.0 %
	70歳代	37	15	0	13	7	5	4	26	3	0
		100.0 %	40.5 %	0.0 %	35.1 %	18.9 %	13.5 %	10.8 %	70.3 %	8.1 %	0.0 %
	80歳代 以上	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	不明	2	2	1	1	2	0	0	1	0	0
		100.0 %	100.0 %	50.0 %	50.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	0.0 %
居住地別	深谷地区	32	24	6	12	2	5	3	19	4	0
		100.0 %	75.0 %	18.8 %	37.5 %	6.3 %	15.6 %	9.4 %	59.4 %	12.5 %	0.0 %
	藤沢地区	37	26	6	17	2	9	6	30	2	0
		100.0 %	70.3 %	16.2 %	45.9 %	5.4 %	24.3 %	16.2 %	81.1 %	5.4 %	0.0 %
	幡羅地区	45	23	6	25	4	11	3	37	5	0
		100.0 %	51.1 %	13.3 %	55.6 %	8.9 %	24.4 %	6.7 %	82.2 %	11.1 %	0.0 %
	明戸地区	9	5	0	3	1	2	2	7	0	0
		100.0 %	55.6 %	0.0 %	33.3 %	11.1 %	22.2 %	22.2 %	77.8 %	0.0 %	0.0 %
	大寄地区	7	5	0	4	0	0	1	5	0	0
		100.0 %	71.4 %	0.0 %	57.1 %	0.0 %	0.0 %	14.3 %	71.4 %	0.0 %	0.0 %
	八基地区	2	1	0	0	0	1	0	1	0	0
		100.0 %	50.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	0.0 %
	豊里地区	10	3	2	2	2	2	0	6	2	0
		100.0 %	30.0 %	20.0 %	20.0 %	20.0 %	20.0 %	0.0 %	60.0 %	20.0 %	0.0 %
	上柴地区	41	31	5	11	4	13	2	27	0	0
		100.0 %	75.6 %	12.2 %	26.8 %	9.8 %	31.7 %	4.9 %	65.9 %	0.0 %	0.0 %
	南地区	23	15	8	6	2	2	4	19	0	0
		100.0 %	65.2 %	34.8 %	26.1 %	8.7 %	8.7 %	17.4 %	82.6 %	0.0 %	0.0 %
	岡部地区	52	30	9	20	9	12	6	36	6	0
		100.0 %	57.7 %	17.3 %	38.5 %	17.3 %	23.1 %	11.5 %	69.2 %	11.5 %	0.0 %
	川本地区	42	17	4	13	9	6	0	33	4	2
		100.0 %	40.5 %	9.5 %	31.0 %	21.4 %	14.3 %	0.0 %	78.6 %	9.5 %	4.8 %
	花園地区	36	16	4	12	6	7	2	28	3	0
		100.0 %	44.4 %	11.1 %	33.3 %	16.7 %	19.4 %	5.6 %	77.8 %	8.3 %	0.0 %
	不明	3	3	1	1	2	0	0	2	0	0
		100.0 %	100.0 %	33.3 %	33.3 %	66.7 %	0.0 %	0.0 %	66.7 %	0.0 %	0.0 %

(複数回答)

4) 中心市街地に出かける交通手段

中心市街地への交通手段は自家用車が約 80%を占める。

中心市街地に出かける交通手段は、「自家用車」が 79.2%を占め、次いで「自転車」が 11.8%、徒歩が 5.3%となっている。

属性別にみると、特に 30 歳代から 50 歳代について、自家用車の利用が多くなっている。中心市街地が属する深谷地区では、自家用車の利用が 55.2%となっており、他地区を比較して自転車や徒歩の利用が多くなっているが、深谷地区以外では、自家用車の利用が 80%以上を超えている。

図 中心市街地に出かける交通手段（全体）

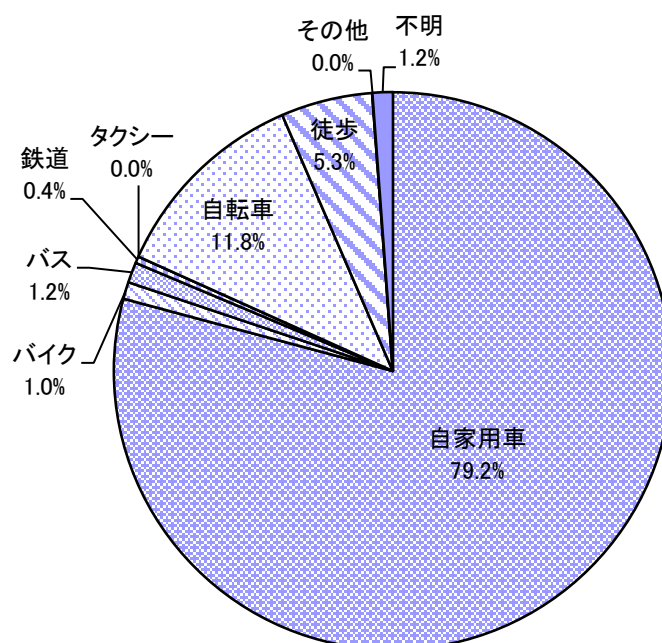


表 中心市街地に出かける交通手段（属性別）

		合計	自家用車	バイク	バス	鉄道	タクシー	自転車	徒歩	その他	不明
全体		509	403	5	6	2	0	60	27	0	6
		100.0	79.2	1.0	1.2	0.4	0.0	11.8	5.3	0.0	1.2
性別	男性	215	168	2	1	0	0	25	15	0	4
		100.0 %	78.1 %	0.9 %	0.5 %	0.0 %	0.0 %	11.6 %	7.0 %	0.0 %	1.9 %
	女性	294	235	3	5	2	0	35	12	0	2
		100.0 %	79.9 %	1.0 %	1.7 %	0.7 %	0.0 %	11.9 %	4.1 %	0.0 %	0.7 %
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
年齢別	20歳代	48	37	0	0	0	0	10	1	0	0
		100.0 %	77.1 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	20.8 %	2.1 %	0.0 %	0.0 %
	30歳代	70	60	0	0	0	0	7	3	0	0
		100.0 %	85.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	10.0 %	4.3 %	0.0 %	0.0 %
	40歳代	72	61	1	0	0	0	4	5	0	1
		100.0 %	84.7 %	1.4 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	5.6 %	6.9 %	0.0 %	1.4 %
	50歳代	94	83	1	3	1	0	4	1	0	1
		100.0 %	88.3 %	1.1 %	3.2 %	1.1 %	0.0 %	4.3 %	1.1 %	0.0 %	1.1 %
	60歳代	146	114	1	2	1	0	17	10	0	1
		100.0 %	78.1 %	0.7 %	1.4 %	0.7 %	0.0 %	11.6 %	6.8 %	0.0 %	0.7 %
	70歳代	74	44	2	1	0	0	18	6	0	3
		100.0 %	59.5 %	2.7 %	1.4 %	0.0 %	0.0 %	24.3 %	8.1 %	0.0 %	4.1 %
	80歳代以上	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	不明	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %
居住地別	深谷地区	134	74	2	1	1	0	37	19	0	0
		100.0 %	55.2 %	1.5 %	0.7 %	0.7 %	0.0 %	27.6 %	14.2 %	0.0 %	0.0 %
	藤沢地区	33	29	0	0	0	0	1	2	0	1
		100.0 %	87.9 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	3.0 %	6.1 %	0.0 %	3.0 %
	幡羅地区	71	60	0	0	0	0	9	2	0	0
		100.0 %	84.5 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	12.7 %	2.8 %	0.0 %	0.0 %
	明戸地区	16	13	1	1	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	81.3 %	6.3 %	6.3 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	6.3 %
	大寄地区	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	八基地区	14	13	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	92.9 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	7.1 %
	豊里地区	17	15	0	1	0	0	1	0	0	0
		100.0 %	88.2 %	0.0 %	5.9 %	0.0 %	0.0 %	5.9 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	上柴地区	63	52	0	2	0	0	8	1	0	0
		100.0 %	82.5 %	0.0 %	3.2 %	0.0 %	0.0 %	12.7 %	1.6 %	0.0 %	0.0 %
	南地区	36	30	1	1	0	0	2	2	0	0
		100.0 %	83.3 %	2.8 %	2.8 %	0.0 %	0.0 %	5.6 %	5.6 %	0.0 %	0.0 %
	岡部地区	46	41	1	0	1	0	2	0	0	1
		100.0 %	89.1 %	2.2 %	0.0 %	2.2 %	0.0 %	4.3 %	0.0 %	0.0 %	2.2 %
	川本地区	35	34	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	97.1 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	2.9 %
	花園地区	24	23	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	95.8 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	4.2 %
	不明	3	2	0	0	0	0	0	1	0	0
		100.0 %	66.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	33.3 %	0.0 %	0.0 %

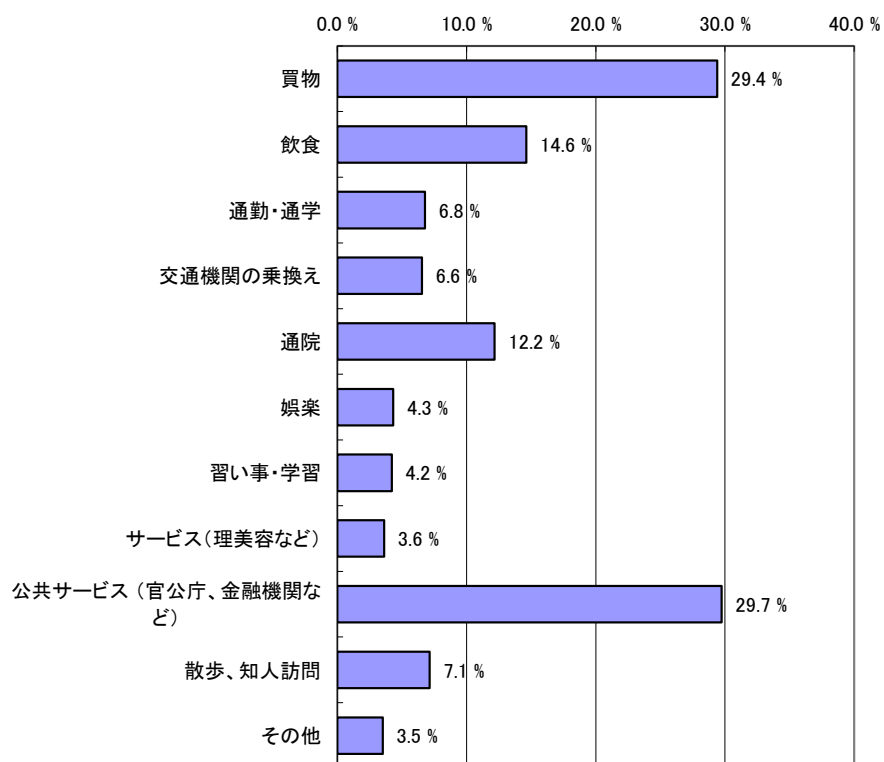
5) 中心市街地を利用する目的

公共サービスや年齢に合わせた生活の場としての利用が多い。

中心市街地を利用する理由としては、公共サービス（官公庁、金融機関など）が 29.7%と最も多く、次いで買物が 29.4%となっている。

属性別にみると、20～40 歳代で通勤・通学や飲食の利用が多くなっており、70 歳代以上では通院の利用が多くなっていることから、市民の生活の場として中心市街地の利用が多くみられる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）



(複数回答)

表 深谷市の中心市街地の利用状況（属性別）

		合計	買物	飲食	通勤・通学	交通機関の乗換え	通院	娯楽	習い事・学習	サービス（理美容など）	公共サービス（官公庁、金融機関など）	散歩、知人訪問	その他	不明
全体		854	251	125	58	56	104	37	36	31	254	61	30	352
		100.0 %	29.4 %	14.6 %	6.8 %	6.6 %	12.2 %	4.3 %	4.2 %	3.6 %	29.7 %	7.1 %	3.5 %	41.2 %
性別	男性	351	107	66	32	18	44	20	7	7	99	37	14	139
		100.0 %	30.5 %	18.8 %	9.1 %	5.1 %	12.5 %	5.7 %	2.0 %	2.0 %	28.2 %	10.5 %	4.0 %	39.6 %
	女性	500	144	59	26	38	60	17	29	24	155	24	16	210
		100.0 %	28.8 %	11.8 %	5.2 %	7.6 %	12.0 %	3.4 %	5.8 %	4.8 %	31.0 %	4.8 %	3.2 %	42.0 %
	不明	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
年齢別	20歳代	74	23	18	12	8	4	9	0	2	15	6	1	27
		100.0 %	31.1 %	24.3 %	16.2 %	10.8 %	5.4 %	12.2 %	0.0 %	2.7 %	20.3 %	8.1 %	1.4 %	36.5 %
	30歳代	130	36	16	9	8	6	3	4	2	39	5	4	61
		100.0 %	27.7 %	12.3 %	6.9 %	6.2 %	4.6 %	2.3 %	3.1 %	1.5 %	30.0 %	3.8 %	3.1 %	46.9 %
	40歳代	133	31	19	17	5	8	5	8	5	39	5	6	62
		100.0 %	23.3 %	14.3 %	12.8 %	3.8 %	6.0 %	3.8 %	6.0 %	3.8 %	29.3 %	3.8 %	4.5 %	46.6 %
	50歳代	148	40	22	12	10	13	3	1	8	52	5	10	55
		100.0 %	27.0 %	14.9 %	8.1 %	6.8 %	8.8 %	2.0 %	0.7 %	5.4 %	35.1 %	3.4 %	6.8 %	37.2 %
	60歳代	245	74	37	7	18	34	14	12	8	76	21	6	101
		100.0 %	30.2 %	15.1 %	2.9 %	7.3 %	13.9 %	5.7 %	4.9 %	3.3 %	31.0 %	8.6 %	2.4 %	41.2 %
	70歳代	115	44	12	1	7	37	3	9	6	31	16	3	42
		100.0 %	38.3 %	10.4 %	0.9 %	6.1 %	32.2 %	2.6 %	7.8 %	5.2 %	27.0 %	13.9 %	2.6 %	36.5 %
	80歳代以上	5	2	1	0	0	2	0	1	0	2	2	0	1
		100.0 %	40.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %	40.0 %	0.0 %	20.0 %	0.0 %	40.0 %	40.0 %	0.0 %	20.0 %
	不明	4	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3
		100.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	75.0 %
居住地別	深谷地区	166	66	29	26	20	27	6	10	7	64	24	4	35
		100.0 %	39.8 %	17.5 %	15.7 %	12.0 %	16.3 %	3.6 %	6.0 %	4.2 %	38.6 %	14.5 %	2.4 %	21.1 %
	藤沢地区	72	22	11	4	1	8	1	1	2	20	3	3	39
		100.0 %	30.6 %	15.3 %	5.6 %	1.4 %	11.1 %	1.4 %	1.4 %	2.8 %	27.8 %	4.2 %	4.2 %	54.2 %
	幡羅地区	116	33	23	4	3	17	8	3	3	36	6	8	46
		100.0 %	28.4 %	19.8 %	3.4 %	2.6 %	14.7 %	6.9 %	2.6 %	2.6 %	31.0 %	5.2 %	6.9 %	39.7 %
	明戸地区	24	8	1	1	0	7	0	0	2	10	1	1	10
		100.0 %	33.3 %	4.2 %	4.2 %	0.0 %	29.2 %	0.0 %	0.0 %	8.3 %	41.7 %	4.2 %	4.2 %	41.7 %
	大寄地区	24	11	5	1	2	6	0	0	1	8	1	1	7
		100.0 %	45.8 %	20.8 %	4.2 %	8.3 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	4.2 %	33.3 %	4.2 %	4.2 %	29.2 %
	八基地区	16	7	3	1	3	2	2	2	1	5	3	0	2
		100.0 %	43.8 %	18.8 %	6.3 %	18.8 %	12.5 %	12.5 %	12.5 %	6.3 %	31.3 %	18.8 %	0.0 %	12.5 %
	豊里地区	27	10	2	1	2	6	0	0	3	8	3	1	10
		100.0 %	37.0 %	7.4 %	3.7 %	7.4 %	22.2 %	0.0 %	0.0 %	11.1 %	29.6 %	11.1 %	3.7 %	37.0 %
	上柴地区	105	14	13	5	9	5	8	9	4	40	8	4	42
		100.0 %	13.3 %	12.4 %	4.8 %	8.6 %	4.8 %	7.6 %	8.6 %	3.8 %	38.1 %	7.6 %	3.8 %	40.0 %
	南地区	60	15	4	6	7	10	0	3	0	25	2	5	24
		100.0 %	25.0 %	6.7 %	10.0 %	11.7 %	16.7 %	0.0 %	5.0 %	0.0 %	41.7 %	3.3 %	8.3 %	40.0 %
	岡部地区	98	31	16	3	1	10	7	2	5	17	4	1	52
		100.0 %	31.6 %	16.3 %	3.1 %	1.0 %	10.2 %	7.1 %	2.0 %	5.1 %	17.3 %	4.1 %	1.0 %	53.1 %
	川本地区	77	22	15	3	3	3	3	3	0	12	3	0	42
		100.0 %	28.6 %	19.5 %	3.9 %	3.9 %	3.9 %	3.9 %	3.9 %	0.0 %	15.6 %	3.9 %	0.0 %	54.5 %
	花園地区	62	10	3	2	5	3	2	2	3	7	2	2	39
		100.0 %	16.1 %	4.8 %	3.2 %	8.1 %	4.8 %	3.2 %	3.2 %	4.8 %	11.3 %	3.2 %	3.2 %	62.9 %
	不明	7	2	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	4
		100.0 %	28.6 %	0.0 %	14.3 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	14.3 %	0.0 %	28.6 %	14.3 %	0.0 %	57.1 %

（複数回答）

6)「中心市街地」に仕事以外で出かけた場合の平均的な滞在時間

中心市街地の滞在時間は、1 時間以内が約 50%を占める。

中心市街地」に仕事以外で出かけた場合の平均的な滞在時間は、1 時間程度が 25.9%と最も多く、次いで 30 分以内が 20.4%、2～3 時間程度が 10.9%となっている。

属性別にみると、年代が高くなるほど、滞在時間が長くなっていることが窺える。

図 中心市街地での平均的な滞在時間（全体）

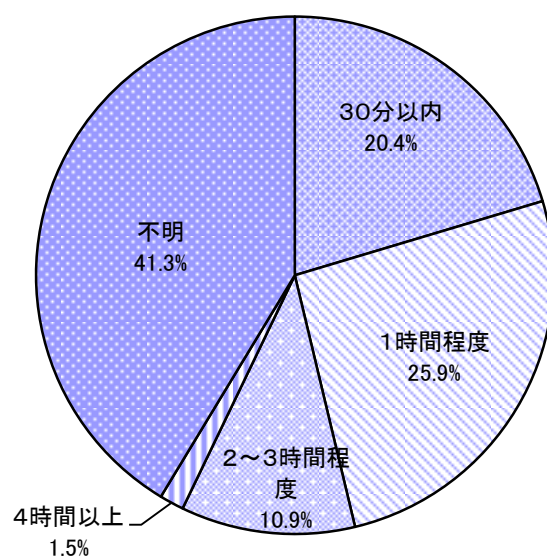


表 中心市街地での平均的な滞在時間（属性別）

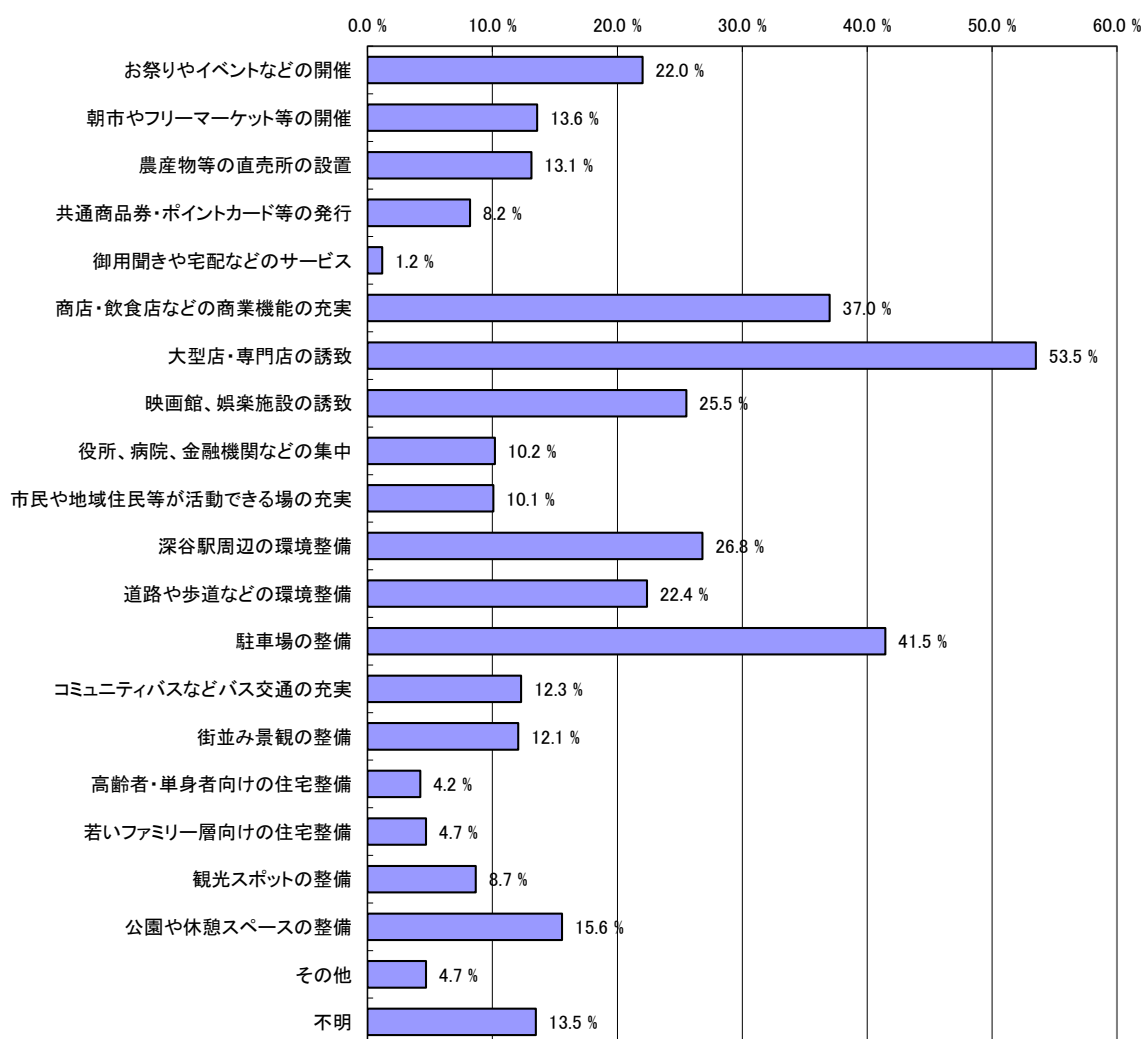
		合計	30分以内	1時間程度	2～3時間程度	4時間以上	不明
全体		854	174	221	93	13	353
		100.0 %	20.4 %	25.9 %	10.9 %	1.5 %	41.3 %
性別	男性	351	69	105	32	3	142
		100.0 %	19.7 %	29.9 %	9.1 %	0.9 %	40.5 %
	女性	500	105	116	61	10	208
		100.0 %	21.0 %	23.2 %	12.2 %	2.0 %	41.6 %
	不明	3	0	0	0	0	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
年齢別	20歳代	74	18	21	6	3	26
		100.0 %	24.3 %	28.4 %	8.1 %	4.1 %	35.1 %
	30歳代	130	27	30	10	2	61
		100.0 %	20.8 %	23.1 %	7.7 %	1.5 %	46.9 %
	40歳代	133	22	34	12	3	62
		100.0 %	16.5 %	25.6 %	9.0 %	2.3 %	46.6 %
	50歳代	148	43	34	16	0	55
		100.0 %	29.1 %	23.0 %	10.8 %	0.0 %	37.2 %
	60歳代	245	45	62	33	3	102
		100.0 %	18.4 %	25.3 %	13.5 %	1.2 %	41.6 %
	70歳代	115	18	37	16	1	43
		100.0 %	15.7 %	32.2 %	13.9 %	0.9 %	37.4 %
	80歳代以上	5	1	3	0	0	1
		100.0 %	20.0 %	60.0 %	0.0 %	0.0 %	20.0 %
	不明	4	0	0	0	1	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %	75.0 %
居住地別	深谷地区	166	60	61	10	3	32
		100.0 %	36.1 %	36.7 %	6.0 %	1.8 %	19.3 %
	藤沢地区	72	14	14	4	0	40
		100.0 %	19.4 %	19.4 %	5.6 %	0.0 %	55.6 %
	幡羅地区	116	14	40	13	3	46
		100.0 %	12.1 %	34.5 %	11.2 %	2.6 %	39.7 %
	明戸地区	24	1	9	5	0	9
		100.0 %	4.2 %	37.5 %	20.8 %	0.0 %	37.5 %
	大寄地区	24	8	5	4	0	7
		100.0 %	33.3 %	20.8 %	16.7 %	0.0 %	29.2 %
	八基地区	16	3	8	3	0	2
		100.0 %	18.8 %	50.0 %	18.8 %	0.0 %	12.5 %
	豊里地区	27	3	8	5	1	10
		100.0 %	11.1 %	29.6 %	18.5 %	3.7 %	37.0 %
	上柴地区	105	27	25	9	1	43
		100.0 %	25.7 %	23.8 %	8.6 %	1.0 %	41.0 %
	南地区	60	19	10	5	1	25
		100.0 %	31.7 %	16.7 %	8.3 %	1.7 %	41.7 %
	岡部地区	98	9	23	12	0	54
		100.0 %	9.2 %	23.5 %	12.2 %	0.0 %	55.1 %
	川本地区	77	7	11	14	3	42
		100.0 %	9.1 %	14.3 %	18.2 %	3.9 %	54.5 %
	花園地区	62	8	6	9	0	39
		100.0 %	12.9 %	9.7 %	14.5 %	0.0 %	62.9 %
	不明	7	1	1	0	1	4
		100.0 %	14.3 %	14.3 %	0.0 %	14.3 %	57.1 %

7) 中心市街地活性化に必要な取組

中心市街地活性化に必要な取組として、大型店や商店などの商業機能の充実や駐車場の整備が求められている。

中心市街地活性化に必要な取組としては、「大型店・専門店の誘致」が 53.3%と最も多く、次いで「駐車場の整備」が 41.5%、「商店・飲食店などの商業機能の充実」が 37.0%となっている。属性別にみても、この傾向は変わらず、キンカ堂の撤退による商業機能の低下が大きな要因として考えられる。

図 中心市街地活性化に必要な取組（全体）



(複数回答)

表 中心市街地活性化に必要な取組（属性別）

		合計	お祭りやイベントなどの開催	朝市やフリーマーケット等の開催	農産物等の直売所の設置	共通商品券・ポイントカード等の発行	御用聞きや宅配などのサービス	商店・飲食店などの商業機能の充実	大型店・専門店の誘致	映画館、娯楽施設の誘致	役所、病院、金融機関などの集中	市民や地域住民等が活動できる場の充実	深谷駅周辺の環境整備	道路や歩道などの環境整備	駐車場の整備	コミュニティバスなどバス交通の充実	街並み景観の整備	高齢者・単身者向けの住宅整備	若いファミリー層向けの住宅整備	観光スポットの整備	公園や休憩スペースの整備	その他	不明
全体		854	188	116	112	70	10	316	457	218	87	86	229	191	354	105	103	36	40	74	133	40	115
		100.0 %	22.0 %	13.6 %	13.1 %	8.2 %	1.2 %	37.0 %	53.5 %	25.5 %	10.2 %	10.1 %	26.8 %	22.4 %	41.5 %	12.3 %	12.1 %	4.2 %	4.7 %	8.7 %	15.6 %	4.7 %	13.5 %
性別	男性	351	71	43	26	23	7	140	195	99	33	30	93	93	136	36	46	10	16	44	51	23	57
		100.0 %	20.2 %	12.3 %	7.4 %	6.6 %	2.0 %	39.9 %	55.6 %	28.2 %	9.4 %	8.5 %	26.5 %	26.5 %	38.7 %	10.3 %	13.1 %	2.8 %	4.6 %	12.5 %	14.5 %	6.6 %	16.2 %
	女性	500	117	72	85	47	3	176	261	119	54	56	136	96	216	68	57	24	24	30	79	17	58
		100.0 %	23.4 %	14.4 %	17.0 %	9.4 %	0.6 %	35.2 %	52.2 %	23.8 %	10.8 %	11.2 %	27.2 %	19.2 %	43.2 %	13.6 %	11.4 %	4.8 %	4.8 %	6.0 %	15.8 %	3.4 %	11.6 %
	不明	3	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	1	0	2	0	0	3	0	0
		100.0 %	0.0 %	33.3 %	33.3 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	33.3 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	66.7 %	66.7 %	33.3 %	0.0 %	66.7 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %
年齢別	20歳代	74	22	11	4	6	3	34	42	37	9	7	20	15	21	11	8	1	9	8	18	2	5
		100.0 %	29.7 %	14.9 %	5.4 %	8.1 %	4.1 %	45.9 %	56.8 %	50.0 %	12.2 %	9.5 %	27.0 %	20.3 %	28.4 %	14.9 %	10.8 %	1.4 %	12.2 %	10.8 %	24.3 %	2.7 %	6.8 %
	30歳代	130	33	23	10	10	1	53	86	57	10	11	31	26	56	10	12	6	11	11	19	10	7
		100.0 %	25.4 %	17.7 %	7.7 %	7.7 %	0.8 %	40.8 %	66.2 %	43.8 %	7.7 %	8.5 %	23.8 %	20.0 %	43.1 %	7.7 %	9.2 %	4.6 %	8.5 %	8.5 %	14.6 %	7.7 %	5.4 %
	40歳代	133	36	21	9	10	2	54	72	47	10	11	42	30	53	16	21	1	4	10	16	12	14
		100.0 %	27.1 %	15.8 %	6.8 %	7.5 %	1.5 %	40.6 %	54.1 %	35.3 %	7.5 %	8.3 %	31.6 %	22.6 %	39.8 %	12.0 %	15.8 %	0.8 %	3.0 %	7.5 %	12.0 %	9.0 %	10.5 %
	50歳代	148	27	15	17	12		46	77	38	13	9	41	31	66	16	18	5	3	12	16	5	28
		100.0 %	18.2 %	10.1 %	11.5 %	8.1 %		31.1 %	52.0 %	25.7 %	8.8 %	6.1 %	27.7 %	20.9 %	44.6 %	10.8 %	12.2 %	3.4 %	2.0 %	8.1 %	10.8 %	3.4 %	18.9 %
	60歳代	245	48	31	44	22	1	89	123	29	23	32	59	58	108	31	29	12	8	24	34	7	43
		100.0 %	19.6 %	12.7 %	18.0 %	9.0 %	0.4 %	36.3 %	50.2 %	11.8 %	9.4 %	13.1 %	24.1 %	23.7 %	44.1 %	12.7 %	11.8 %	4.9 %	3.3 %	9.8 %	13.9 %	2.9 %	17.6 %
	70歳代	115	17	13	26	8	2	39	54	9	19	14	36	27	44	18	14	9	5	9	26	4	18
		100.0 %	14.8 %	11.3 %	22.6 %	7.0 %	1.7 %	33.9 %	47.0 %	7.8 %	16.5 %	12.2 %	31.3 %	23.5 %	38.3 %	15.7 %	12.2 %	7.8 %	4.3 %	7.8 %	22.6 %	3.5 %	15.7 %
	80歳代以上	5	4	1	1	2	1	1	1	1	2	2	0	2	3	1	1	0	0	0	1	0	0
		100.0 %	80.0 %	20.0 %	20.0 %	40.0 %	20.0 %	20.0 %	20.0 %	20.0 %	40.0 %	40.0 %	0.0 %	40.0 %	60.0 %	20.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %
	不明	4	1	1	1	0	0	0	2	0	1	0	0	2	3	2	0	2	0	0	3	0	0
		100.0 %	25.0 %	25.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	75.0 %	50.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	0.0 %	75.0 %	0.0 %	0.0 %
居住地別	深谷地区	166	34	34	26	10	0	71	91	46	15	19	49	35	37	12	19	9	6	9	32	7	29
		100.0 %	20.5 %	20.5 %	15.7 %	6.0 %	0.0 %	42.8 %	54.8 %	27.7 %	9.0 %	11.4 %	29.5 %	21.1 %	22.3 %	7.2 %	11.4 %	5.4 %	3.6 %	5.4 %	19.3 %	4.2 %	17.5 %
	藤沢地区	72	17	10	17	4	0	29	38	18	11	7	26	17	35	6	10	2	3	5	7	5	9
		100.0 %	23.6 %	13.9 %	23.6 %	5.6 %	0.0 %	40.3 %	52.8 %	25.0 %	15.3 %	9.7 %	36.1 %	23.6 %	48.6 %	8.3 %	13.9 %	2.8 %	4.2 %	6.9 %	9.7 %	6.9 %	12.5 %
	幡羅地区	116	31	16	11	14	0	39	65	25	6	15	29	24	59	12	16	4	5	13	19	6	14
		100.0 %	26.7 %	13.8 %	9.5 %	12.1 %	0.0 %	33.6 %	56.0 %	21.6 %	5.2 %	12.9 %	25.0 %	20.7 %	50.9 %	10.3 %	13.8 %	3.4 %	4.3 %	11.2 %	16.4 %	5.2 %	12.1 %
	明戸地区	24	7	1	5	3	0	8	13	8	2	1	6	3	14	2	5	1	0	3	5	0	4
		100.0 %	29.2 %	4.2 %	20.8 %	12.5 %	0.0 %	33.3 %	54.2 %	33.3 %	8.3 %	4.2 %	25.0 %	12.5 %	58.3 %	8.3 %	20.8 %	4.2 %	0.0 %	12.5 %	20.8 %	0.0 %	16.7 %
	大寄地区	24	7	2	4	1	2	8	10	4	2	3	4	1	12	3	2	1	1	2	1	3	5
		100.0 %	29.2 %	8.3 %	16.7 %	4.2 %	8.3 %	33.3 %	41.7 %	16.7 %	8.3 %	12.5 %	16.7 %	4.2 %	50.0 %	12.5 %	8.3 %	4.2 %	4.2 %	8.3 %	4.2 %	12.5 %	20.8 %
	八基地区	16	3	1	3	0	1	6	9	4	2	1	3	4	7	0	1	0	0	0	0	1	4
		100.0 %	18.8 %	6.3 %	18.8 %	0.0 %	6.3 %	37.5 %	56.3 %	25.0 %	12.5 %	6.3 %	18.8 %	25.0 %	43.8 %	0.0 %	6.3 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	6.3 %	25.0 %
	豊里地区	27	6	4	3	1	1	12	13	5	7	4	8	9	9	10	2	2	3	1	7	1	2
		100.0 %	22.2 %	14.8 %	11.1 %	3.7 %	3.7 %	44.4 %	48.1 %	18.5 %	25.9 %	14.8 %	29.6 %	33.3 %	33.3 %	37.0 %	7.4 %	7.4 %	11.1 %	3.7 %	25.9 %	3.7 %	7.4 %
	上柴地区	105	25	14	11	2	1	40	57	29	11	13	33	26	42	14	15	4	6	9	10	3	12
		100.0 %	23.8 %	13.3 %	10.5 %	1.9 %	1.0 %	38.1 %	54.3 %	27.6 %	10.5 %	12.4 %	31.4 %	24.8 %	40.0 %	13.3 %	14.3 %	3.8 %	5.7 %	8.6 %	9.5 %	2.9 %	11.4 %
	南地区	60	14	11	7	11	1	29	38	12	7	4	18	13	27	7	8	3	5	5	10	1	7
		100.0 %	23.3 %	18.3 %	11.7 %	18.3 %	1.7 %	48.3 %	63.3 %	20.0 %	11.7 %	6.7 %	30.0 %	21.7 %	45.0 %	11.7 %	13.3 %	5.0 %	8.3 %	8.3 %	16.7 %	1.7 %	11.7 %
	岡部地区	98	15	10	10	10	1	37	50	20	8	10	27	22	44	11	17	1	2	11	16	5	11
		100.0 %	15.3 %	10.2 %	10.2 %	10.2 %	1.0 %	37.8 %	51.0 %	20.4 %	8.2 %	10.2 %	27.6 %	22.4 %	44.9 %	11.2 %	17.3 %	1.0 %	2.0 %	11.2 %	16.3 %	5.1 %	11.2 %
	川本地区	77	16	6	6	10	3	23	39	27	7	4	13	23	38	13	6	4	5	9	13	5	9
		100.0 %	20.8 %	7.8 %	7.8 %	13.0 %	3.9 %	29.9 %	50.6 %	35.1 %	9.1 %	5.2 %	16.9 %	29.9 %	49.4 %	16.9 %	7.8 %	5.2 %	6.5 %	11.7 %	16.9 %	6.5 %	11.7 %
	花園地区	62	12	4	8	4	0	14	29	17	7	5	13	12	27	13	2	2	3	6	10	2	9
		100.0 %	19.4 %	6.5 %	12.9 %	6.5 %	0.0 %	22.6 %	46.8 %	27.4 %	11.3 %	8.1 %	21.0 %	19.4 %	43.5 %	21.0 %	3.2 %	3.2 %	4.8 %	9.7 %	16.1 %	3.2 %	14.5 %
	不明	7	1	3	1	0	0	0	5	3	2	0	0	2	3	2	0	3	1	1	3	1	0
		100.0 %	14.3 %	42.9 %	14.3 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	71.4 %	42.9 %	28.6 %	0.0 %	0.0 %	28.6 %	42.9 %	28.6 %	0.0 %	42.9 %	14.3 %	14.3 %	42.9 %	14.3 %	0.0 %

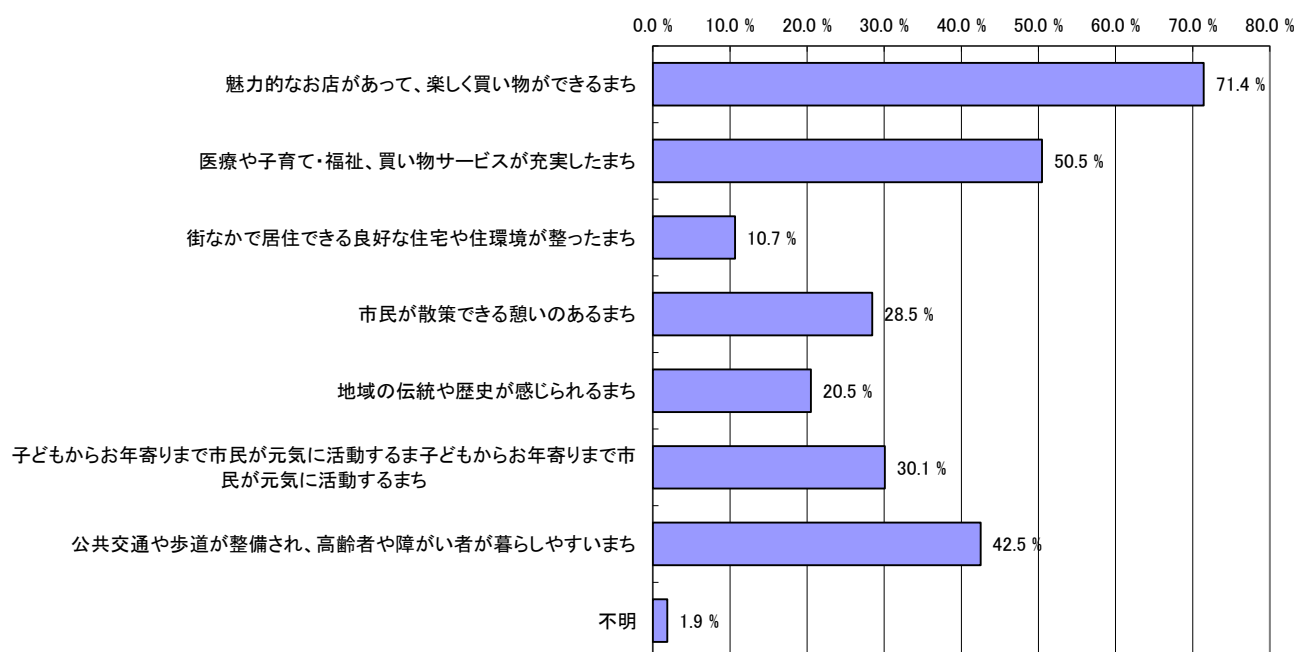
（複数回答）

8) 今後の中心市街地の方向性

今後の方向性として、生活サービスの充実や、高齢者等も暮らしやすい場所が求められる。

今後の中心市街地の方向性としては、「魅力的なお店があって、楽しい買い物ができるまち」が 71.4%と最も多く、次いで「医療や子育て・福祉、買い物サービスが充実したまち」が 50.5%、「公共交通や歩道が整備され、高齢者や障がい者が暮らしやすいまち」が 42.5%となっている。

図 今後の中心市街地の方向性（全体）



(複数回答)

表 今後の中心市街地の方向性（属性別）

		合計	魅力的なお店があつて、楽しく買い物ができるまち	医療や子育て・福祉、買い物サービスが充実したまち	街なかで居住できる良好な住宅や住環境が整ったまち	市民が散策できる憩いのあるまち	地域の伝統や歴史が感じられるまち	子どもからお年寄りまで市民が元気に活動するまち	公共交通や歩道が整備され、高齢者や障がい者が暮らしやすいまち	不明
全体		854	610	431	91	243	175	257	363	16
		100.0 %	71.4 %	50.5 %	10.7 %	28.5 %	20.5 %	30.1 %	42.5 %	1.9 %
性別	男性	351	254	161	47	99	82	105	139	7
		100.0 %	72.4 %	45.9 %	13.4 %	28.2 %	23.4 %	29.9 %	39.6 %	2.0 %
	女性	500	355	269	44	143	93	152	223	8
		100.0 %	71.0 %	53.8 %	8.8 %	28.6 %	18.6 %	30.4 %	44.6 %	1.6 %
	不明	3	1	1	0	1	0	0	1	1
		100.0 %	33.3 %	33.3 %	0.0 %	33.3 %	0.0 %	0.0 %	33.3 %	33.3 %
年齢別	20歳代	74	56	44	16	17	6	26	30	1
		100.0 %	75.7 %	59.5 %	21.6 %	23.0 %	8.1 %	35.1 %	40.5 %	1.4 %
	30歳代	130	98	85	14	25	27	43	40	2
		100.0 %	75.4 %	65.4 %	10.8 %	19.2 %	20.8 %	33.1 %	30.8 %	1.5 %
	40歳代	133	82	70	15	23	35	40	58	2
		100.0 %	61.7 %	52.6 %	11.3 %	17.3 %	26.3 %	30.1 %	43.6 %	1.5 %
	50歳代	148	113	69	10	43	41	32	61	1
		100.0 %	76.4 %	46.6 %	6.8 %	29.1 %	27.7 %	21.6 %	41.2 %	0.7 %
	60歳代	245	172	105	21	96	45	72	113	5
		100.0 %	70.2 %	42.9 %	8.6 %	39.2 %	18.4 %	29.4 %	46.1 %	2.0 %
	70歳代	115	85	56	15	34	19	41	55	4
		100.0 %	73.9 %	48.7 %	13.0 %	29.6 %	16.5 %	35.7 %	47.8 %	3.5 %
	80歳代以上	5	3	1	0	4	1	2	4	0
		100.0 %	60.0 %	20.0 %	0.0 %	80.0 %	20.0 %	40.0 %	80.0 %	0.0 %
	不明	4	1	1	0	1	1	1	2	1
		100.0 %	25.0 %	25.0 %	0.0 %	25.0 %	25.0 %	25.0 %	50.0 %	25.0 %
居住地別	深谷地区	166	124	90	20	58	36	49	64	2
		100.0 %	74.7 %	54.2 %	12.0 %	34.9 %	21.7 %	29.5 %	38.6 %	1.2 %
	藤沢地区	72	55	32	6	20	16	27	22	2
		100.0 %	76.4 %	44.4 %	8.3 %	27.8 %	22.2 %	37.5 %	30.6 %	2.8 %
	幡羅地区	116	82	58	13	34	25	29	55	2
		100.0 %	70.7 %	50.0 %	11.2 %	29.3 %	21.6 %	25.0 %	47.4 %	1.7 %
	明戸地区	24	16	11	5	10	6	10	9	0
		100.0 %	66.7 %	45.8 %	20.8 %	41.7 %	25.0 %	41.7 %	37.5 %	0.0 %
	大寄地区	24	17	14	4	5	6	4	12	0
		100.0 %	70.8 %	58.3 %	16.7 %	20.8 %	25.0 %	16.7 %	50.0 %	0.0 %
	八基地区	16	13	9	2	3	2	4	8	0
		100.0 %	81.3 %	56.3 %	12.5 %	18.8 %	12.5 %	25.0 %	50.0 %	0.0 %
	豊里地区	27	15	19	4	4	3	15	16	0
		100.0 %	55.6 %	70.4 %	14.8 %	14.8 %	11.1 %	55.6 %	59.3 %	0.0 %
	上柴地区	105	76	50	15	28	24	33	37	3
		100.0 %	72.4 %	47.6 %	14.3 %	26.7 %	22.9 %	31.4 %	35.2 %	2.9 %
	南地区	60	45	28	3	19	13	20	26	0
		100.0 %	75.0 %	46.7 %	5.0 %	31.7 %	21.7 %	33.3 %	43.3 %	0.0 %
	岡部地区	98	74	48	5	29	28	24	36	1
		100.0 %	75.5 %	49.0 %	5.1 %	29.6 %	28.6 %	24.5 %	36.7 %	1.0 %
	川本地区	77	53	32	9	21	9	26	42	1
		100.0 %	68.8 %	41.6 %	11.7 %	27.3 %	11.7 %	33.8 %	54.5 %	1.3 %
	花園地区	62	37	37	5	11	6	14	33	4
		100.0 %	59.7 %	59.7 %	8.1 %	17.7 %	9.7 %	22.6 %	53.2 %	6.5 %
	不明	7	3	3	0	1	1	2	3	1
		100.0 %	42.9 %	42.9 %	0.0 %	14.3 %	14.3 %	28.6 %	42.9 %	14.3 %

（複数回答）

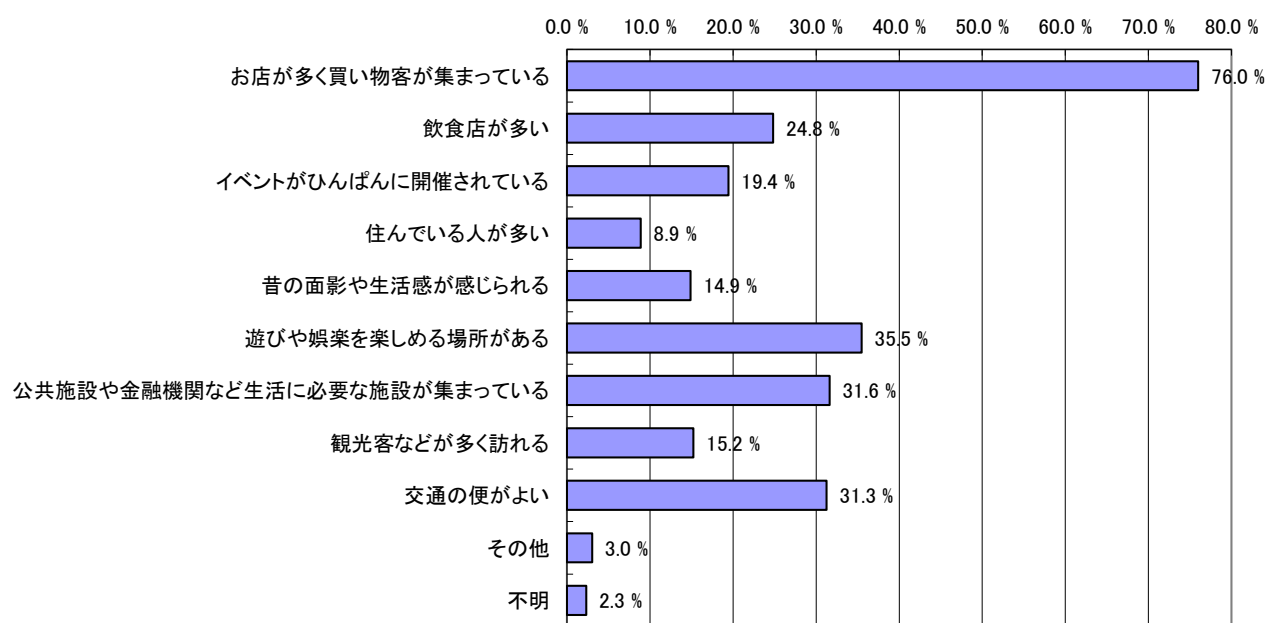
9)「中心市街地のにぎわい」のイメージ

お店の集積が最も求められているほか、若い世代で娯楽やイベント、高齢者では交通の利便性や生活施設の集積が求められている。

「中心市街地のにぎわい」のイメージは、「お店が多く買い物客が集まっている」が76.0%と最も多く、次いで「遊びや娯楽を楽しめる場所がある」が35.5%、「公共施設や金融機関など生活に必要な施設が集まっている」が31.6%となっている。

属性別にみると、若い世代で娯楽やイベントによるにぎわいが求められており、高齢者では交通の利便性や生活施設の集積が求められている。

図 「中心市街地のにぎわい」のイメージ（全体）



(複数回答)

表 「中心市街地のにぎわい」のイメージ（属性別）

		合計	お店が多く 買い物が 集まっている	飲食店が 多い	イベント がひんぱ んに開催 されている	住んでい る人が多い	昔の面影 や生活感 が感じら れる	遊びや娛 楽を楽し める場所 がある	公共施設 や金融機 関など生 活に必要な 施設が集 まっている	観光客な どが多く 訪れる	交通の便 がよい	その他	不明
全体		854	649	212	166	76	127	303	270	130	267	26	20
		100.0 %	76.0 %	24.8 %	19.4 %	8.9 %	14.9 %	35.5 %	31.6 %	15.2 %	31.3 %	3.0 %	2.3 %
性別	男性	351	260	95	67	36	58	131	103	71	98	14	5
		100.0 %	74.1 %	27.1 %	19.1 %	10.3 %	16.5 %	37.3 %	29.3 %	20.2 %	27.9 %	4.0 %	1.4 %
	女性	500	387	117	99	40	68	172	166	59	167	12	14
		100.0 %	77.4 %	23.4 %	19.8 %	8.0 %	13.6 %	34.4 %	33.2 %	11.8 %	33.4 %	2.4 %	2.8 %
	不明	3	2	0	0	0	1	0	1	0	2	0	1
		100.0 %	66.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	33.3 %	0.0 %	33.3 %	0.0 %	66.7 %	0.0 %	33.3 %
年齢別	20歳代	74	58	26	19	4	1	39	20	7	19	0	2
		100.0 %	78.4 %	35.1 %	25.7 %	5.4 %	1.4 %	52.7 %	27.0 %	9.5 %	25.7 %	0.0 %	2.7 %
	30歳代	130	103	46	27	8	16	64	30	20	36	3	0
		100.0 %	79.2 %	35.4 %	20.8 %	6.2 %	12.3 %	49.2 %	23.1 %	15.4 %	27.7 %	2.3 %	0.0 %
	40歳代	133	98	36	30	16	13	49	41	20	34	8	3
		100.0 %	73.7 %	27.1 %	22.6 %	12.0 %	9.8 %	36.8 %	30.8 %	15.0 %	25.6 %	6.0 %	2.3 %
	50歳代	148	118	39	22	7	21	44	46	29	47	4	2
		100.0 %	79.7 %	26.4 %	14.9 %	4.7 %	14.2 %	29.7 %	31.1 %	19.6 %	31.8 %	2.7 %	1.4 %
	60歳代	245	181	51	42	22	45	64	93	40	87	10	6
		100.0 %	73.9 %	20.8 %	17.1 %	9.0 %	18.4 %	26.1 %	38.0 %	16.3 %	35.5 %	4.1 %	2.4 %
	70歳代	115	86	14	22	18	28	43	36	13	38	1	6
		100.0 %	74.8 %	12.2 %	19.1 %	15.7 %	24.3 %	37.4 %	31.3 %	11.3 %	33.0 %	0.9 %	5.2 %
	80歳代 以上	5	3	0	3	1	2	0	2	1	3	0	0
		100.0 %	60.0 %	0.0 %	60.0 %	20.0 %	40.0 %	0.0 %	40.0 %	20.0 %	60.0 %	0.0 %	0.0 %
	不明	4	2	0	1	0	1	0	2	0	3	0	1
		100.0 %	50.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	75.0 %	0.0 %	25.0 %
居住地別	深谷地区	166	125	47	30	20	36	60	52	16	41	4	5
		100.0 %	75.3 %	28.3 %	18.1 %	12.0 %	21.7 %	36.1 %	31.3 %	9.6 %	24.7 %	2.4 %	3.0 %
	藤沢地区	72	55	15	9	11	16	22	23	17	21	2	2
		100.0 %	76.4 %	20.8 %	12.5 %	15.3 %	22.2 %	30.6 %	31.9 %	23.6 %	29.2 %	2.8 %	2.8 %
	幡羅地区	116	91	38	22	5	8	42	32	20	41	3	3
		100.0 %	78.4 %	32.8 %	19.0 %	4.3 %	6.9 %	36.2 %	27.6 %	17.2 %	35.3 %	2.6 %	2.6 %
	明戸地区	24	16	3	7	2	5	9	10	5	5	0	0
		100.0 %	66.7 %	12.5 %	29.2 %	8.3 %	20.8 %	37.5 %	41.7 %	20.8 %	20.8 %	0.0 %	0.0 %
	大寄地区	24	18	4	5	0	5	9	9	1	12	1	0
		100.0 %	75.0 %	16.7 %	20.8 %	0.0 %	20.8 %	37.5 %	37.5 %	4.2 %	50.0 %	4.2 %	0.0 %
	八基地区	16	13	3	4	0	1	5	5	4	7	1	0
		100.0 %	81.3 %	18.8 %	25.0 %	0.0 %	6.3 %	31.3 %	31.3 %	25.0 %	43.8 %	6.3 %	0.0 %
	豊里地区	27	21	5	11	2	3	10	9	4	11	0	0
		100.0 %	77.8 %	18.5 %	40.7 %	7.4 %	11.1 %	37.0 %	33.3 %	14.8 %	40.7 %	0.0 %	0.0 %
	上柴地区	105	84	25	20	12	16	47	32	13	28	5	2
		100.0 %	80.0 %	23.8 %	19.0 %	11.4 %	15.2 %	44.8 %	30.5 %	12.4 %	26.7 %	4.8 %	1.9 %
	南地区	60	49	20	9	9	10	25	19	7	14	2	1
		100.0 %	81.7 %	33.3 %	15.0 %	15.0 %	16.7 %	41.7 %	31.7 %	11.7 %	23.3 %	3.3 %	1.7 %
	岡部地区	98	80	25	20	5	13	25	29	22	31	3	1
		100.0 %	81.6 %	25.5 %	20.4 %	5.1 %	13.3 %	25.5 %	29.6 %	22.4 %	31.6 %	3.1 %	1.0 %
	川本地区	77	49	15	17	5	7	26	28	13	30	5	0
		100.0 %	63.6 %	19.5 %	22.1 %	6.5 %	9.1 %	33.8 %	36.4 %	16.9 %	39.0 %	6.5 %	0.0 %
	花園地区	62	43	11	11	5	6	21	19	8	23	0	5
		100.0 %	69.4 %	17.7 %	17.7 %	8.1 %	9.7 %	33.9 %	30.6 %	12.9 %	37.1 %	0.0 %	8.1 %
	不明	7	5	1	1	0	1	2	3	0	3	0	1
		100.0 %	71.4 %	14.3 %	14.3 %	0.0 %	14.3 %	28.6 %	42.9 %	0.0 %	42.9 %	0.0 %	14.3 %

（複数回答）

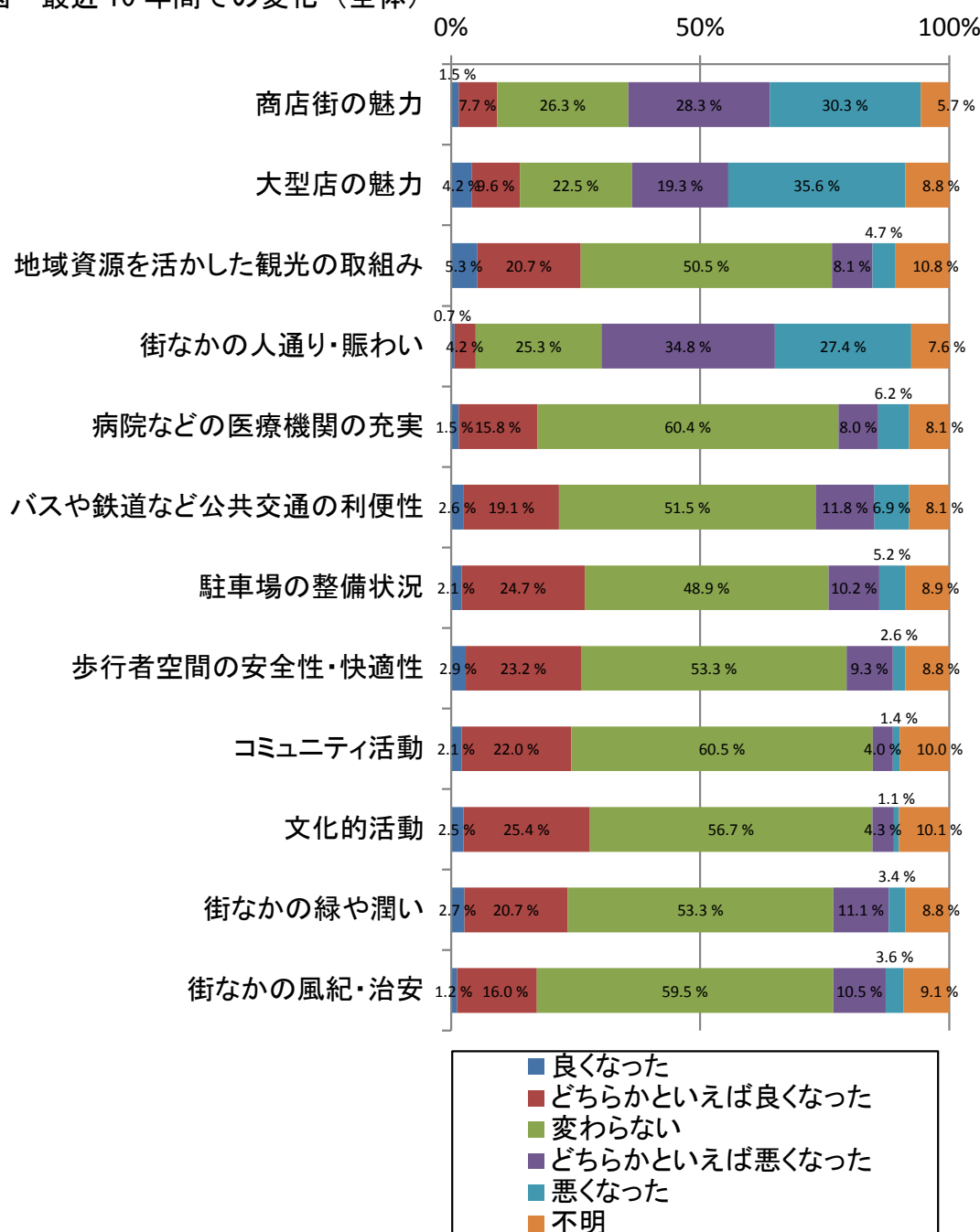
10) 最近 10 年間での変化

最近 10 年間ではコミュニティ活動、文化的活動等に関する項目で、悪くなったと感じている人が少ない。

最近 10 年間の変化として、商業の魅力や大型店の魅力、街なかの人通り・にぎわいに関して、悪くなったと感じている人が多くなっている。駐車場の整備や歩行者空間の安全性・快適性などの市街地整備に関しては、「変わらない」が多いが、「悪くなった」よりも「良くなった」と感じている人が多くなっている。

コミュニティ活動、文化的活動に関しては、悪くなったと感じている人が少なく、今後も中心市街地の魅力として活かしていく必要がある。

図 最近 10 年間での変化（全体）



11) 中心市街地の住みやすさ

中心市街地居住者の約 70%が住みやすいと思っている。

中心市街地居住者のうち、72.1%が住みやすいと思っており、27.9%が住みにくいと思っている。

属性別にみると、特に 50～60 歳代で住みやすいと思っている割合が高い。

図 中心市街地の住みやすさ（全体）

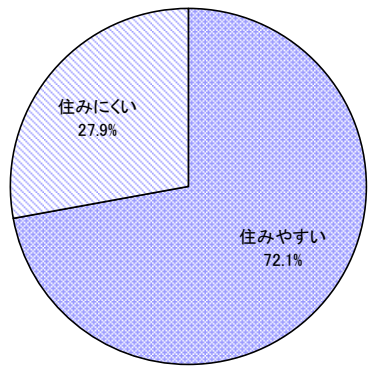


表 中心市街地の住みやすさ（属性別）

		合計	住みやす い	住みにく い
全体		854	44	17
		100.0 %	72.1%	27.9%
性別	男性	351	15	7
		100.0 %	68.2%	31.8%
	女性	500	29	10
		100.0 %	74.4%	25.6%
	不明	3	0	0
		100.0 %	0.0 %	0.0 %
年齢別	20歳代	74	1	1
		100.0 %	50.0%	50.0%
	30歳代	130	8	3
		100.0 %	72.7%	27.3%
	40歳代	133	4	5
		100.0 %	44.4%	55.6%
	50歳代	148	10	0
		100.0 %	100.0%	0.0%
	60歳代	245	12	3
		100.0 %	80.0%	20.0%
	70歳代	115	8	4
		100.0 %	66.7%	33.3%
	80歳代以上	5	1	0
		100.0 %	100.0%	0.0%
	不明	4	0	1
		100.0 %	0.0%	100.0%

12) 将来の中心市街地への居留意向

将来の中心市街地に移り住みたいと思っている人は5.5%と少ない。

将来、中心市街地に移り住みたいと思っている人は5.5%と少なく、81.9%は移り住みたいと思っていないことがわかる。

図 将来の中心市街地への居留意向（全体）

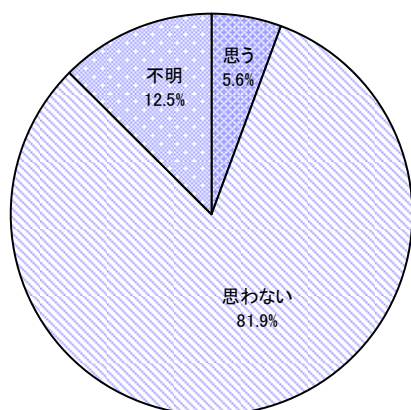


表 将来の中心市街地への居留意向（属性別）

		合計	思う	思わない	不明
全体		854	48	699	107
		100.0	5.6%	81.9%	12.5%
性別	男性	351	24	290	37
		100.0	6.8%	82.6%	10.5%
	女性	500	24	408	68
		100.0	4.8%	81.6%	13.6%
	不明	3	0	1	2
		100.0	0.0%	33.3%	66.7%
年齢別	20歳代	74	8	61	5
		100.0	10.8%	82.4%	6.8%
	30歳代	130	5	111	14
		100.0	3.8%	85.4%	10.8%
	40歳代	133	5	114	14
		100.0	3.8%	85.7%	10.5%
	50歳代	148	9	120	19
		100.0	6.1%	81.1%	12.8%
	60歳代	245	15	207	23
		100.0	6.1%	84.5%	9.4%
	70歳代	115	5	82	28
		100.0	4.3%	71.3%	24.3%
居住地別	80歳代以上	5	1	3	1
		100.0	20.0%	60.0%	20.0%
	不明	4	0	1	3
		100.0	0.0%	25.0%	75.0%
	深谷地区	166	7	102	57
		100.0	4.2%	61.4%	34.3%
	藤沢地区	72	2	65	5
		100.0	2.8%	90.3%	6.9%
	幡羅地区	116	3	101	12
		100.0	2.6%	87.1%	10.3%
	明戸地区	24	4	20	0
		100.0	16.7%	83.3%	0.0%
	大寄地区	24	2	20	2
		100.0	8.3%	83.3%	8.3%
	八基地区	16	3	12	1
		100.0	18.8%	75.0%	6.3%
	豊里地区	27	5	20	2
		100.0	18.5%	74.1%	7.4%
	上柴地区	105	3	96	6
		100.0	2.9%	91.4%	5.7%
	南地区	60	5	53	2
		100.0	8.3%	88.3%	3.3%
	岡部地区	98	7	88	3
		100.0	7.1%	89.8%	3.1%
	川本地区	77	5	64	8
		100.0	6.5%	83.1%	10.4%
	花園地区	62	2	55	5
		100.0	3.2%	88.7%	8.1%
	不明	7		3	4
		100.0	0.0%	42.9%	57.1%

13) 買物場所

日常生活品は近隣の商店・スーパーが多く、買回り品は郊外の大型店や深谷市外での買物が多い。

品目別の買物場所をみると、生鮮食料品や菓子・パン類、日常用品（洗剤など）、くすり・化粧品などの日常生活品は、近隣の商店・スーパーでの買物が多くなっている。

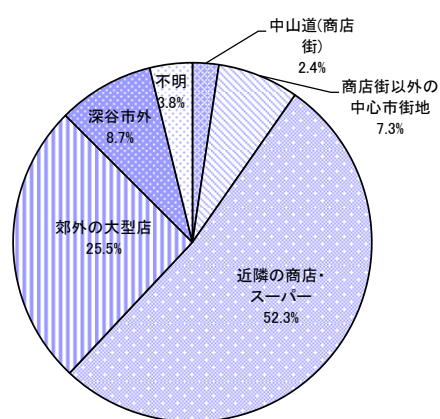
衣類などの身の回り品においては、ふだん着・肌着や子ども服・玩具などは、近隣の商店・スーパーや郊外の大型店での買物が多くなっており、おしゃれ着やアクセサリ・靴・バッグ類においては、深谷市外での買物も同じ割合を占めている。

電化製品・パソコンや家具・インテリア雑貨などの買回り品は、深谷市外での買物が多く、映画等の娯楽においても深谷市外に求める人が多くなっている。

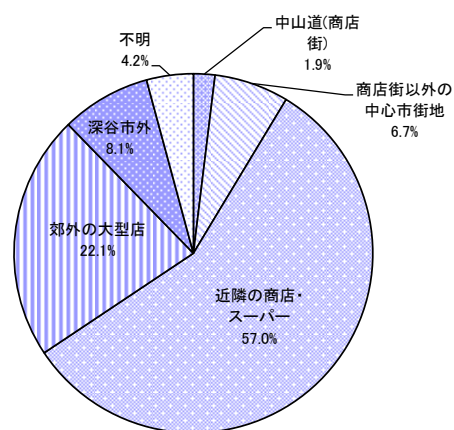
外食や宴会においては、他の品目と比較して、中心市街地内での需要が高くなっている。

図 品目別の買物場所（全体）

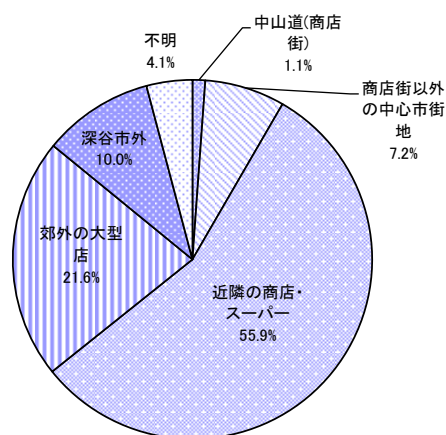
①生鮮食料品



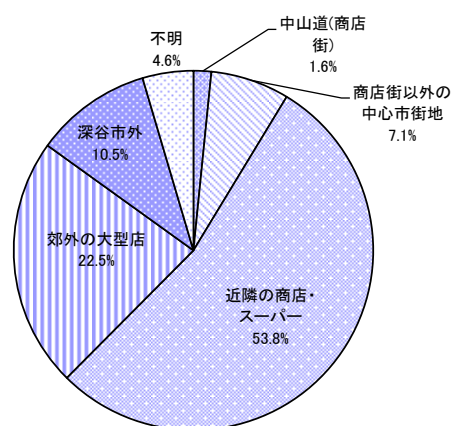
②菓子・パン類



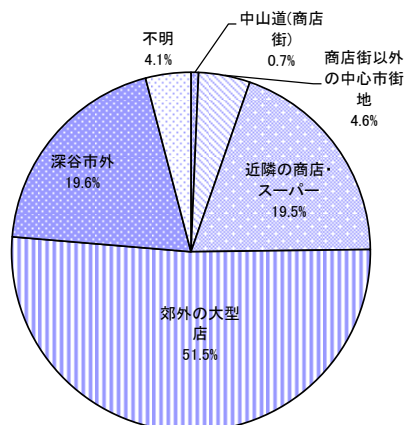
③日常用品（洗剤など）



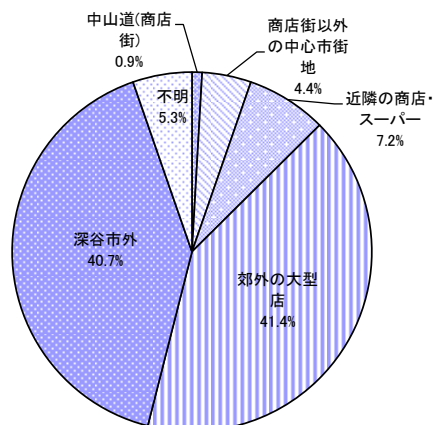
④くすり・化粧品



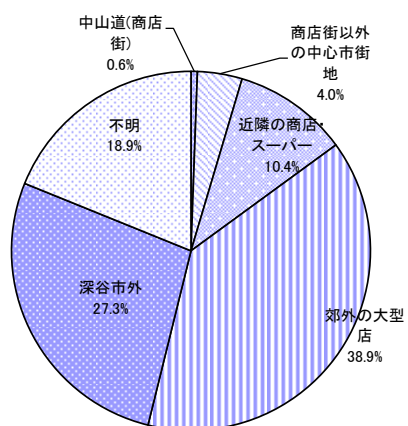
⑤ふだん着・肌着



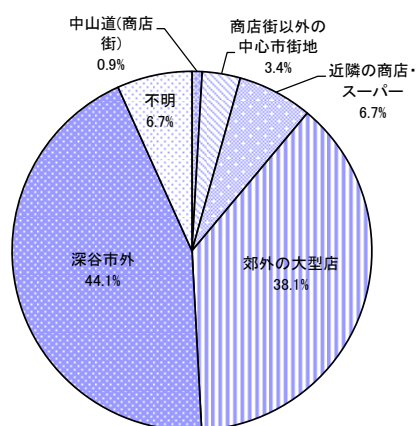
⑥おしゃれ着



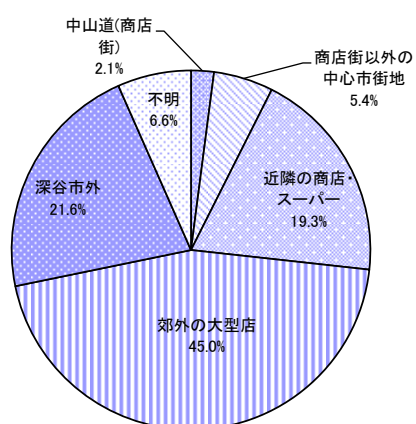
⑦子ども服・玩具



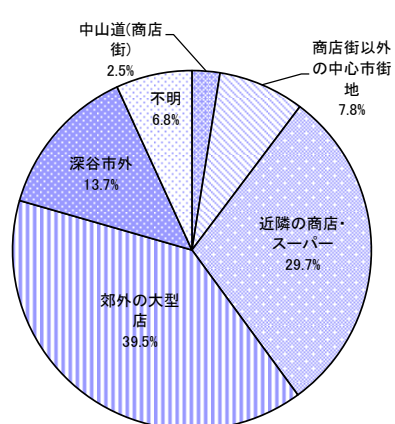
⑧アクセサリ・靴・バッグ類



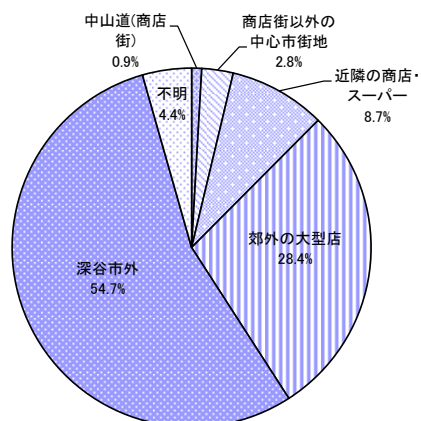
⑨書籍・CDなど



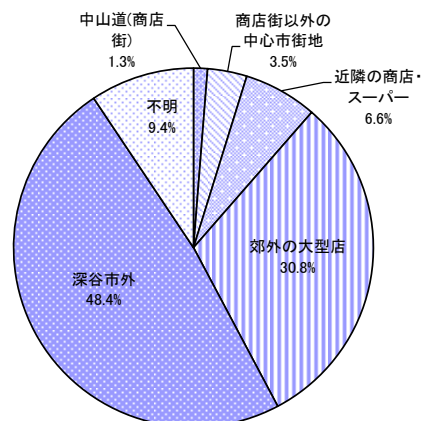
⑩文具



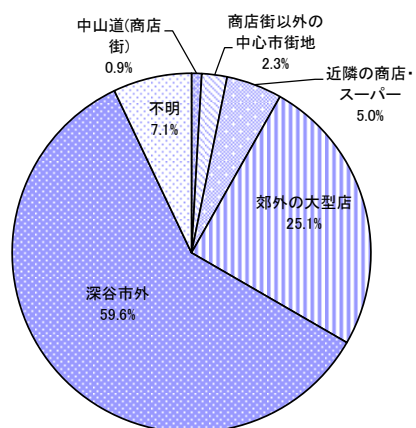
⑪電化製品・パソコンなど



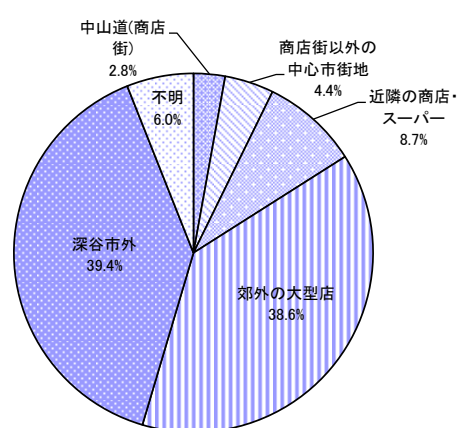
⑫スポーツ・アウトドア用品



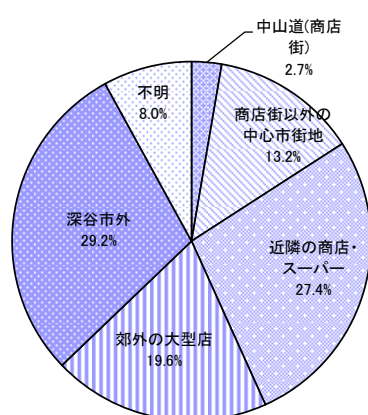
⑬家具・インテリア雑貨



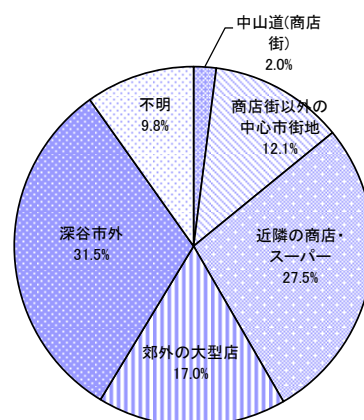
⑭贈答品・プレゼント



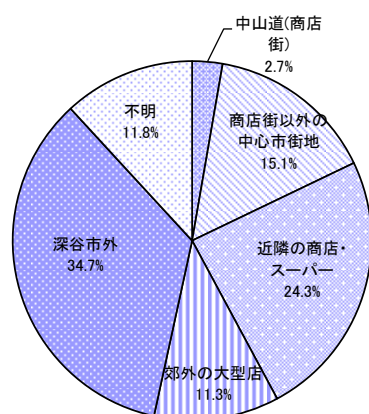
⑮外食（昼食）



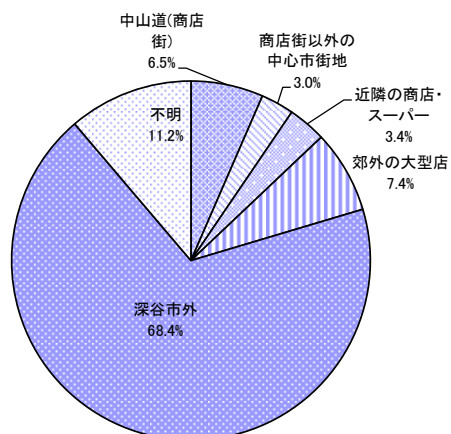
⑯外食（夜食）



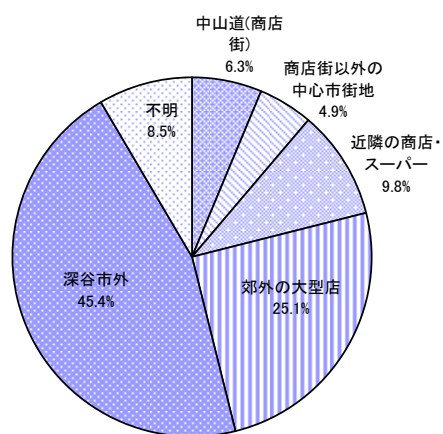
⑪宴会



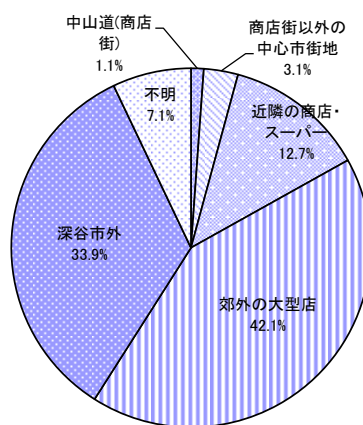
⑫映画等の娯楽



⑬宝石・時計・眼鏡



⑭DIY用品（日曜大工などの作業用品）

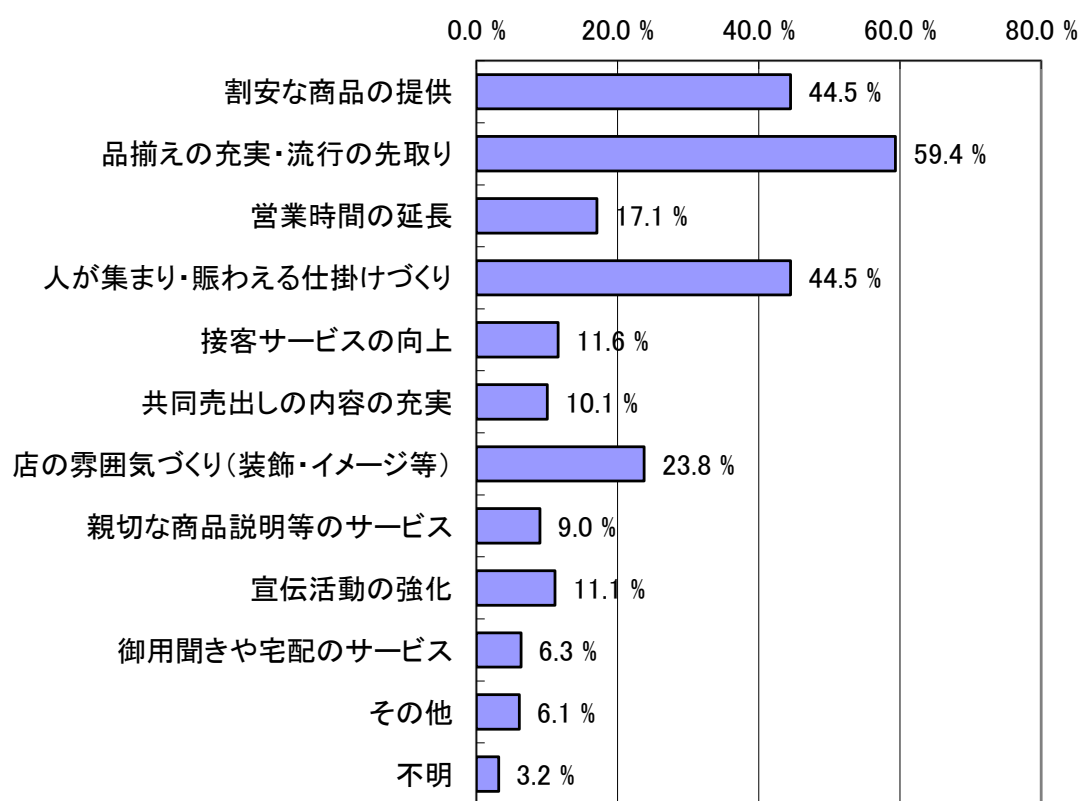


14) 商店街に望むもの

商店街に望むものとして、品揃えや割安な商品の提供など個店の努力によるものと賑わいの仕掛けづくりなど全体での取組の両方が求められる。

商店街に望むものとしては、品揃えの充実・流行の先取りが 59.4%と最も多く、次いで、人が集まり・賑わえる仕掛けづくりや割安な商品の提供が 44.5%となっている。

図 商店街に望むもの（全体）



(複数回答)

表 商店街に望むもの（属性別）

		合計	割安な商品の提供	品揃えの充実・流行の先取り	営業時間の延長	人が集まり・賑わえる仕掛けづくり	接客サービスの向上	共同売出しの内容の充実	店の雰囲気づくり（装飾・イメージ等）	親切な商品説明等のサービス	宣伝活動の強化	御用聞きや宅配のサービス	その他	不明
全体		854	380	507	146	380	99	86	203	77	95	54	52	27
		100.0 %	44.5 %	59.4 %	17.1 %	44.5 %	11.6 %	10.1 %	23.8 %	9.0 %	11.1 %	6.3 %	6.1 %	3.2 %
性別	男性	351	166	205	64	174	35	33	84	26	57	25	18	6
		100.0 %	47.3 %	58.4 %	18.2 %	49.6 %	10.0 %	9.4 %	23.9 %	7.4 %	16.2 %	7.1 %	5.1 %	1.7 %
	女性	500	214	302	82	206	64	53	119	51	38	29	34	18
		100.0 %	42.8 %	60.4 %	16.4 %	41.2 %	12.8 %	10.6 %	23.8 %	10.2 %	7.6 %	5.8 %	6.8 %	3.6 %
	不明	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
年齢別	20歳代	74	18	50	12	32	10	6	22	4	11	9	9	1
		100.0 %	24.3 %	67.6 %	16.2 %	43.2 %	13.5 %	8.1 %	29.7 %	5.4 %	14.9 %	12.2 %	12.2 %	1.4 %
	30歳代	130	44	83	30	62	10	4	41	6	12	7	14	2
		100.0 %	33.8 %	63.8 %	23.1 %	47.7 %	7.7 %	3.1 %	31.5 %	4.6 %	9.2 %	5.4 %	10.8 %	1.5 %
	40歳代	133	62	79	32	49	12	8	41	11	10	7	12	2
		100.0 %	46.6 %	59.4 %	24.1 %	36.8 %	9.0 %	6.0 %	30.8 %	8.3 %	7.5 %	5.3 %	9.0 %	1.5 %
	50歳代	148	64	83	30	70	17	18	32	10	17	10	9	1
		100.0 %	43.2 %	56.1 %	20.3 %	47.3 %	11.5 %	12.2 %	21.6 %	6.8 %	11.5 %	6.8 %	6.1 %	0.7 %
	60歳代	245	122	143	24	115	33	27	51	26	31	16	5	13
		100.0 %	49.8 %	58.4 %	9.8 %	46.9 %	13.5 %	11.0 %	20.8 %	10.6 %	12.7 %	6.5 %	2.0 %	5.3 %
	70歳代	115	66	65	17	48	15	22	16	19	14	4	3	5
		100.0 %	57.4 %	56.5 %	14.8 %	41.7 %	13.0 %	19.1 %	13.9 %	16.5 %	12.2 %	3.5 %	2.6 %	4.3 %
	80歳代以上	5	4	4	0	3	1	1	0	1	0	1	0	0
		100.0 %	80.0 %	80.0 %	0.0 %	60.0 %	20.0 %	20.0 %	0.0 %	20.0 %	0.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %
	不明	4	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %	25.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	75.0 %
居住地別	深谷地区	166	72	102	45	80	15	19	32	16	17	17	8	3
		100.0 %	43.4 %	61.4 %	27.1 %	48.2 %	9.0 %	11.4 %	19.3 %	9.6 %	10.2 %	10.2 %	4.8 %	1.8 %
	藤沢地区	72	33	49	9	31	14	8	19	7	7	4	3	0
		100.0 %	45.8 %	68.1 %	12.5 %	43.1 %	19.4 %	11.1 %	26.4 %	9.7 %	9.7 %	5.6 %	4.2 %	0.0 %
	幡羅地区	116	46	69	21	55	13	8	30	6	15	5	8	4
		100.0 %	39.7 %	59.5 %	18.1 %	47.4 %	11.2 %	6.9 %	25.9 %	5.2 %	12.9 %	4.3 %	6.9 %	3.4 %
	明戸地区	24	11	14	3	10	4	2	5	4	4	3	4	0
		100.0 %	45.8 %	58.3 %	12.5 %	41.7 %	16.7 %	8.3 %	20.8 %	16.7 %	16.7 %	12.5 %	16.7 %	0.0 %
	大寄地区	24	14	12	3	9	6	2	5	2	1	3	2	0
		100.0 %	58.3 %	50.0 %	12.5 %	37.5 %	25.0 %	8.3 %	20.8 %	8.3 %	4.2 %	12.5 %	8.3 %	0.0 %
	八基地区	16	8	12	2	7	0	1	4	1	0	1	1	1
		100.0 %	50.0 %	75.0 %	12.5 %	43.8 %	0.0 %	6.3 %	25.0 %	6.3 %	0.0 %	6.3 %	6.3 %	6.3 %
	豊里地区	27	16	19	7	14	4	2	1	3	4	1	1	0
		100.0 %	59.3 %	70.4 %	25.9 %	51.9 %	14.8 %	7.4 %	3.7 %	11.1 %	14.8 %	3.7 %	3.7 %	0.0 %
	上柴地区	105	41	57	17	57	11	15	27	9	14	4	9	0
		100.0 %	39.0 %	54.3 %	16.2 %	54.3 %	10.5 %	14.3 %	25.7 %	8.6 %	13.3 %	3.8 %	8.6 %	0.0 %
	南地区	60	24	41	14	28	6	6	18	2	4	3	2	1
		100.0 %	40.0 %	68.3 %	23.3 %	46.7 %	10.0 %	10.0 %	30.0 %	3.3 %	6.7 %	5.0 %	3.3 %	1.7 %
	岡部地区	98	49	57	9	39	12	8	26	11	11	6	6	5
		100.0 %	50.0 %	58.2 %	9.2 %	39.8 %	12.2 %	8.2 %	26.5 %	11.2 %	11.2 %	6.1 %	6.1 %	5.1 %
	川本地区	77	36	43	8	31	8	8	19	9	10	3	2	6
		100.0 %	46.8 %	55.8 %	10.4 %	40.3 %	10.4 %	10.4 %	24.7 %	11.7 %	13.0 %	3.9 %	2.6 %	7.8 %
	花園地区	62	30	30	6	17	4	7	17	7	7	4	6	4
		100.0 %	48.4 %	48.4 %	9.7 %	27.4 %	6.5 %	11.3 %	27.4 %	11.3 %	11.3 %	6.5 %	9.7 %	6.5 %
	不明	7	0	2	2	2	2	0	0	0	1	0	0	3
		100.0 %	0.0 %	28.6 %	28.6 %	28.6 %	28.6 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	14.3 %	0.0 %	0.0 %	42.9 %

（複数回答）

15) 空き店舗、空き地の活用方法

今後の方向性として、買物だけではなく、生活の場、高齢者等も暮らしやすい場所が求められる。

空き店舗、空き地の活用方法としては、駐車場が 43.9%と最も多くなっており、次いで、飲食店が 35.4%、カルチャー施設が 32.2%となっている。

属性別にみると、特に若い世代で飲食店や物販店としての活用が求められている。

図 空き店舗、空き地の活用方法（全体）

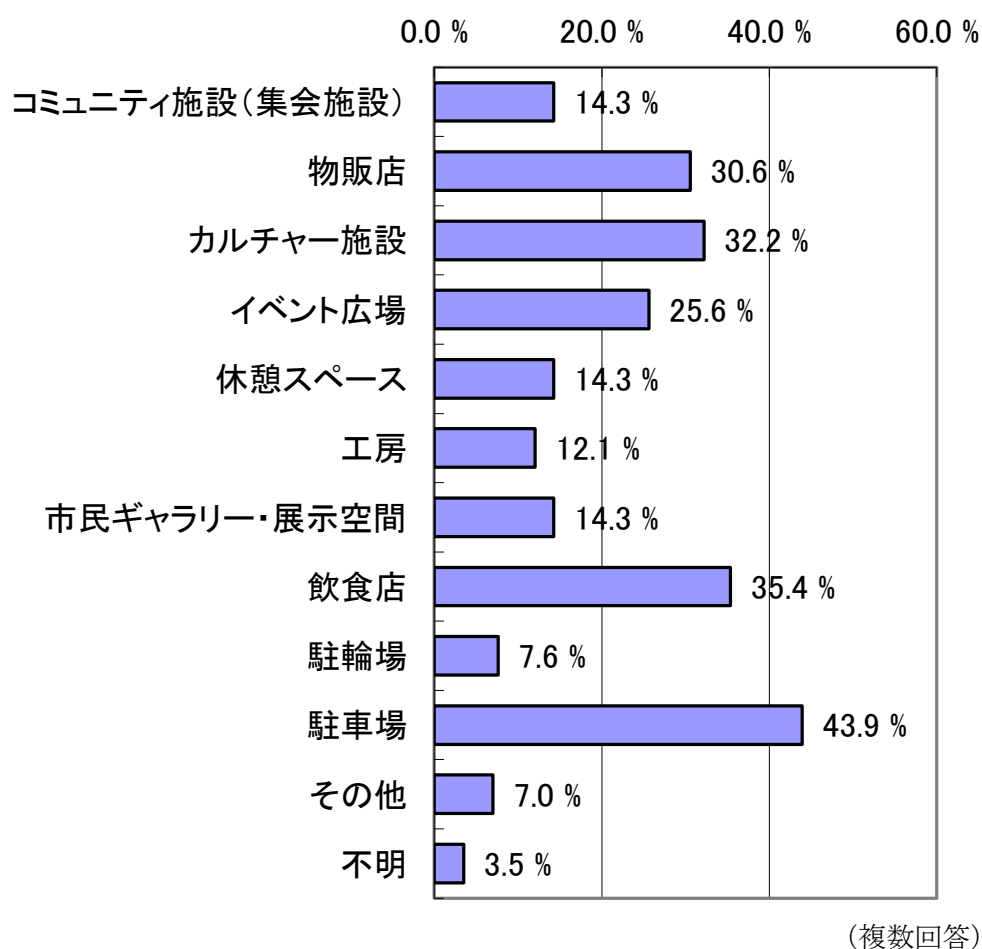


表 空き店舗、空き地の活用方法（属性別）

		合計	コミュニ ニティ 施設 (集会)	物販店	カル チャー 施設	イベン ト広場	休憩ス ペース	工房	市民 ギャー リー・ 展示空	飲食店	駐輪場	駐車場	その他	不明
全体		854	122	261	275	219	122	103	122	302	65	375	60	30
		100.0 %	14.3 %	30.6 %	32.2 %	25.6 %	14.3 %	12.1 %	14.3 %	35.4 %	7.6 %	43.9 %	7.0 %	3.5 %
性別	男性	351	48	116	84	89	62	45	59	114	32	159	35	10
		100.0 %	13.7 %	33.0 %	23.9 %	25.4 %	17.7 %	12.8 %	16.8 %	32.5 %	9.1 %	45.3 %	10.0 %	2.8 %
	女性	500	74	145	191	130	60	58	63	188	33	216	25	17
		100.0 %	14.8 %	29.0 %	38.2 %	26.0 %	12.0 %	11.6 %	12.6 %	37.6 %	6.6 %	43.2 %	5.0 %	3.4 %
	不明	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
年齢別	20歳代	74	14	26	22	17	9	7	8	38	5	30	7	1
		100.0 %	18.9 %	35.1 %	29.7 %	23.0 %	12.2 %	9.5 %	10.8 %	51.4 %	6.8 %	40.5 %	9.5 %	1.4 %
	30歳代	130	16	42	42	35	13	11	5	59	11	59	14	1
		100.0 %	12.3 %	32.3 %	32.3 %	26.9 %	10.0 %	8.5 %	3.8 %	45.4 %	8.5 %	45.4 %	10.8 %	0.8 %
	40歳代	133	16	41	46	29	12	20	13	56	10	54	13	4
		100.0 %	12.0 %	30.8 %	34.6 %	21.8 %	9.0 %	15.0 %	9.8 %	42.1 %	7.5 %	40.6 %	9.8 %	3.0 %
	50歳代	148	15	44	55	38	16	22	21	54	9	62	10	5
		100.0 %	10.1 %	29.7 %	37.2 %	25.7 %	10.8 %	14.9 %	14.2 %	36.5 %	6.1 %	41.9 %	6.8 %	3.4 %
	60歳代	245	31	73	80	65	39	27	46	66	17	123	12	11
		100.0 %	12.7 %	29.8 %	32.7 %	26.5 %	15.9 %	11.0 %	18.8 %	26.9 %	6.9 %	50.2 %	4.9 %	4.5 %
	70歳代	115	28	34	28	32	31	14	29	28	11	44	4	5
		100.0 %	24.3 %	29.6 %	24.3 %	27.8 %	27.0 %	12.2 %	25.2 %	24.3 %	9.6 %	38.3 %	3.5 %	4.3 %
	80歳代 以上	5	2	1	2	2	2	2	0	1	1	2	0	0
		100.0 %	40.0 %	20.0 %	40.0 %	40.0 %	40.0 %	40.0 %	0.0 %	20.0 %	20.0 %	40.0 %	0.0 %	0.0 %
	不明	4	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %	25.0 %	0.0 %	75.0 %
居住地別	深谷地区	166	24	70	54	42	26	20	19	68	16	48	17	5
		100.0 %	14.5 %	42.2 %	32.5 %	25.3 %	15.7 %	12.0 %	11.4 %	41.0 %	9.6 %	28.9 %	10.2 %	3.0 %
	藤沢地区	72	7	19	24	24	9	12	10	22	7	34	6	0
		100.0 %	9.7 %	26.4 %	33.3 %	33.3 %	12.5 %	16.7 %	13.9 %	30.6 %	9.7 %	47.2 %	8.3 %	0.0 %
	幡羅地区	116	16	43	34	22	12	15	13	43	10	56	8	5
		100.0 %	13.8 %	37.1 %	29.3 %	19.0 %	10.3 %	12.9 %	11.2 %	37.1 %	8.6 %	48.3 %	6.9 %	4.3 %
	明戸地区	24	6	6	10	10	5	0	1	8	0	13	0	1
		100.0 %	25.0 %	25.0 %	41.7 %	41.7 %	20.8 %	0.0 %	4.2 %	33.3 %	0.0 %	54.2 %	0.0 %	4.2 %
	大寄地区	24	1	6	8	6	1	4	7	6	1	13	3	0
		100.0 %	4.2 %	25.0 %	33.3 %	25.0 %	4.2 %	16.7 %	29.2 %	25.0 %	4.2 %	54.2 %	12.5 %	0.0 %
	八基地区	16	3	3	4	4	2	1	2	2	1	11	1	1
		100.0 %	18.8 %	18.8 %	25.0 %	25.0 %	12.5 %	6.3 %	12.5 %	12.5 %	6.3 %	68.8 %	6.3 %	6.3 %
	豊里地区	27	4	10	7	13	5	4	4	11	1	12	2	0
		100.0 %	14.8 %	37.0 %	25.9 %	48.1 %	18.5 %	14.8 %	14.8 %	40.7 %	3.7 %	44.4 %	7.4 %	0.0 %
	上柴地区	105	18	30	40	21	12	13	9	40	11	50	6	3
		100.0 %	17.1 %	28.6 %	38.1 %	20.0 %	11.4 %	12.4 %	8.6 %	38.1 %	10.5 %	47.6 %	5.7 %	2.9 %
	南地区	60	5	20	21	13	10	7	11	27	2	25	4	2
		100.0 %	8.3 %	33.3 %	35.0 %	21.7 %	16.7 %	11.7 %	18.3 %	45.0 %	3.3 %	41.7 %	6.7 %	3.3 %
	岡部地区	98	19	18	32	22	17	10	19	31	10	43	7	2
		100.0 %	19.4 %	18.4 %	32.7 %	22.4 %	17.3 %	10.2 %	19.4 %	31.6 %	10.2 %	43.9 %	7.1 %	2.0 %
	川本地区	77	10	18	22	23	17	11	13	25	4	38	4	4
		100.0 %	13.0 %	23.4 %	28.6 %	29.9 %	22.1 %	14.3 %	16.9 %	32.5 %	5.2 %	49.4 %	5.2 %	5.2 %
	花園地区	62	9	18	18	16	6	5	13	18	1	30	2	4
		100.0 %	14.5 %	29.0 %	29.0 %	25.8 %	9.7 %	8.1 %	21.0 %	29.0 %	1.6 %	48.4 %	3.2 %	6.5 %
	不明	7	0	0	1	3	0	1	1	1	1	2	0	3
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	14.3 %	42.9 %	0.0 %	14.3 %	14.3 %	14.3 %	14.3 %	28.6 %	0.0 %	42.9 %

(複数回答)

(2) 職員アンケート調査

① 調査概要

1) 調査概要

各分野の実務に携わる職員一人ひとりに、中心市街地に関わる課題を考えていただき、それを改善する取組を提案していただくことを目的としており、中心市街地活性化に求められる課題対応型の取組・方向性についての検討資料として活用する。

2) 調査方法

- ・ 深谷市職員を対象として、ネット上での直接入力

3) 調査期間

- ・ 平成 23 年 12 月 12 日（月）～平成 23 年 12 月 16 日（金）

4) 回収状況

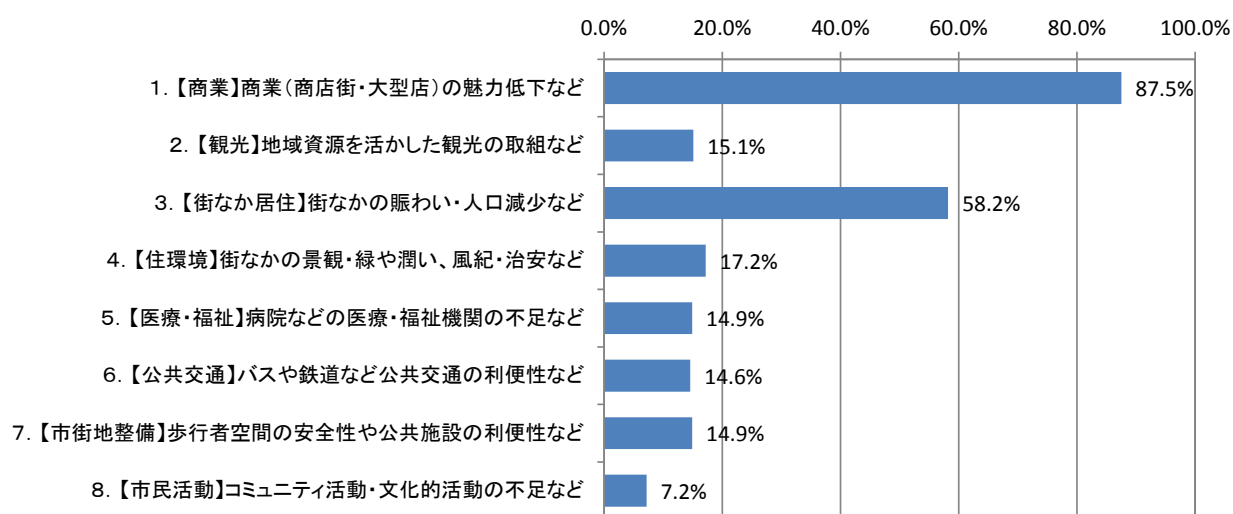
- ・ 471 票

②調査結果

1) 以前（１０年くらい前）と比べて「悪くなった」と感じられる分野

以前（１０年くらい前）と比べて「悪くなった」と感じられる分野は、「商業（商店街・大型店）の魅力低下など」が 87.5%と最も多く、次いで「街なかの賑わい・人口減少など」が 58.2%となっており、市民意向と同様の分野で「悪くなった」と感じている。その他の分野は、概ね 15%程度となっている。

図 以前（１０年くらい前）と比べて「悪くなった」と感じられる分野



(複数回答)

表 以前（１０年くらい前）と比べて「悪くなった」と感じられる分野

項目	回答数	構成比
1.【商業】商業(商店街・大型店)の魅力低下など	412	87.5%
2.【観光】地域資源を活かした観光の取組など	71	15.1%
3.【街なか居住】街なかの賑わい・人口減少など	274	58.2%
4.【住環境】街なかの景観・緑や潤い、風紀・治安など	81	17.2%
5.【医療・福祉】病院などの医療・福祉機関の不足など	70	14.9%
6.【公共交通】バスや鉄道など公共交通の利便性など	69	14.6%
7.【市街地整備】歩行者空間の安全性や公共施設の利便性など	70	14.9%
8.【市民活動】コミュニティ活動・文化的活動の不足など	34	7.2%
総数	471	100.0%

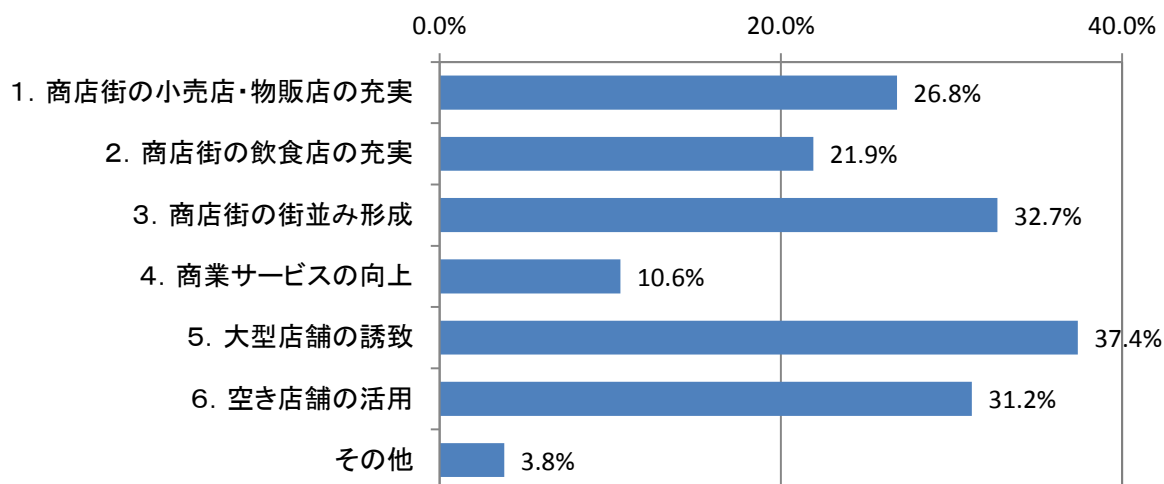
(複数回答)

2) 各分野について、改善するための取組

各分野について、改善するための取組は、特に以前（10 年くらい前）と比べて「悪くなった」と感じられる商業分野においては、「大型店舗の誘致」が 37.4%となっており、次いで「商店街の街並み形成」が 32.7%となっている。

また、街なか居住の分野では、「若者を対象とした街なか居住の推進」が 35.7%と最も多く、次いで「空き家の活用」が 25.7%となっている。

図 【商業】について、改善するための取組



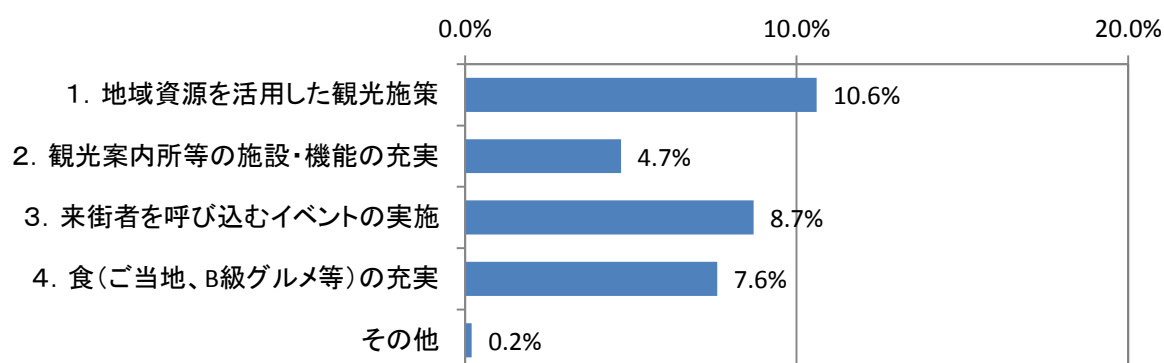
(複数回答)

表 【商業】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 商店街の小売店・物販店の充実	126	26.8%
2. 商店街の飲食店の充実	103	21.9%
3. 商店街の街並み形成	154	32.7%
4. 商業サービスの向上	50	10.6%
5. 大型店舗の誘致	176	37.4%
6. 空き店舗の活用	147	31.2%
その他	18	3.8%
総数	471	100.0%

(複数回答)

図 【観光】について、改善するための取組



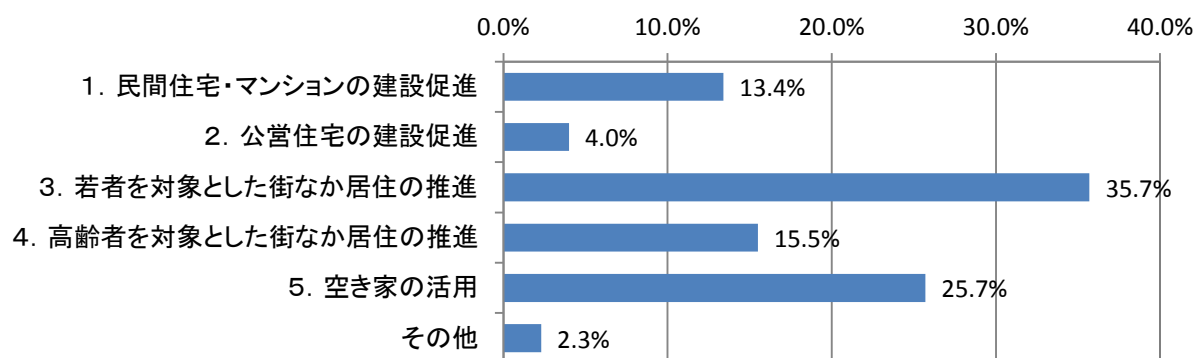
(複数回答)

表 【観光】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 地域資源を活用した観光施策	50	10.6%
2. 観光案内所等の施設・機能の充実	22	4.7%
3. 来街者を呼び込むイベントの実施	41	8.7%
4. 食(ご当地、B級グルメ等)の充実	36	7.6%
その他	1	0.2%
総数	471	100.0%

(複数回答)

図 【街なか居住】について、改善するための取組



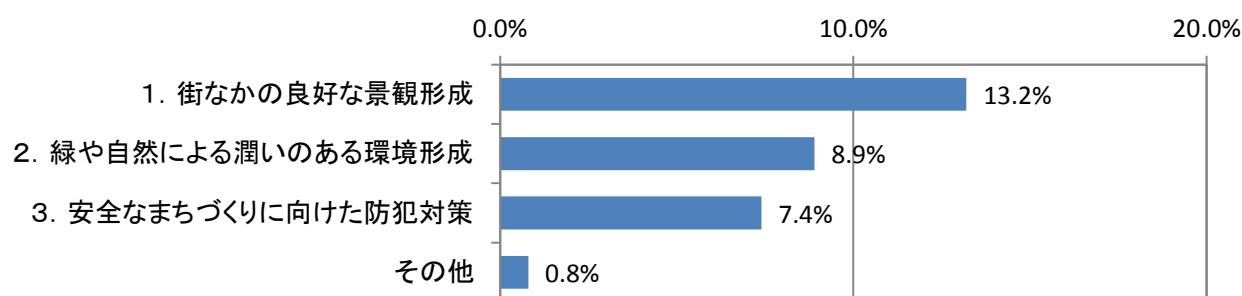
(複数回答)

表 【街なか居住】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 民間住宅・マンションの建設促進	63	13.4%
2. 公営住宅の建設促進	19	4.0%
3. 若者を対象とした街なか居住の推進	168	35.7%
4. 高齢者を対象とした街なか居住の推進	73	15.5%
5. 空き家の活用	121	25.7%
その他	11	2.3%
総数	471	100.0%

(複数回答)

図 【住環境】について、改善するための取組



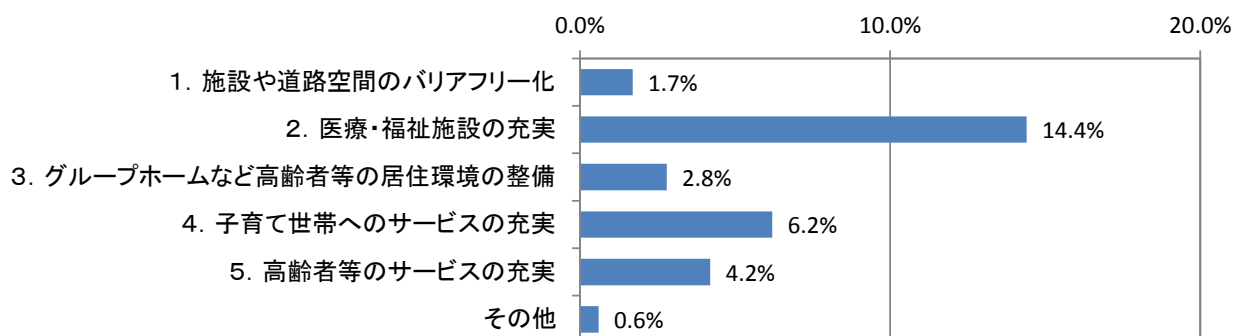
(複数回答)

表 【住環境】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 街なかの良好な景観形成	62	13.2%
2. 緑や自然による潤いのある環境形成	42	8.9%
3. 安全なまちづくりに向けた防犯対策	35	7.4%
その他	4	0.8%
総数	471	100.0%

(複数回答)

図 【医療・福祉】について、改善するための取組



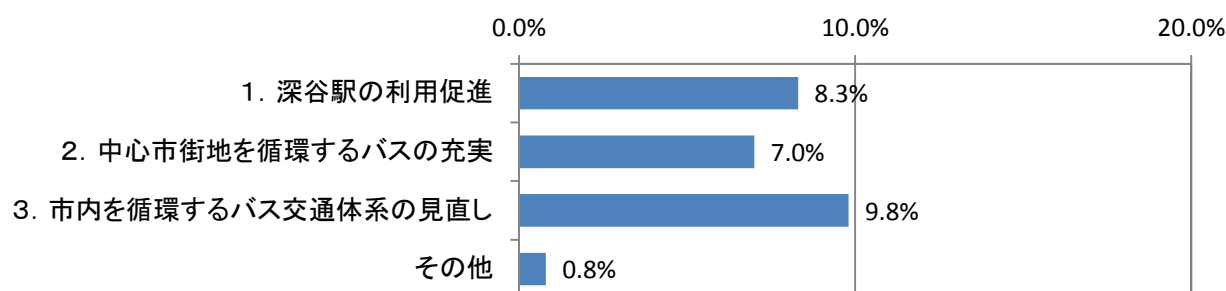
(複数回答)

表 【医療・福祉】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 施設や道路空間のバリアフリー化	8	1.7%
2. 医療・福祉施設の充実	68	14.4%
3. グループホームなど高齢者等の居住環境の整備	13	2.8%
4. 子育て世帯へのサービスの充実	29	6.2%
5. 高齢者等のサービスの充実	20	4.2%
その他	3	0.6%
総数	471	100.0%

(複数回答)

図 【公共交通】について、改善するための取組



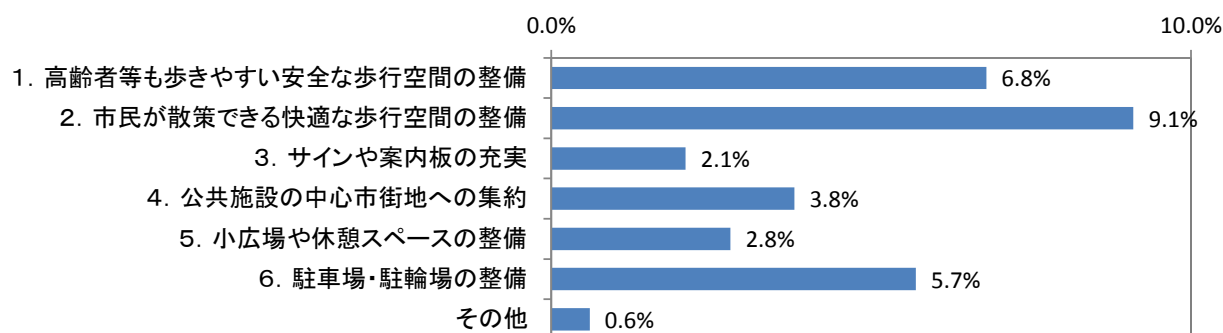
(複数回答)

表 【公共交通】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 深谷駅の利用促進	39	8.3%
2. 中心市街地を循環するバスの充実	33	7.0%
3. 市内を循環するバス交通体系の見直し	46	9.8%
その他	4	0.8%
総数	471	100.0%

(複数回答)

図 【市街地整備】について、改善するための取組



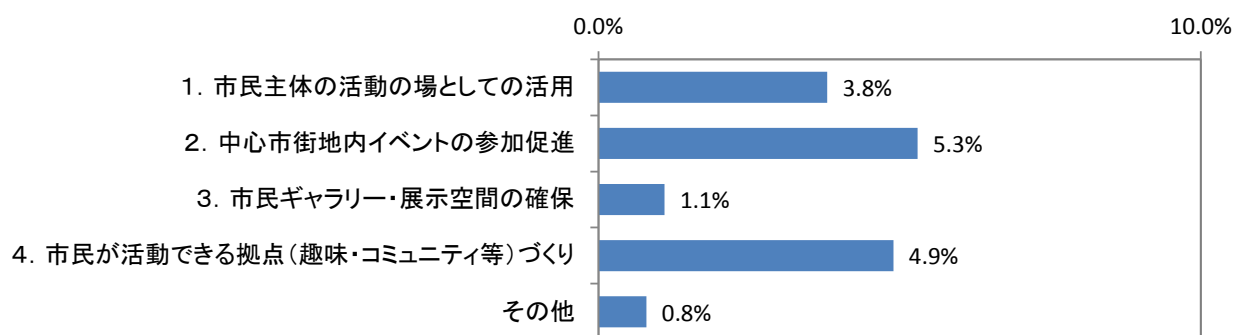
(複数回答)

表 【市街地整備】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 高齢者等も歩きやすい安全な歩行空間の整備	32	6.8%
2. 市民が散策できる快適な歩行空間の整備	43	9.1%
3. サインや案内板の充実	10	2.1%
4. 公共施設の中心市街地への集約	18	3.8%
5. 小広場や休憩スペースの整備	13	2.8%
6. 駐車場・駐輪場の整備	27	5.7%
その他	3	0.6%
総数	471	100.0%

(複数回答)

図 【市民活動】について、改善するための取組



(複数回答)

表 【市民活動】について、改善するための取組

項目	回答数	構成比
1. 市民主体の活動の場としての活用	18	3.8%
2. 中心市街地内イベントの参加促進	25	5.3%
3. 市民ギャラリー・展示空間の確保	5	1.1%
4. 市民が活動できる拠点(趣味・コミュニティ等)づくり	23	4.9%
その他	4	0.8%
総数	471	100.0%

(複数回答)

(3) 大型店利用者ヒアリング調査

① 調査概要

1) 調査概要

アリオ深谷の利用者に対し、施設の利用目的、頻度とともに、中心市街地（商店街）を利用しない理由や中心市街地に望むことを把握し、今後の中心市街地活性化、利用者の増加に向けた分析を行う。

2) 調査方法

- ・アリオ深谷 1 階及び 2 階駐車場口付近にて、立会いによるヒアリング調査

3) 調査日時

- ・平成 23 年 11 月 29 日（火）10：00～17：00

4) 回収状況

- ・325 票

②調査結果

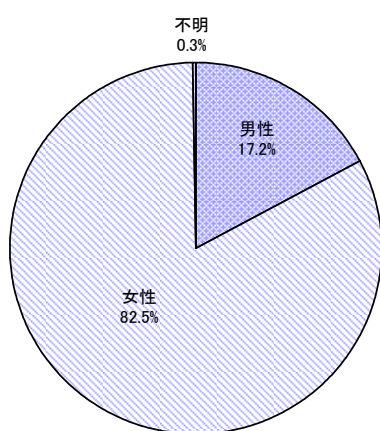
1) 回答者の属性

回答者の属性は、性別でみると、男性が17.2%、女性が82.5%となっている。

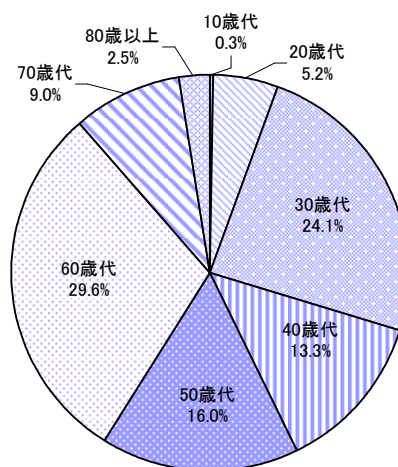
年齢別にみると、60歳代が29.6%と最も多く、次いで30歳代以上が25.7%、50歳代が16.0%となっており、30歳代の主婦層や60歳以上の高齢者が多く利用していることがわかる。

居住地別にみると、深谷市内では深谷地区が23.4%、上柴地区が13.2%と多くなっている。深谷市外からは37.8%と多くなっており、平日にも係らず広域からの利用も見受けられる。

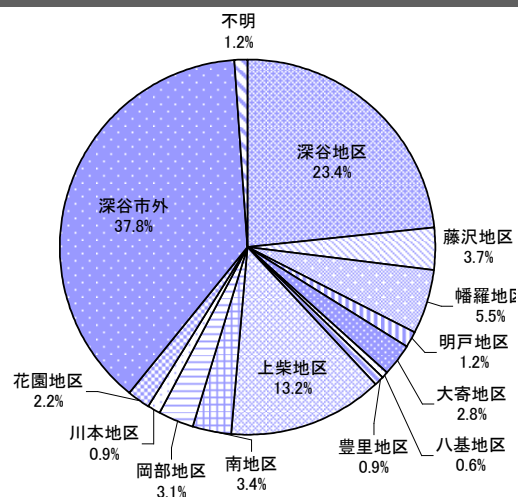
◆性別



◆年齢



◆居住地



2) アリオ深谷に来店する頻度

市内居住者は、週に数回理由しており、市外居住者は、月に数回利用する

アリオ深谷に来店する頻度は、週に 2 ～3 回が 26.2%と多く、次いで週 1 回程度が 20.9%、月に数回が 16.9%となっており、日常的に利用している人が多いことがわかる。

居住地別にみると、深谷市内居住者は、週に 2～3 回及び週 1 回程度の利用が多く、深谷市外居住者は、月に数回及び月に 1 ～2 回程度の利用が多くなっている。

図 アリオ深谷に来店する頻度（全体）

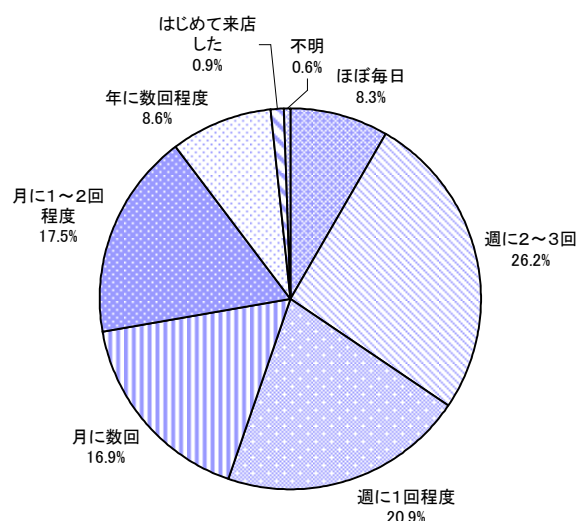


表 アリオ深谷に来店する頻度（属性別）

		合計	ほぼ毎日	週に 2 ～ 3 回	週に 1 回 程度	月に数回	月に 1 ～ 2 回程度	年に数回 程度	はじめて 来店した	不明
性 別	全体	325	27	85	68	55	57	28	3	2
		100.0 %	8.3 %	26.2 %	20.9 %	16.9 %	17.5 %	8.6 %	0.9 %	0.6 %
	男性	56	3	12	10	8	13	7	3	0
		100.0 %	5.4 %	21.4 %	17.9 %	14.3 %	23.2 %	12.5 %	5.4 %	0.0 %
	女性	268	24	73	58	47	44	21	0	1
		100.0 %	9.0 %	27.2 %	21.6 %	17.5 %	16.4 %	7.8 %	0.0 %	0.4 %
年 齢 別	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
	10歳代	18	2	1	5	5	1	3	1	0
	20歳代	100.0 %	11.1 %	5.6 %	27.8 %	27.8 %	5.6 %	16.7 %	5.6 %	0.0 %
	30歳代	121	3	37	28	22	23	7	1	0
	40歳代	100.0 %	2.5 %	30.6 %	23.1 %	18.2 %	19.0 %	5.8 %	0.8 %	0.0 %
	50歳代	148	15	39	29	25	22	17	0	1
	60歳代	100.0 %	10.1 %	26.4 %	19.6 %	16.9 %	14.9 %	11.5 %	0.0 %	0.7 %
	70歳代 以上	37	7	8	6	3	11	1	1	0
		100.0 %	18.9 %	21.6 %	16.2 %	8.1 %	29.7 %	2.7 %	2.7 %	0.0 %
居 住 地 別	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
	深谷市内	198	23	64	49	29	24	9	0	0
		100.0 %	11.6 %	32.3 %	24.7 %	14.6 %	12.1 %	4.5 %	0.0 %	0.0 %
	深谷市外	123	4	19	19	25	33	19	3	1
		100.0 %	3.3 %	15.4 %	15.4 %	20.3 %	26.8 %	15.4 %	2.4 %	0.8 %
	不明	4	0	2	0	1	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	50.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %

3) アリオ深谷への今回の来店目的

アリオへの来店は、買物目的が90%を占める。

アリオ深谷の利用目的として、買物は91.7%と、買物目的とした利用者が多い。

特に、女性や30歳代以上の中高年層は、ほとんどが買物目的として利用していることがわかる。

図 アリオ深谷への今回の来店目的（全体）

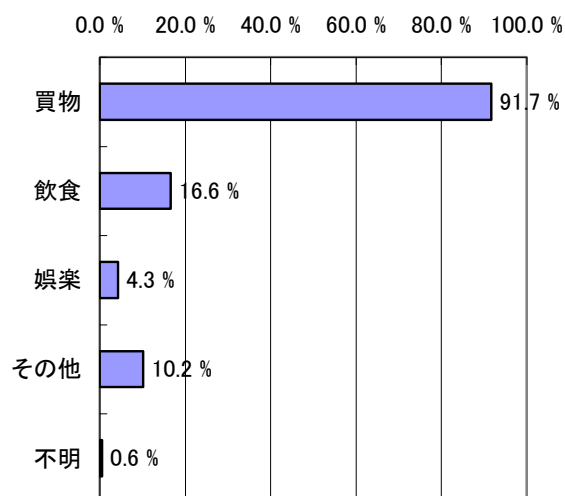


表 アリオ深谷への今回の来店目的（属性別）

		合計	買物	飲食	娯楽	その他	不明
全体		325	298	54	14	33	2
		100.0 %	91.7 %	16.6 %	4.3 %	10.2 %	0.6 %
性別	男性	56	45	12	1	4	0
		100.0 %	80.4 %	21.4 %	1.8 %	7.1 %	0.0 %
	女性	268	253	42	13	29	1
		100.0 %	94.4 %	15.7 %	4.9 %	10.8 %	0.4 %
	不明	1	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
年齢別	10歳代	18	13	2	0	4	0
	20歳代	100.0 %	72.2 %	11.1 %	0.0 %	22.2 %	0.0 %
	30歳代	121	116	17	6	16	0
	40歳代	100.0 %	95.9 %	14.0 %	5.0 %	13.2 %	0.0 %
	50歳代	148	133	25	7	13	1
	60歳代	100.0 %	89.9 %	16.9 %	4.7 %	8.8 %	0.7 %
	70歳代以上	37	36	10	1	0	0
		100.0 %	97.3 %	27.0 %	2.7 %	0.0 %	0.0 %
	不明	1	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
居住地別	深谷市内	198	182	29	10	21	1
		100.0 %	91.9 %	14.6 %	5.1 %	10.6 %	0.5 %
	深谷市外	123	115	23	4	11	0
		100.0 %	93.5 %	18.7 %	3.3 %	8.9 %	0.0 %
	不明	4	1	2	0	1	1
		100.0 %	25.0 %	50.0 %	0.0 %	25.0 %	25.0 %

（複数回答）

4) 深谷市の中心市街地（深谷駅や市役所の周辺）の利用状況

アリオ来店者の中心市街地の利用状況は極めて少ない。

深谷市の中心市街地の利用状況は、ほとんど行かないが 56.3%を占め、年に数回が 12.6%となっている。

属性別にみると、70 歳代以上の高齢者や深谷市外居住者は、中心市街地の利用が少ないことがわかる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）

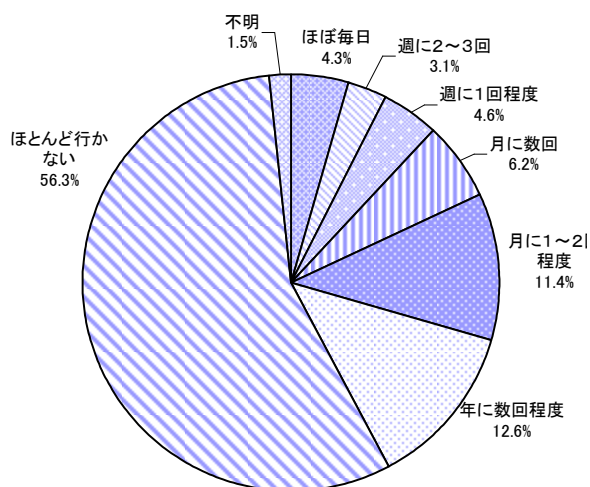


表 深谷市の中心市街地の利用状況（属性別）

		合計	ほぼ毎日	週に2～3回	週に1回程度	月に数回	月に1～2回程度	年に数回程度	ほとんど行かない	不明
全体		325	14	10	15	20	37	41	183	5
		100.0 %	4.3 %	3.1 %	4.6 %	6.2 %	11.4 %	12.6 %	56.3 %	1.5 %
性別	男性	56	1	4	2	5	7	5	32	0
		100.0 %	1.8 %	7.1 %	3.6 %	8.9 %	12.5 %	8.9 %	57.1 %	0.0 %
	女性	268	13	6	13	15	30	36	151	4
		100.0 %	4.9 %	2.2 %	4.9 %	5.6 %	11.2 %	13.4 %	56.3 %	1.5 %
年齢別	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
	10歳代	18	1	2	1	1	1	3	9	0
	20歳代	100.0 %	5.6 %	11.1 %	5.6 %	5.6 %	5.6 %	16.7 %	50.0 %	0.0 %
	30歳代	121	5	3	8	10	16	17	60	2
	40歳代	100.0 %	4.1 %	2.5 %	6.6 %	8.3 %	13.2 %	14.0 %	49.6 %	1.7 %
	50歳代	148	7	4	5	8	15	19	88	2
	60歳代	100.0 %	4.7 %	2.7 %	3.4 %	5.4 %	10.1 %	12.8 %	59.5 %	1.4 %
	70歳代	37	1	1	1	1	5	2	26	0
	以上	100.0 %	2.7 %	2.7 %	2.7 %	2.7 %	13.5 %	5.4 %	70.3 %	0.0 %
居住地別	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	深谷市内	198	14	10	12	15	27	27	89	4
		100.0 %	7.1 %	5.1 %	6.1 %	7.6 %	13.6 %	13.6 %	44.9 %	2.0 %
	深谷市外	123	0	0	3	5	9	14	92	0
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	2.4 %	4.1 %	7.3 %	11.4 %	74.8 %	0.0 %
居住地別	不明	4	0	0	0	0	1	0	2	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	25.0 %	0.0 %	50.0 %	25.0 %

5) 深谷市の中心市街地を利用しない理由

中心市街地へ行く用事がないことが、衰退の要因として考えられる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）

中心市街地を利用しない理由として、行く用事がないが 65.8%となっている。その他には、魅力あるお店が少ないが 19.7%、駐車場が少ないが 9.2%となっている。

属性別にみると、特に深谷市外居住者や 10 歳代・20 歳代の若者が行く用事がないと回答しており、10 歳代・20 歳代の若者は娯楽施設がないや魅力あるお店が少ないが、利用しない理由としてあげられる。

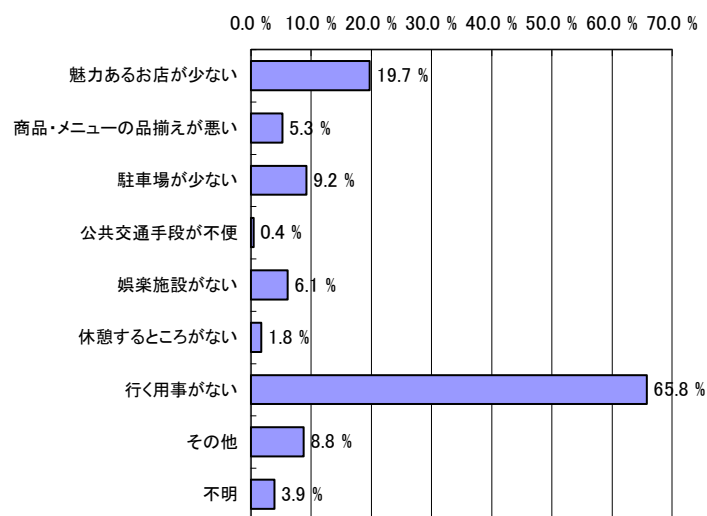


表 深谷市の中心市街地の利用状況（属性別）

		合計	魅力ある お店が少 ない	商品・メ ニューの 品揃えが 悪い	駐車場が 少ない	公共交 通手段が不 便	娯楽施設 がない	休憩する ところ がない	行く用事 がない	その他	不明
全体		228	45	12	21	1	14	4	150	20	9
		100.0 %	19.7 %	5.3 %	9.2 %	0.4 %	6.1 %	1.8 %	65.8 %	8.8 %	3.9 %
性別	男性	37	10	3	5	0	5	1	24	1	1
		100.0 %	27.0 %	8.1 %	13.5 %	0.0 %	13.5 %	2.7 %	64.9 %	2.7 %	2.7 %
	女性	191	35	9	16	1	9	3	126	19	8
		100.0 %	18.3 %	4.7 %	8.4 %	0.5 %	4.7 %	1.6 %	66.0 %	9.9 %	4.2 %
年齢別	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
	10歳代	13	2	1	0	0	3	0	10	0	1
		100.0 %	15.4 %	7.7 %	0.0 %	0.0 %	23.1 %	0.0 %	76.9 %	0.0 %	7.7 %
年齢別	20歳代	77	21	4	9	0	9	2	48	7	3
		100.0 %	27.3 %	5.2 %	11.7 %	0.0 %	11.7 %	2.6 %	62.3 %	9.1 %	3.9 %
	30歳代	109	18	6	9	1	1	2	73	11	3
		100.0 %	16.5 %	5.5 %	8.3 %	0.9 %	0.9 %	1.8 %	67.0 %	10.1 %	2.8 %
年齢別	40歳代	29	4	1	3	0	1	0	19	2	2
		100.0 %	13.8 %	3.4 %	10.3 %	0.0 %	3.4 %	0.0 %	65.5 %	6.9 %	6.9 %
	50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
居住地別	60歳代	118	31	12	12	1	10	2	72	8	4
		100.0 %	26.3 %	10.2 %	10.2 %	0.8 %	8.5 %	1.7 %	61.0 %	6.8 %	3.4 %
	70歳代	108	14	0	9	0	4	2	76	12	5
		100.0 %	13.0 %	0.0 %	8.3 %	0.0 %	3.7 %	1.9 %	70.4 %	11.1 %	4.6 %
居住地別	不明	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %

（複数回答）

6) 中心市街地を利用する目的

中心市街地の利用目的は、買物と公共サービスの利用が多い。

中心市街地を利用する理由としては、買物が 38.4%と最も多く、次いで公共サービス（官公庁、金融機関など）が 28.3%となっている。

属性別にみると、深谷市内居住者や 30 歳代・40 歳代で公共サービスの利用が多くなっており、買物以外には市民の生活の場として中心市街地の利用が多くみられる。

図 深谷市の中心市街地の利用状況（全体）

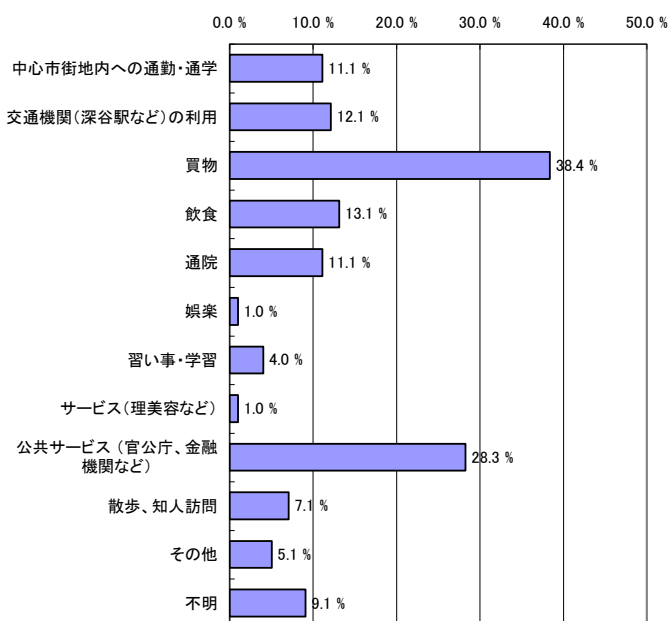


表 深谷市の中心市街地の利用状況（属性別）

		合計	中心市街地内への通勤・通学	交通機関(深谷駅など)の利用	買物	飲食	通院	娯楽	習い事・学習	サービス(理美容など)	公共サービス(官公庁、金融機関など)	散歩、知人訪問	その他	不明
全体		99	11	12	38	13	11	1	4	1	28	7	5	9
		100.0 %	11.1 %	12.1 %	38.4 %	13.1 %	11.1 %	1.0 %	4.0 %	1.0 %	28.3 %	7.1 %	5.1 %	9.1 %
	男性	19	3	1	11	7	2	1	0	1	4	0	0	2
		100.0 %	15.8 %	5.3 %	57.9 %	36.8 %	10.5 %	5.3 %	0.0 %	5.3 %	21.1 %	0.0 %	0.0 %	10.5 %
性別	女性	80	8	11	27	6	9	0	4	0	24	7	5	7
		100.0 %	10.0 %	13.8 %	33.8 %	7.5 %	11.3 %	0.0 %	5.0 %	0.0 %	30.0 %	8.8 %	6.3 %	8.8 %
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
年齢別	10歳代	6	1	1	3	1	1	0	0	1	0	1	0	0
		100.0 %	16.7 %	16.7 %	50.0 %	16.7 %	16.7 %	0.0 %	0.0 %	16.7 %	0.0 %	16.7 %	0.0 %	0.0 %
	20歳代	44	4	5	15	2	4	1	2	0	19	3	2	4
		100.0 %	9.1 %	11.4 %	34.1 %	4.5 %	9.1 %	2.3 %	4.5 %	0.0 %	43.2 %	6.8 %	4.5 %	9.1 %
	30歳代	40	5	5	16	6	4	0	1	0	6	2	3	5
		100.0 %	12.5 %	12.5 %	40.0 %	15.0 %	10.0 %	0.0 %	2.5 %	0.0 %	15.0 %	5.0 %	7.5 %	12.5 %
	40歳代	9	1	1	4	4	2	0	1	0	3	1	0	0
		100.0 %	11.1 %	11.1 %	44.4 %	44.4 %	22.2 %	0.0 %	11.1 %	0.0 %	33.3 %	11.1 %	0.0 %	0.0 %
	50歳代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
居住地別	深谷市内	81	10	11	29	9	10	1	4	1	27	5	4	7
		100.0 %	12.3 %	13.6 %	35.8 %	11.1 %	12.3 %	1.2 %	4.9 %	1.2 %	33.3 %	6.2 %	4.9 %	8.6 %
	深谷市外	17	1	1	8	4	1	0	0	0	1	2	1	2
		100.0 %	5.9 %	5.9 %	47.1 %	23.5 %	5.9 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	5.9 %	11.8 %	5.9 %	11.8 %
不明		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %

(複数回答)

7) 今後の中心市街地の方向性

今後の方向性として、買物だけではなく、生活の場、高齢者等も暮らしやすい場所が求められる。

今後の中心市街地の方向性としては、「魅力的なお店があって、楽しい買い物ができるまち」が48.3%と最も多く、次いで「医療や子育て・福祉、買い物サービスが充実したまち」が30.2%、「公共交通や歩道が整備され、高齢者や障がい者が暮らしやすいまち」が24.6%となっている。商業の活性化とともに、生活サービスの充実や高齢者等への対応が求められます。

図 今後の中心市街地の方向性（全体）

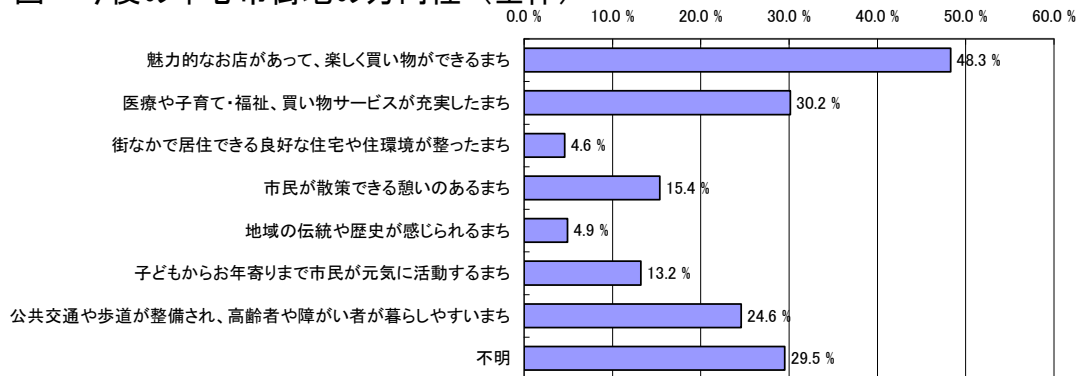


表 今後の中心市街地の方向性（属性別）

		合計	魅力的なお店が あって、 楽しく買 い物がで きるまち	医療や子 育て・福 祉、買い 物サービ スが充実 したまち	街なかで 居住でき る良好な 住宅や住 環境が 整ったま ち	市民が散 策できる 憩いのあるまち	地域の伝 統や歴史 が感じら れるまち	子どもか らお年寄 りまで市 民が元気 に活動す るまち	公共交通 や歩道が 整備され、 高齢者や 障がい者 が暮らし やすいまち	不明
性 別	全体	325	157	98	15	50	16	43	80	96
		100.0 %	48.3 %	30.2 %	4.6 %	15.4 %	4.9 %	13.2 %	24.6 %	29.5 %
	男性	56	27	14	4	14	4	6	20	14
		100.0 %	48.2 %	25.0 %	7.1 %	25.0 %	7.1 %	10.7 %	35.7 %	25.0 %
性 別	女性	268	130	84	11	36	12	37	60	81
		100.0 %	48.5 %	31.3 %	4.1 %	13.4 %	4.5 %	13.8 %	22.4 %	30.2 %
	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
年 齢 別	10歳代	18	10	9	1	4	0	4	8	3
	20歳代	100.0 %	55.6 %	50.0 %	5.6 %	22.2 %	0.0 %	22.2 %	44.4 %	16.7 %
	30歳代	121	68	60	7	16	8	19	28	26
	40歳代	100.0 %	56.2 %	49.6 %	5.8 %	13.2 %	6.6 %	15.7 %	23.1 %	21.5 %
	50歳代	148	67	27	6	27	7	17	39	49
	60歳代	100.0 %	45.3 %	18.2 %	4.1 %	18.2 %	4.7 %	11.5 %	26.4 %	33.1 %
	70歳代 以上	37	12	2	1	3	1	3	5	17
		100.0 %	32.4 %	5.4 %	2.7 %	8.1 %	2.7 %	8.1 %	13.5 %	45.9 %
居 住 地 別	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	45.9 %
	深谷市内	198	107	70	10	33	8	33	52	44
		100.0 %	54.0 %	35.4 %	5.1 %	16.7 %	4.0 %	16.7 %	26.3 %	22.2 %
居 住 地 別	深谷市外	123	48	27	5	17	8	10	27	50
		100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %
	不明	4	2	1	0	0	0	0	1	2
		100.0 %	54.0 %	35.4 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	26.3 %	22.2 %

（複数回答）

